



新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における自殺の状況

2021年12月

神奈川県

1	2020(令和2)年の自殺の概況の見える化	
(1)	全体概況	4
(2)	男性の概況	26
(3)	女性の概況	42
(4)	著名人の自殺及び自殺報道の影響	58
2	女性の自殺者の増加	64
3	学生・生徒等の自殺者の増加	83
4	【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況	92

付録

- i 年齢階級別自殺者数の状況
- ii 他県と比較した本県の自殺者数の状況
- iii 自殺対策に関する参考統計資料

はじめに

- 本県においては、自殺者数が近年減少傾向を続けていたが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した2020(令和2)年は大きく増加した。
- 本県では、「かながわ自殺対策計画(2018年度～2022年度)」に基づく様々な取組のほか、コロナ禍における自殺対策として、こころの相談窓口の拡充や、相談につなげるための普及啓発の強化、ゲートキーパーの育成等の取組を進めてきたが、今後一層、対策を強化するためには、本県の自殺の状況の詳細な把握と、それに基づく効果的な対策の検討が必要である。
- そこで、このたび、2020年の自殺者の増加の状況や要因について、警察庁の自殺統計を活用し、詳細分析を行った。
- なお、分析は2020年の自殺者で特徴的な以下の点について行った。
 - 1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化
 - 2 女性の自殺者の増加
 - 3 学生・生徒等の自殺者の増加
- さらに、コロナ禍におけるこころの相談状況について、SNS相談実績を集計することにより把握した。

【利用上の注意】

- 文中、警察庁「自殺統計」とは、神奈川県警察本部から提供された自殺統計原票に基づく集計データを指す。
- 特に注釈のない限り、自殺統計のうち神奈川県分の発見日・発見地集計を利用している。
- ただし、1年を12か月で分けて月別自殺者の特徴をみる際には、自殺月で集計している。また、上半期・下半期に区分した際も自殺月で集計している。いずれも、年齢は発見日年齢で集計している。
- 年区分は、1月1日から12月31日までの暦年集計である。また、1月～6月を上半期、7月～12月を下半期としている。
- 2020年の状況を分析するために、自殺統計の多くのデータを2020年と過去5年平均値や過去10年平均値と比較している。過去5年平均は、2015年～2019年の実数を単純平均したものであり、また、過去10年平均を用いている場合は、2011年～2019年の実数を単純平均したものである。
- 図表表記の際に、平均した値に小数がある場合は、表記単位未満を四捨五入して表記している。そのため、構成比の合計が100%とならない場合がある。
- 計数が小さい項目は、増減や増減率が大きく変動する可能性があることや偶然である可能性を否定できないことに留意が必要である。
- 本稿では、自殺統計の職業分類を右図のとおり整理して掲載している。無職者のうち「その他無職者」は主婦と失業者以外の者とし、また、学生・生徒等は無職者に含めていない。

職業分類	
有職者	自営業・家族従業者
	被雇用者・勤め人
無職者	主婦
	失業者
	その他無職者
	学生・生徒等
	不詳

1 (1) 全体概況

1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化

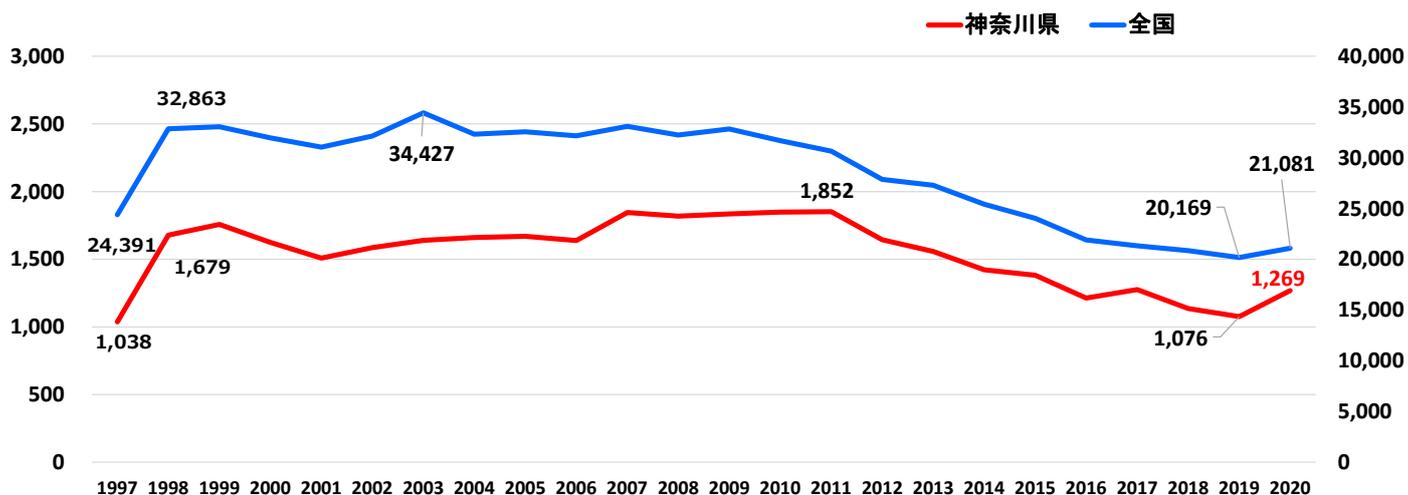
(1) 全体概況

図表11-01

自殺者数の推移(神奈川県と全国の推移)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)全国は右軸

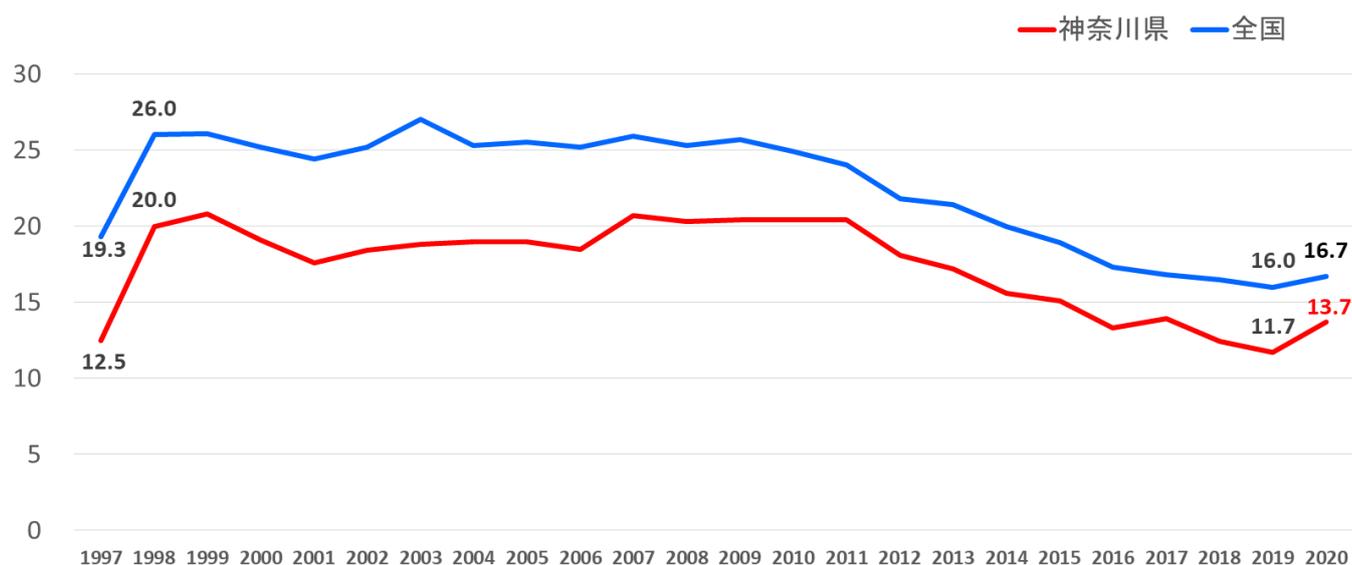
- 本県の自殺者数は、全国の動向と同様に、1997年から1998年に急増し、1,038人から1,679人と、1年で641人(61.8%)の増加となった。
- その後、2007年から1,800人台で推移し、2011年は、2007年以降最も多い1,852人となったが、2012年以降は減少傾向となり、2019年は1,076人と、1997年以降2番目に少ない人数となった。
- 2020年は前年より193人(17.9%)増加し、1,269人となった。

図表11-02

自殺死亡率の推移(神奈川県と全国の推移)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺死亡率:人口10万人当たりの自殺死亡者数。

死亡率の算出に用いた人口は、国勢調査実施年は総務省国勢調査人口等基本集計結果、それ以外は総務省人口推計年報(各年10月1日現在)による。2020年は令和2年国勢調査結果(令和3年11月30日公表)による。

- 本県の人口10万人当たりの自殺者数(以下「自殺死亡率」という。)の推移については、全国の動向と同様に、1997年から1998年に急増し、12.5から20.0と1年で7.5ポイント上昇した。
- その後、2012年以降低下傾向となり、2019年は11.7と、1997年以降最小となったが、2020年は前年より2.0ポイント上昇し、13.7となった。

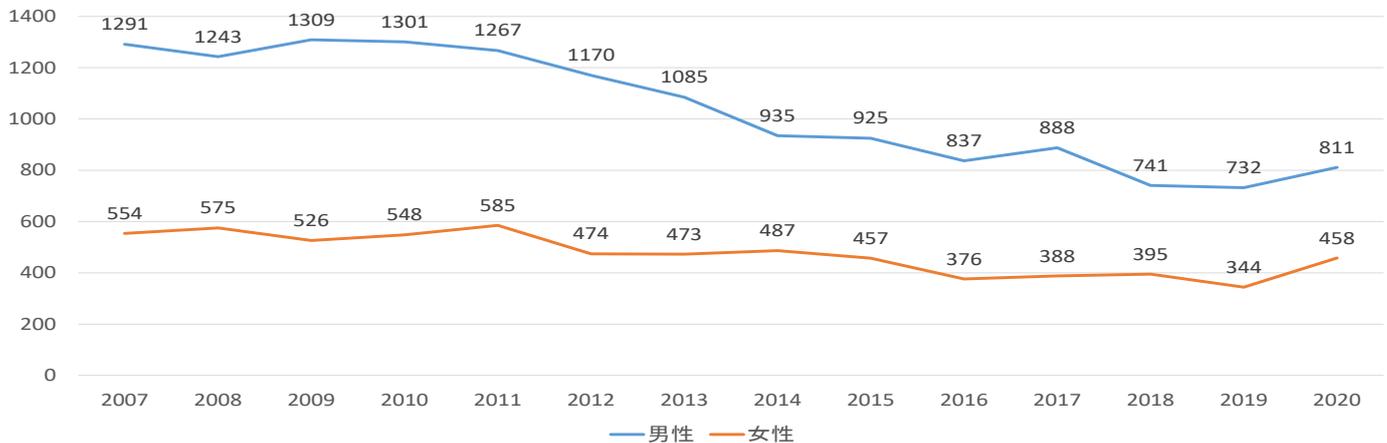
1 (1) 全体概況

図表11-03

男女別自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



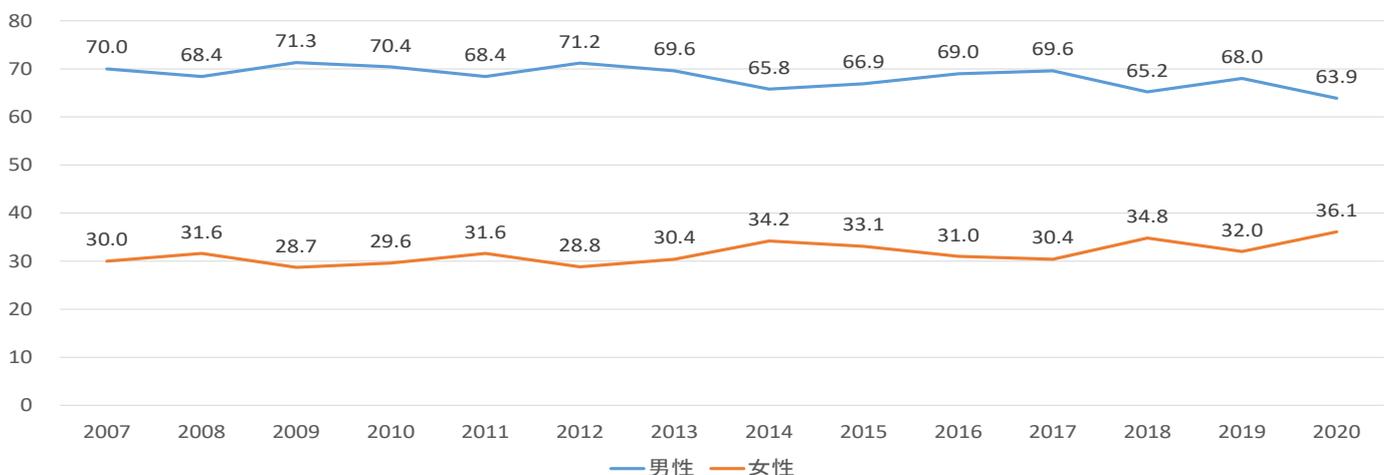
- 男女別自殺者数の推移をみると、男性の自殺者数は、2007年以降、2009年が最多で1,309人、2019年が最少で732人であり、この間、577人と、大きく減少したが、2020年は前年比で79人(10.8%)増加し、811人となった。
- 女性の自殺者数は、2007年~2011年が500人台、2012年~2015年が400人台で推移し、2016年~2019年が300人台となったが、2020年は前年比で114人(33.1%)増加し、458人となった。

図表11-04

男女別自殺者数の構成比の推移(2007年~2020年)

単位:%

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

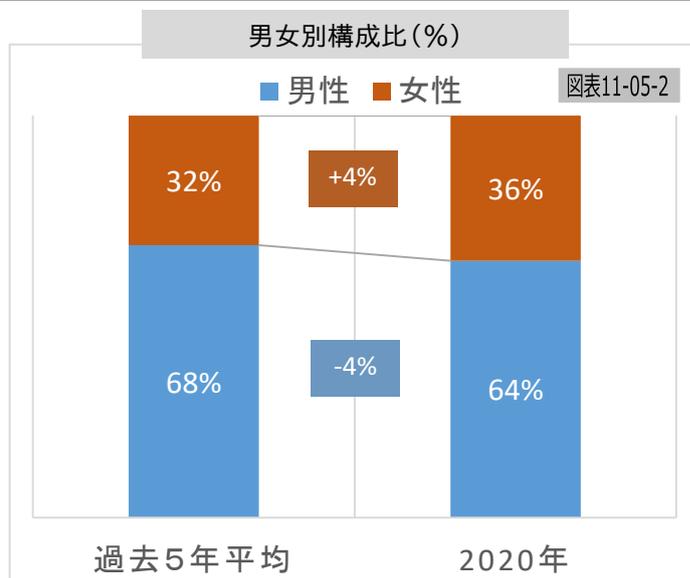
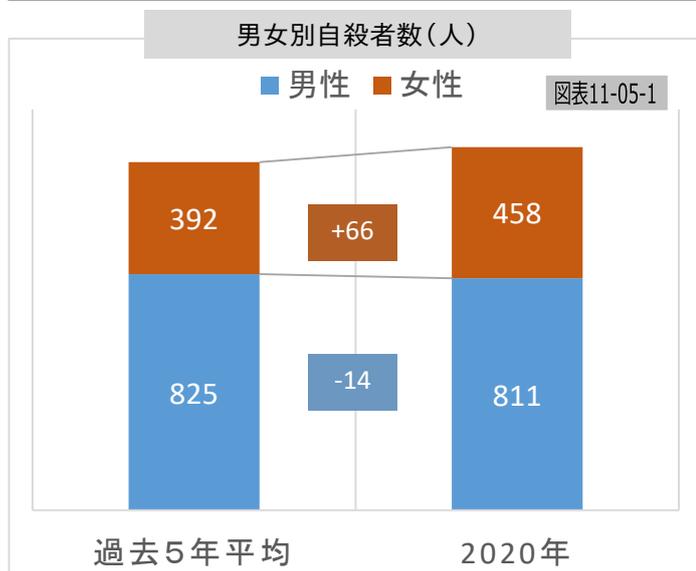


- 自殺者数の男女別構成比は、おおむね男性が7割、女性が3割の比率で推移してきたが、2020年は、女性の比率が上昇し、36.1%と2007年以降最大となった。

図表11-05

男女別自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



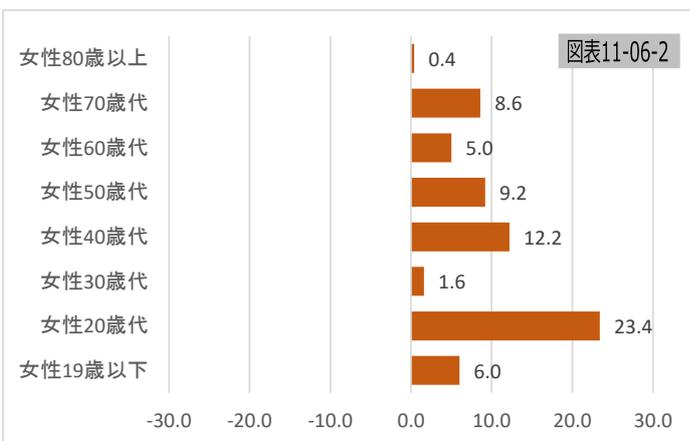
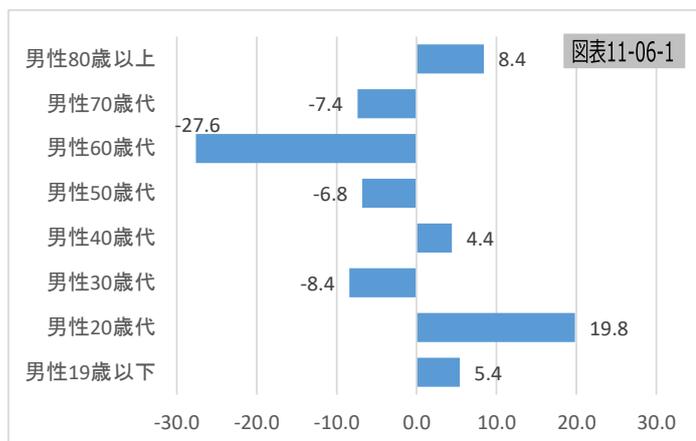
- 男女別自殺者数を過去5年平均と比較すると、2020年は、男性は14人の減少、女性は66人の増加であり、総数では52人増加した(図表11-05-1)。
- また、男女別構成比では、過去5年平均と比較して、2020年は女性の比率が4ポイント上昇した(図表11-05-2)。

図表11-06

男女別、年齢階級別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の年齢階級別自殺者数を過去5年平均と比較すると、男性は4区分で増加し、4区分で減少した。最も増加した区分は「20歳代」で19.8人の増加、また、最も減少した区分は「60歳代」で27.6人の減少となった(図表11-06-1)。
- 女性は、「20歳代」で最も増加し、23.4人の増加、次いで、「40歳代」で12.2人の増加となるなど、すべての区分で増加となった(図表11-06-2)。

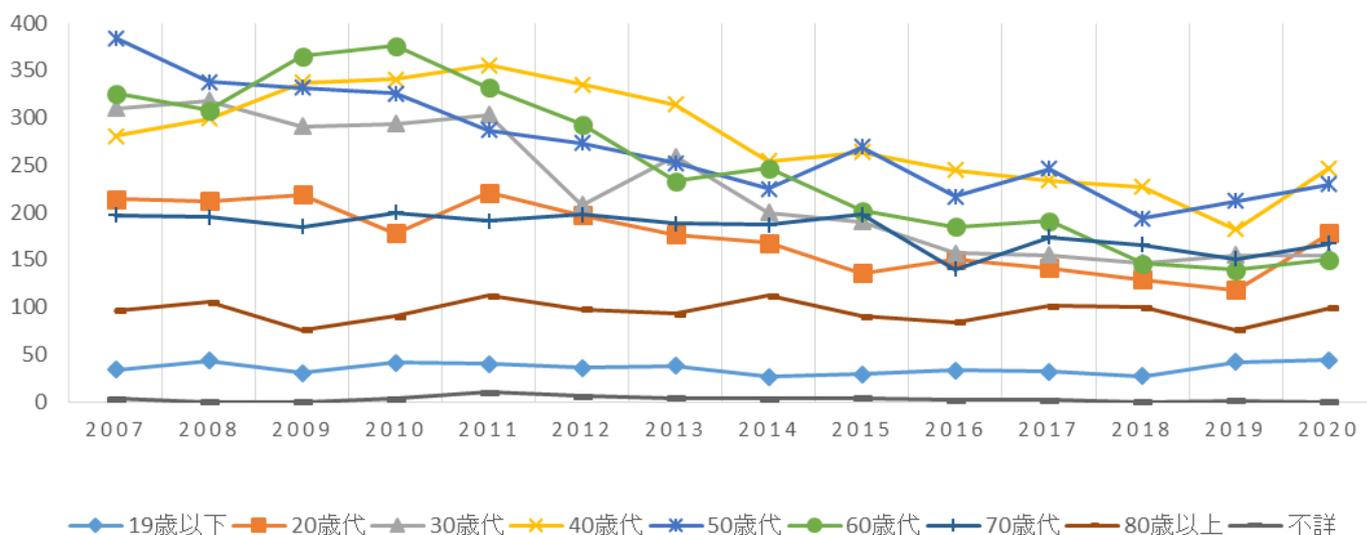
1 (1) 全体概況

図表11-07

年齢階級別自殺者数の推移(2007年~2020年)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



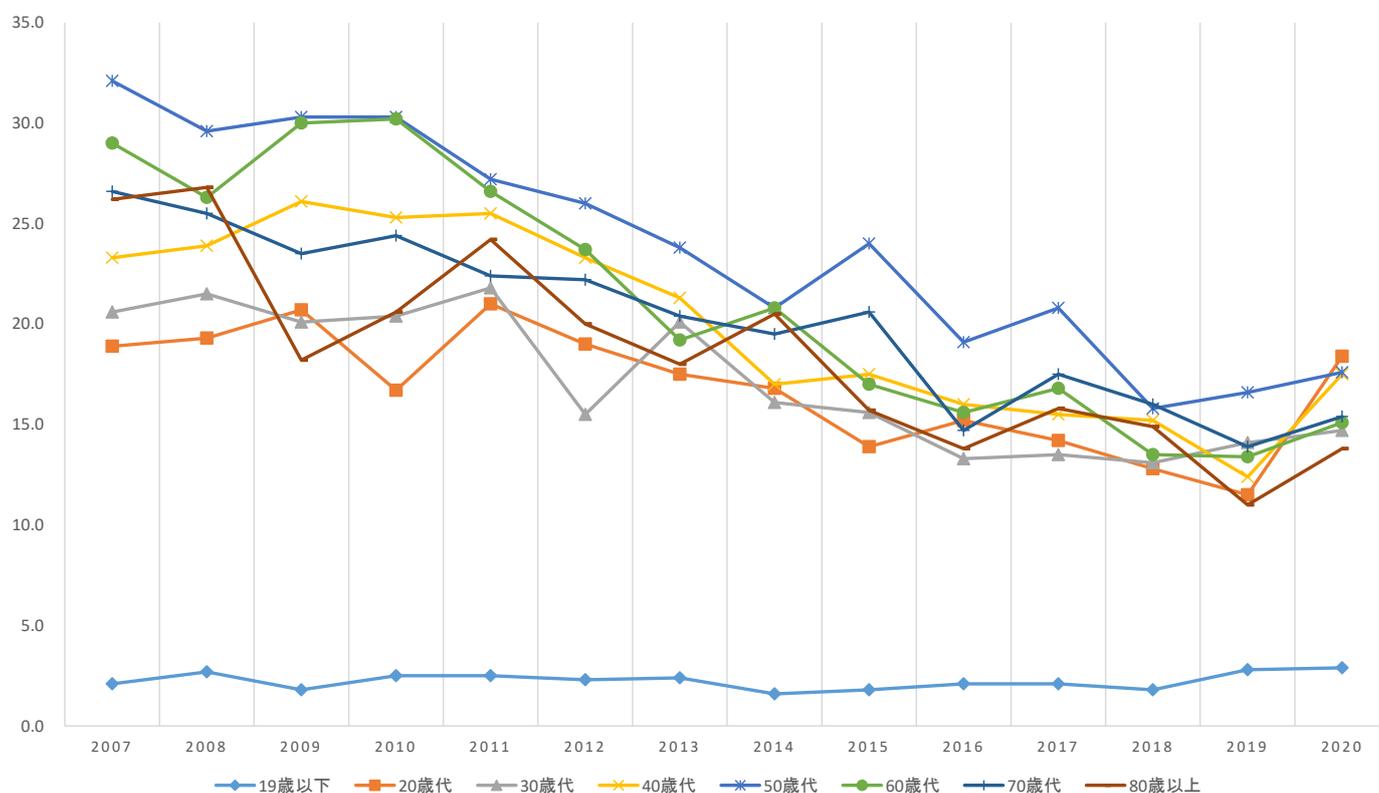
- 年齢階級別自殺者数の推移をみると、2007年以降、「20歳代~70歳代」はおおむね減少傾向、「19歳以下」と「80歳以上」はほぼ横ばいで推移してきたが、2020年は、「30歳代」を除くすべての年代で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「40歳代」と「20歳代」であった。

図表11-08

年齢階級別自殺死亡率の推移(2007年~2020年)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺死亡率:人口10万人当たりの自殺死亡者数。

年齢不詳は除外している。

死亡率の算出に用いた人口は、国勢調査実施年は総務省国勢調査人口等基本集計結果、それ以外は総務省人口推計年報(各年10月1日現在)による。2020年は令和2年国勢調査結果(令和3年11月30日公表)による。

- 年齢階級別自殺死亡率の推移をみると、2007年以降、「19歳以下」は、ほぼ横ばいで推移し、その他の年代はおおむね減少傾向であったが、2020年は、「19歳以下」を除くすべての年代で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「20歳代」と「40歳代」であった。

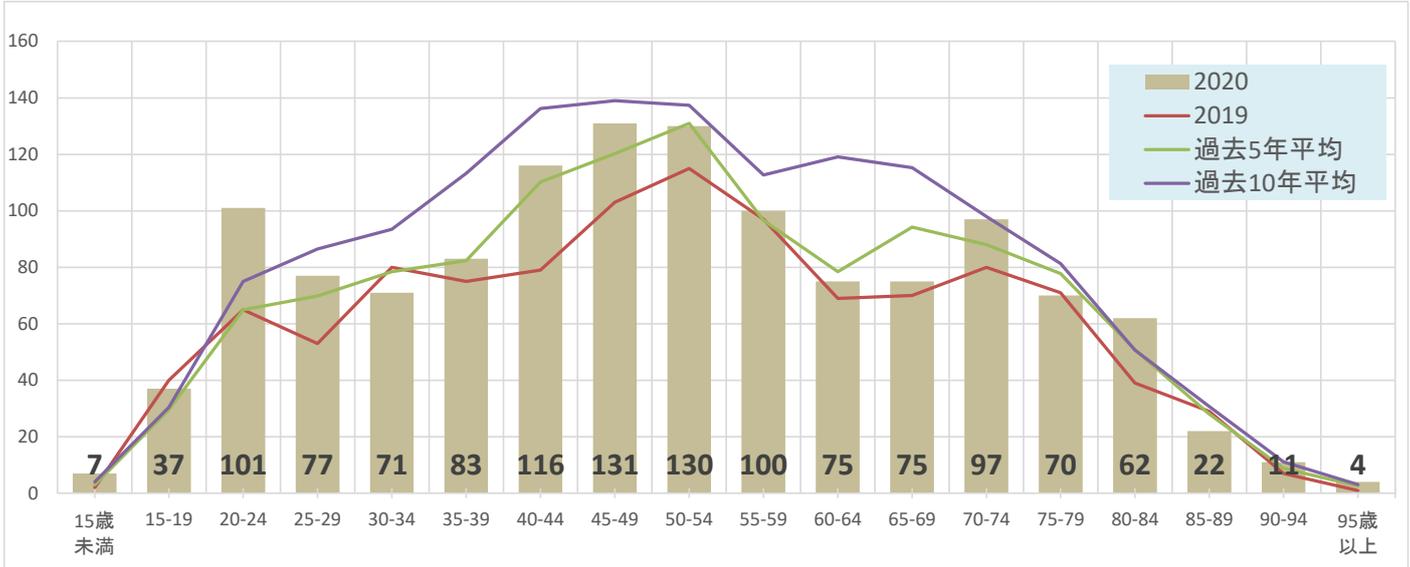
1 (1) 全体概況

図表11-09

年齢階級別自殺者数(2020年と過去5年・10年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳は除外している。

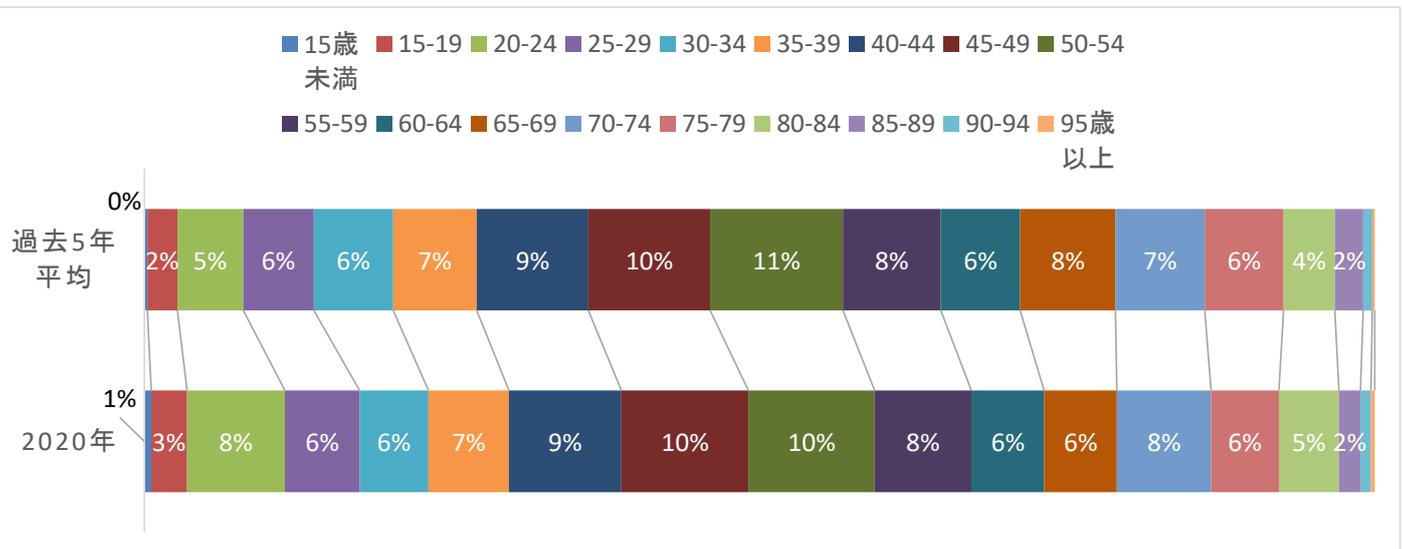
- 2020年の自殺者数(男女計)について、年齢階級別で見ると、「50歳代前後」が最も多く、この階級を中心に山型になっている。また、「20歳代」、「70歳代」と3つの山が見られる。
- 特に「20歳代前半」が、過去10年平均、過去5年平均を大きく上回っていることが特徴的である。

図表11-10

年齢階級別自殺者数の構成比(2020年と過去5年平均との比較)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳は除外している。

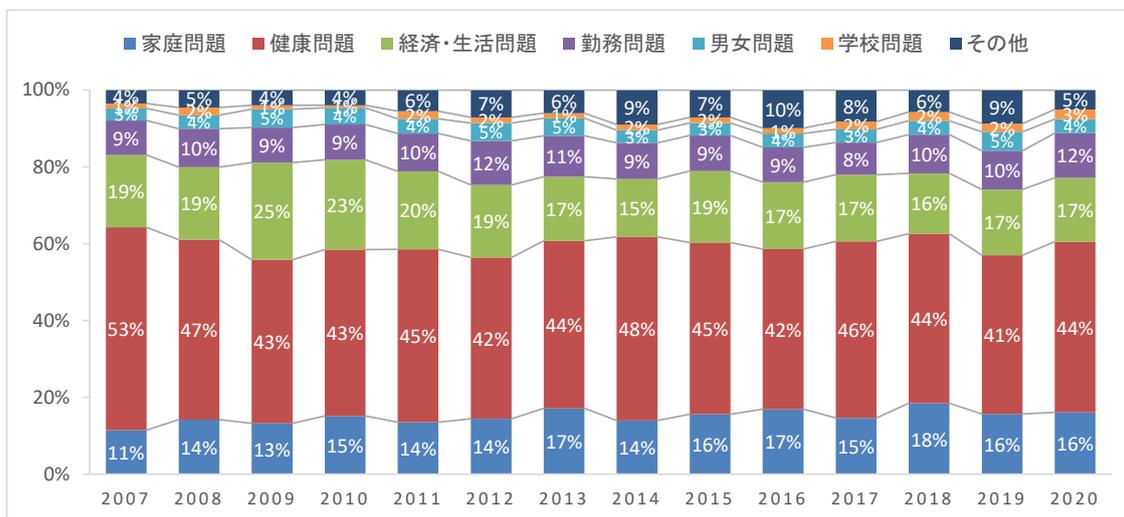
- 2020年の年齢階級別自殺者数の構成比を過去5年平均と比較すると、「20～24歳」が3ポイントと最も上昇した。

図表11-11

原因・動機別自殺者数の構成比の推移(2007年～2020年)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

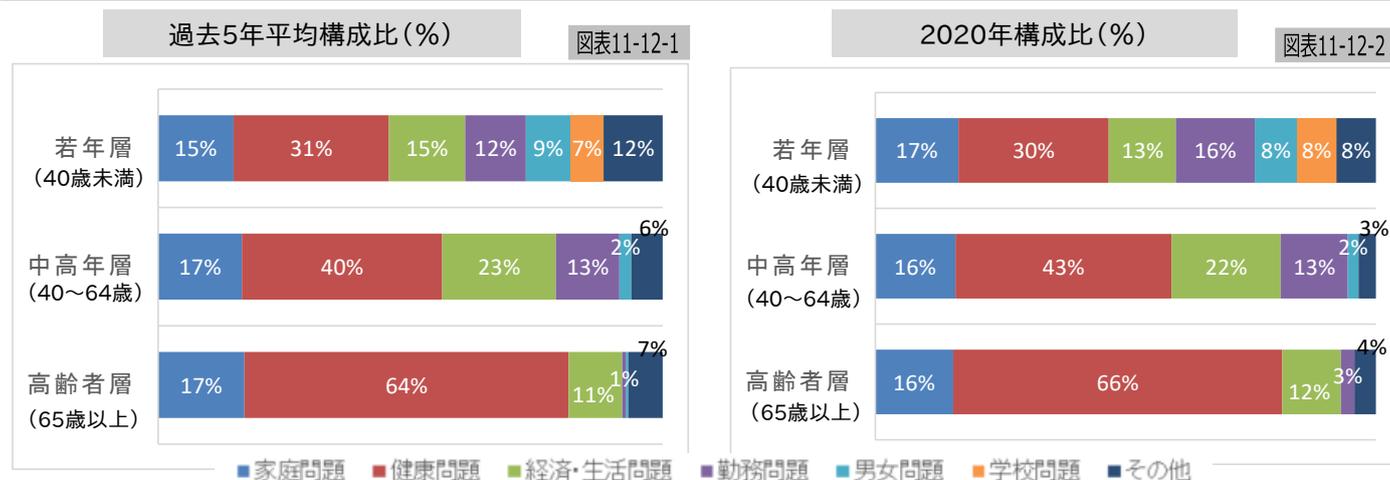
- 原因・動機別構成比の推移をみると、最も多い「健康問題」は2008年以降40%台で推移しており、次いで、「経済・生活問題」が15～25%、「家庭問題」が10%台、「勤務問題」が8～12%で推移している。2020年は「勤務問題」が12%で、例年と比較して、高水準となっている。

図表11-12

年齢階級別、原因・動機別自殺者数の構成比比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 年齢階級別に原因・動機別構成比を過去5年平均と比較すると、2020年は「若年層」では、「勤務問題」が4ポイントと最も上昇した(図表11-12-1,図表11-12-2)。
- 「中高年層」では、「健康問題」が3ポイントと最も上昇した(図表11-12-1,図表11-12-2)。
- 「高齢者層」では、「健康問題」と「勤務問題」が2ポイントずつ上昇した(図表11-12-1,図表11-12-2)。

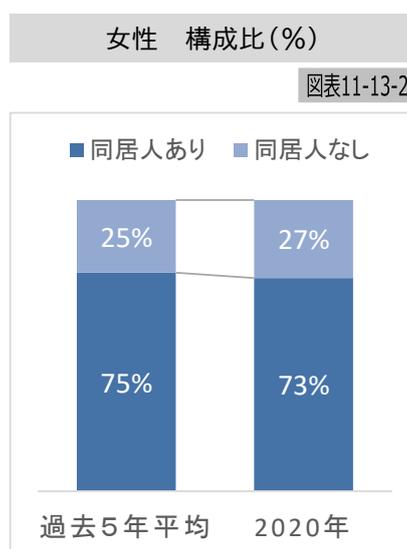
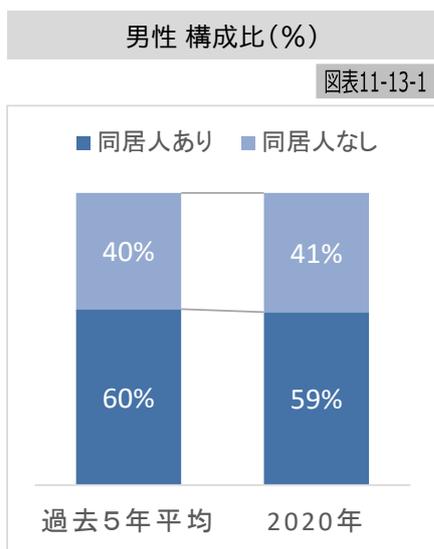
1 (1) 全体概況

図表11-13

男女別、同居人の有無別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

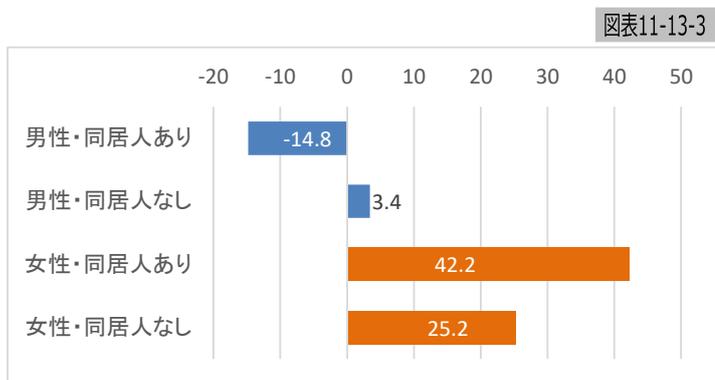
(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

同居人の有無別自殺者の構成比比較



注)男女とも同居人の有無の「不詳」の構成比は1%未満。

同居人の有無別自殺者数増減比較



図表11-13-4

		過去5年平均	2020年	増減	増減率
男性	同居人あり	492.8	478	-14.8	-3%
	同居人なし	325.6	329	3.4	1%
女性	同居人あり	292.8	335	42.2	14%
	同居人なし	97.8	123	25.2	26%

注)同居人不詳は除外している。

- 男女別・同居人の有無別自殺者数の構成比を過去5年平均でみると、男性の「同居人あり」は60%で、「同居人なし」が40%である。2020年は、過去5年平均と比べて、「同居人なし」が1ポイント上昇した(図表11-13-1)。
- 女性は、過去5年平均では、「同居人あり」が75%で、「同居人なし」が25%である。2020年は、過去5年平均と比べて、「同居人なし」が2ポイント上昇した(図表11-13-2)。
- なお、過去5年平均と自殺者数で比較すると、2020年は、男性は「同居人あり」が14.8人の減少、「同居人なし」が3.4人の増加となったが、女性は「同居人あり」「同居人なし」がそれぞれ42.2人、25.2人と、ともに増加した(図表11-13-3,図表11-13-4)。

図表11-14

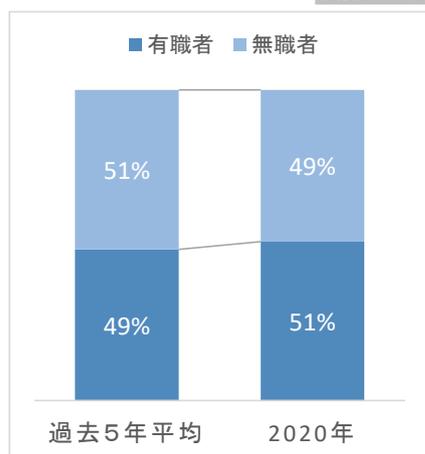
男女別、職業有無別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

職業有無別自殺者の構成比比較

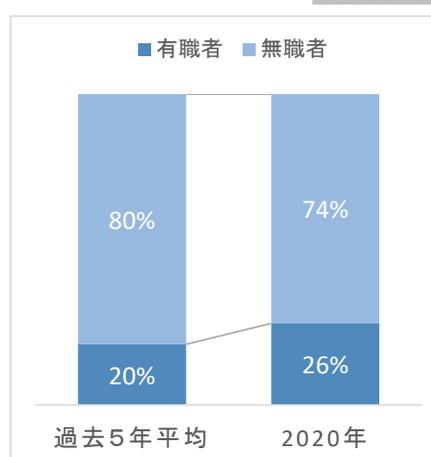
男性 構成比 (%)

図表11-14-1



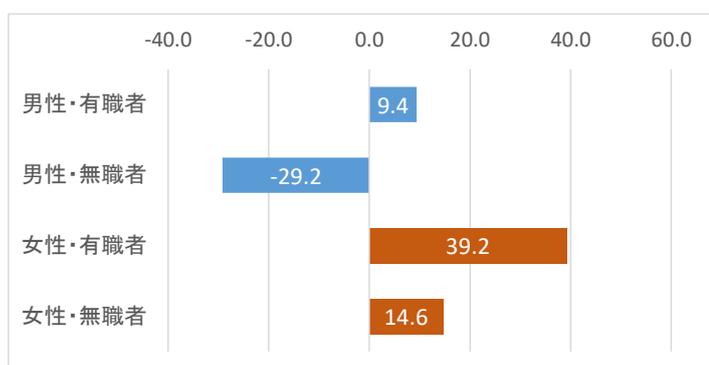
女性 構成比 (%)

図表11-14-2



職業有無別自殺者数増減比較

図表11-14-3



図表11-14-4

		過去5年平均	2020年	増減	増減率
男性	有職者	374.6	384	9.4	3%
	無職者	395.2	366	-29.2	-7%
女性	有職者	72.8	112	39.2	54%
	無職者	299.4	314	14.6	5%

注)職業不詳は除外している。

- 男女別・職業有無別自殺者数の構成比を過去5年平均で見ると、男性の「有職者」は49%、「無職者」は51%で、「無職者」の方が比率が高いが、2020年は、過去5年平均と比較して、「有職者」の比率が2ポイント上昇し、「有職者」の方が「無職者」より比率が高くなった(図表11-14-1)。
- 女性の過去5年平均では、「有職者」は20%、「無職者」は80%で、男性と比較して「無職者」の比率が高い。2020年は、過去5年平均と比較して、「有職者」の比率が6ポイントと大きく上昇した(図表11-14-2)。
- なお、過去5年平均と自殺者数で比較すると、2020年は、男性は「有職者」が9.4人増加し、「無職者」が29.2人減少したが、女性は、「有職者」、「無職者」が、それぞれ39.2人、14.6人と大きく増加した。特に、女性の「有職者」の増加が目立った(図表11-14-3,図表11-14-4)。

1 (1) 全体概況

図表11-15

職業別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

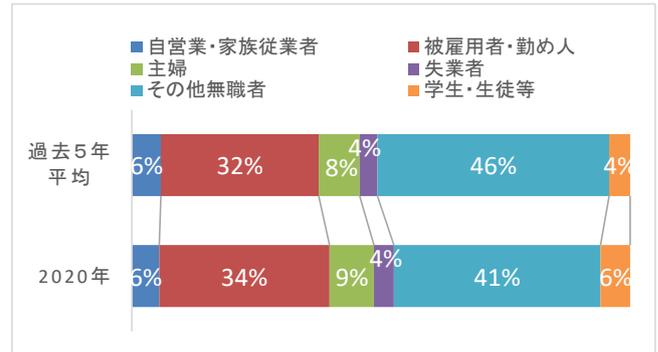
自殺者数(人)

構成比(%)

図表11-15-1

		過去5年平均	2020年	増減数	増減率
有職者	自営業・家族従業者	69.8	69	-0.8	-1%
	被雇用者・勤め人	377.6	427	49.4	13%
無職者	主婦	97.6	112	14.4	15%
	失業者	42.8	50	7.2	17%
	その他無職者	554.2	518	-36.2	-7%
	学生・生徒等	50.4	75	24.6	49%

図表11-15-2



注) 職業不詳は除外している。「その他無職者」は、無職者のうち主婦、失業者を除くもの。

- 2020年の職業別自殺者数をみると、「有職者」では「被雇用者・勤め人」が、「無職者」では、「その他無職者」が最も多くなっている(図表11-15-1)。
- 自殺者数を過去5年平均と比較すると、「有職者」では、「被雇用者・勤め人」が49.4人増と最も増加した。また、「無職者」では、「主婦」が14.4人増と最も増加し、次いで「失業者」が7.2人増となった。また、「学生・生徒等」は24.6人増となった(図表11-15-1)。
- 構成比で見ると、2020年は「被雇用者・勤め人」及び「学生・生徒等」が2ポイント、「主婦」が1ポイント上昇した(図表11-15-2)。

図表11-16

参考 完全失業率と自殺者数の関係(2007年~2020年)

(出典:警察庁「自殺統計」、総務省「労働力調査」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 完全失業率は総務省労働力調査(モデル推定による都道府県別結果、2021年5月28日改定)の神奈川県・年平均値による。

- 本県の完全失業率と2007年~2020年の有職者自殺者数の推移には比例的な関連性がみられる。(関連性の強さを示す相関係数をみると右図の通りであり、最大値の1に近い場合、比例的な強い関連性があるとみられる。)

	相関係数
有職者	0.9295
無職者	0.8918
合計	0.9103

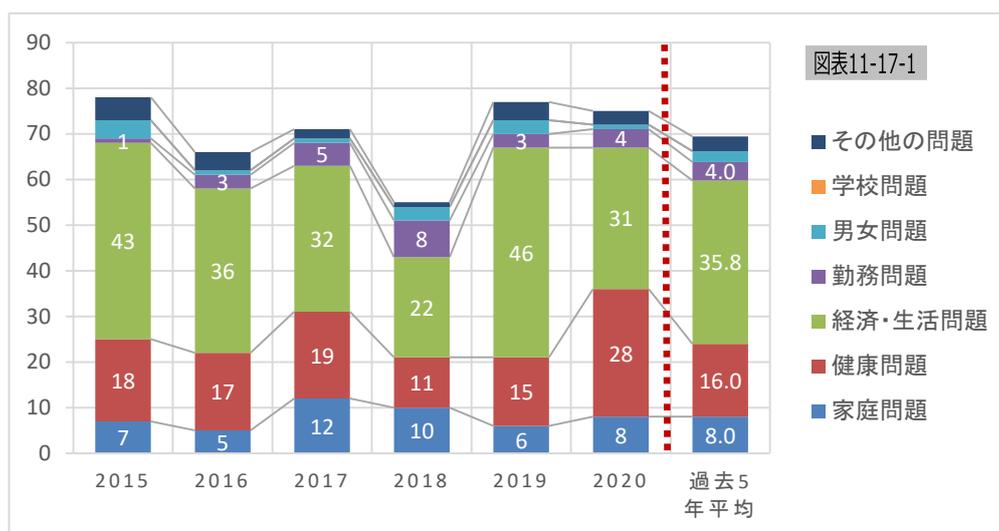
図表11-17

自営業・家族従業者の原因・動機別自殺者数の推移(2020年と過去5年平均との比較)

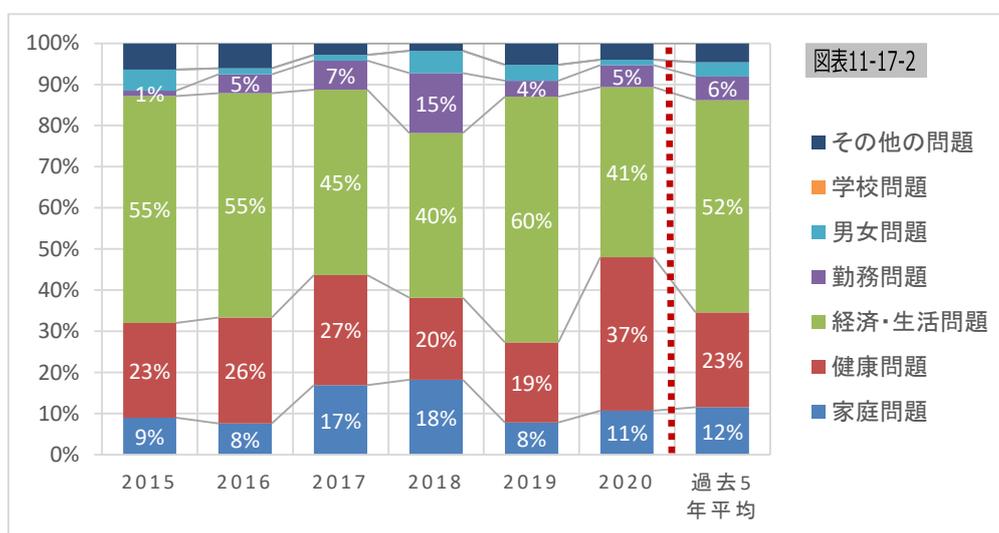
男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数の推移(人)



構成比の推移(%)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 職業別の自殺の原因・動機別の自殺者数の状況を見ると、「自営業・家族従業者」では、2020年は、「経済・生活問題」が最も多く、次いで「健康問題」が多かった(図表11-17-1)。
- なお、過去5年平均と構成比で比較すると、「健康問題」が最も上昇した(図表11-17-2)。

1 (1) 全体概況

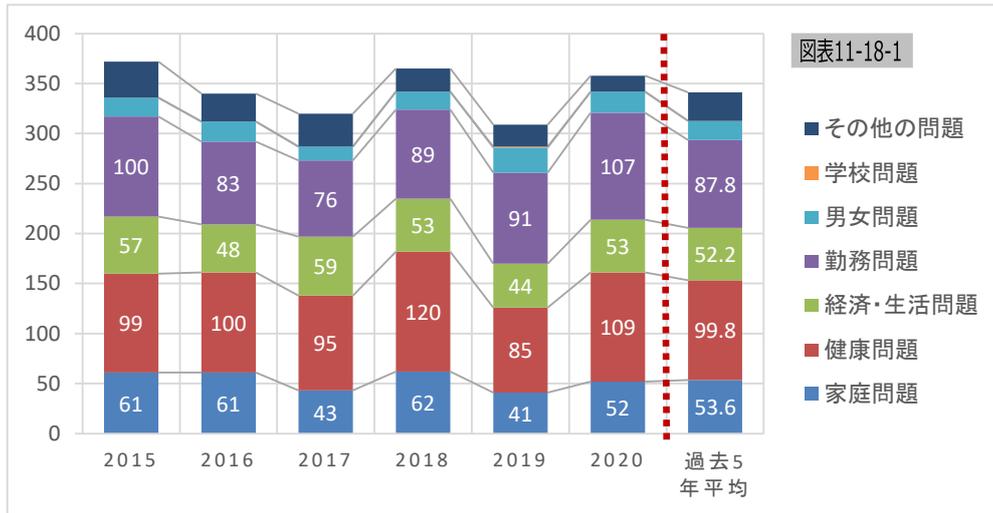
図表11-18

被雇用者・勤め人の原因・動機別自殺者数の推移(2020年と過去5年平均との比較)

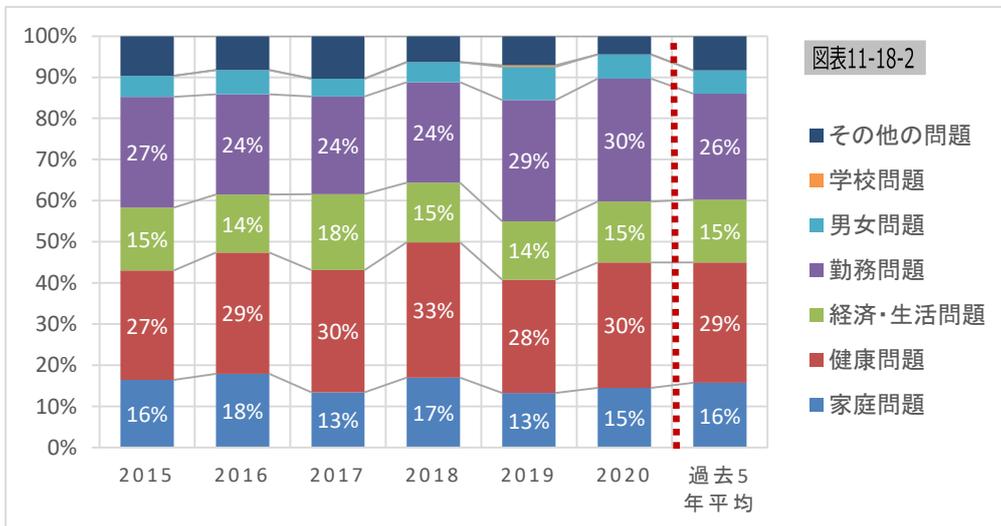
男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数の推移(人)



構成比の推移(%)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 「被雇用者・勤め人」の原因・動機別自殺者数をみると、2020年は、「健康問題」が最も多く、次いで「勤務問題」が多かった(図表11-18-1)。
- なお、過去5年平均と構成比で比較すると、「勤務問題」が最も上昇した(図表11-18-2)。

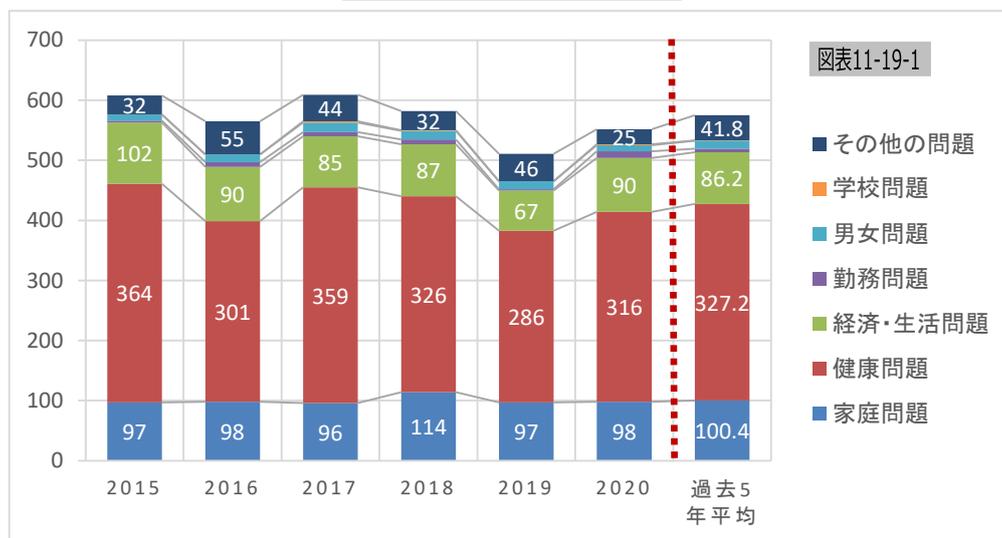
図表11-19

無職者の原因・動機別自殺者数の推移(2020年と過去5年平均との比較)

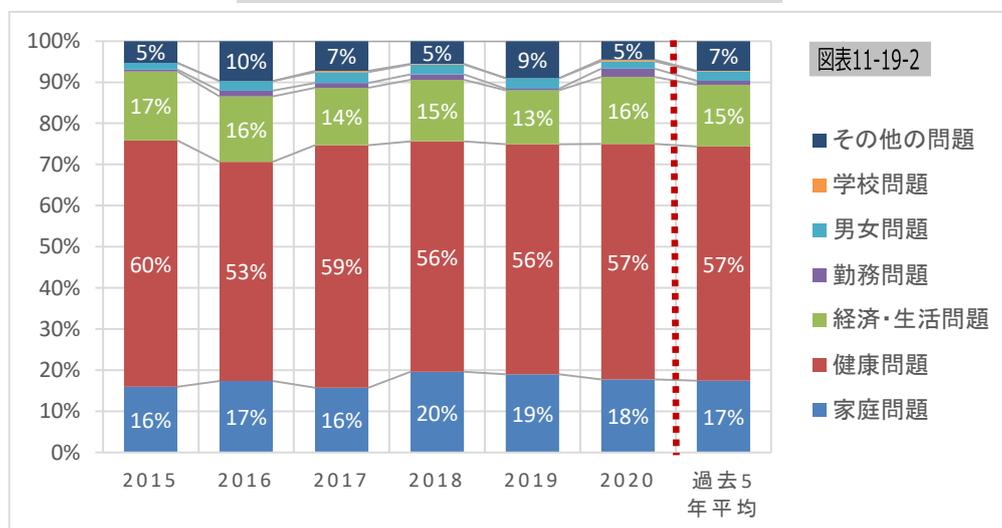
男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数の推移(人)



構成比の推移(%)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

注)「無職者」には、主婦、失業者、利子・配当・家賃等生活者、年金・雇用保険等生活者、浮浪者、その他の無職者含む。(学生・生徒等は含まない。)

- 「無職者」の原因・動機別自殺者数をみると、2020年は、「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」が多かった(図表11-19-1)。
- なお、過去5年平均と構成比で比較すると、「家庭問題」と「経済・生活問題」が1ポイントずつ増加した(図表11-19-2)。

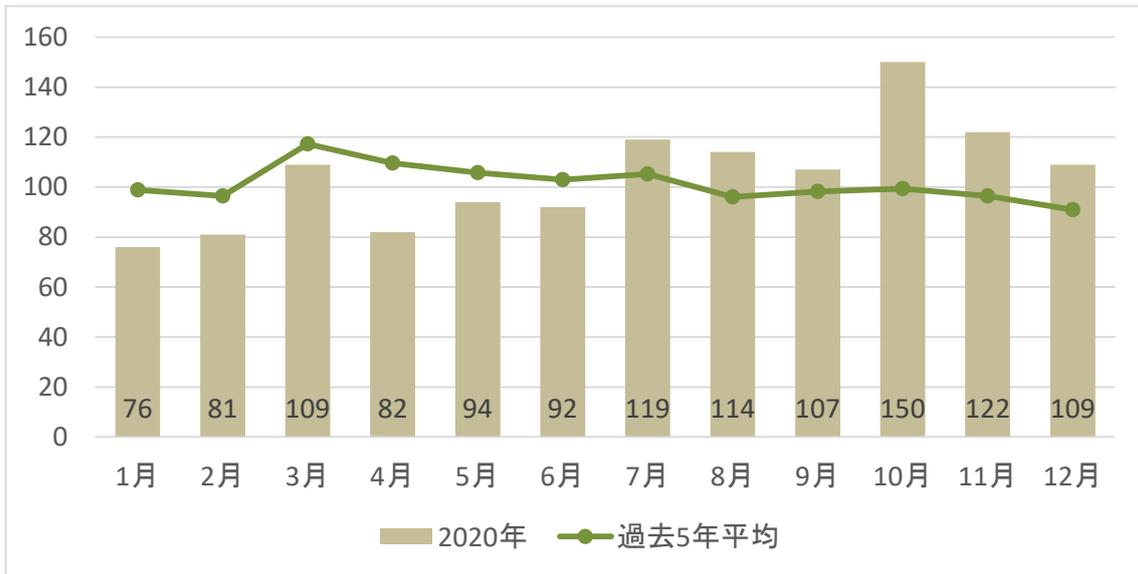
1 (1) 全体概況

図表11-20

月別自殺者数の比較 (2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

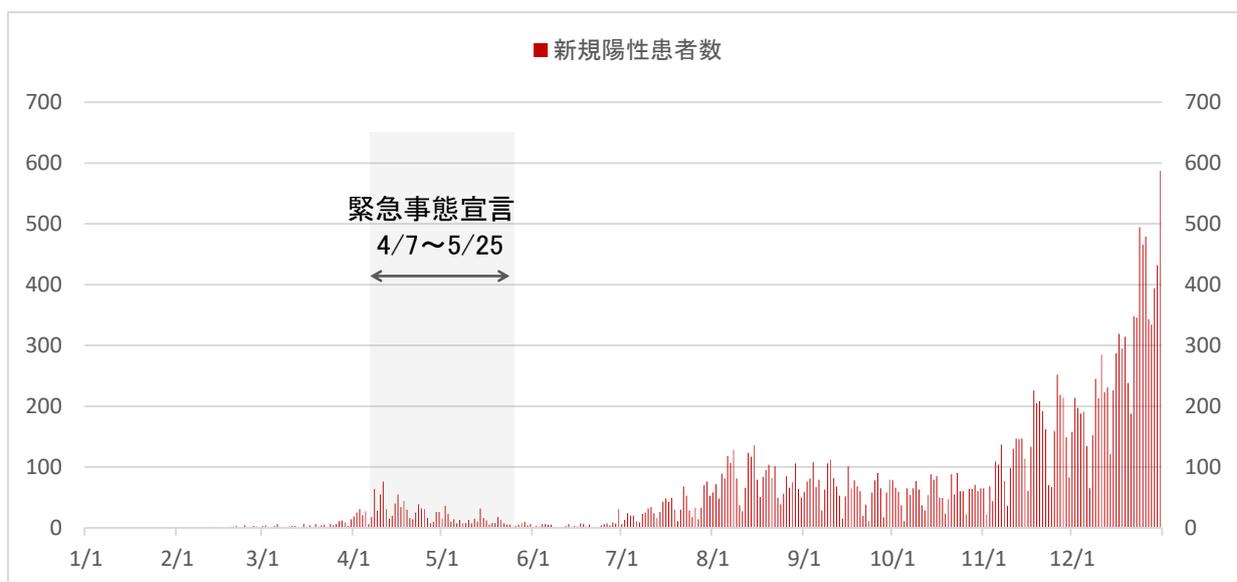
- 2020年における月別の自殺者数の推移をみると、「10月」が最も多く、「1月」が最も少なくなっている。また、過去5年平均の自殺者数を「1～6月」では下回ったが、「7～12月」では上回った。

図表11-21

参考 新型コロナウイルス感染症 新規陽性患者数の状況(2020年1月1日～12月31日)

男女計 単位:人

(出典:神奈川県がん・疾病対策課作成)



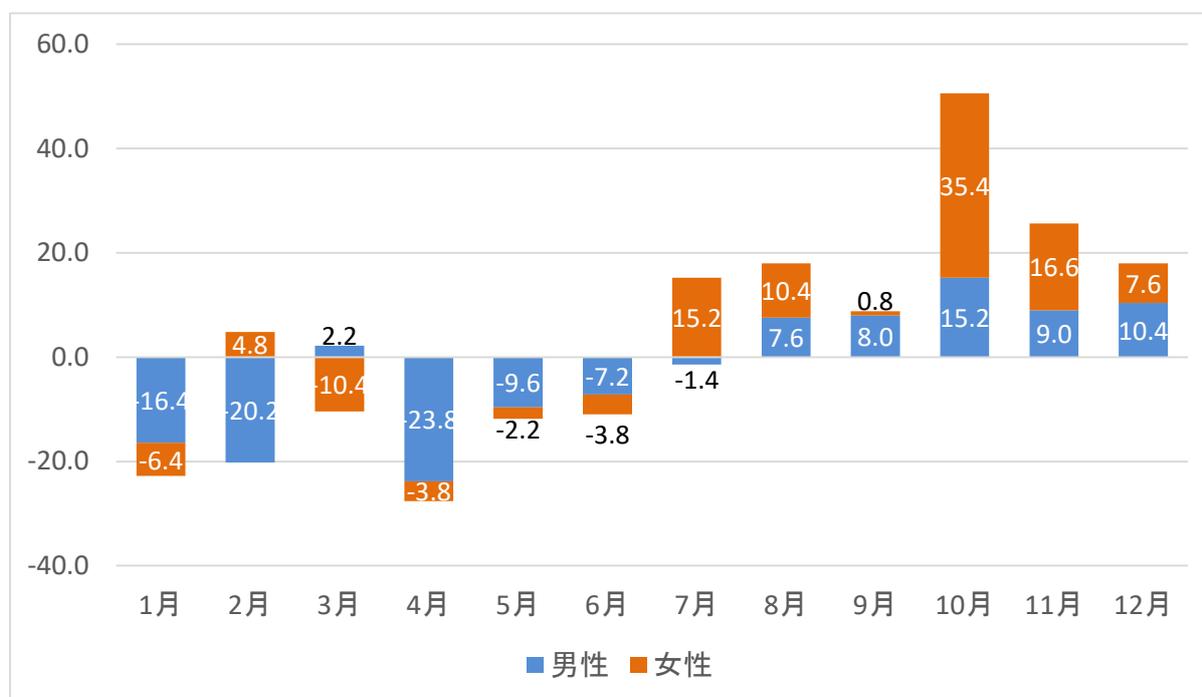
- 2020年の新型コロナウイルス感染症の新規陽性患者の状況と、月別自殺者数の動向には、明らかな相関は見られなかった。

図表11-22

男女別の月別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
男性	-16.4	-20.2	2.2	-23.8	-9.6	-7.2	-1.4	7.6	8.0	15.2	9.0	10.4	-26.2
女性	-6.4	4.8	-10.4	-3.8	-2.2	-3.8	15.2	10.4	0.8	35.4	16.6	7.6	64.2
男女計	-22.8	-15.4	-8.2	-27.6	-11.8	-11.0	13.8	18.0	8.8	50.6	25.6	18.0	38.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

- 2020年の月別の自殺者数について過去5年平均と比較すると、「男女計」では「6月」までは過去5年平均を下回ったが、「7月」以降は上回って推移した。
- 「男女計」で最も増加したのは「10月」で50.6人の増、最も減少したのは「4月」で27.6人の減であった。
- また、男女別でみると、男性では、「3月」を除き「7月」まで過去5年平均を下回ったが、「8月」以降は継続して上回り、「10月」には15.2人と急増した。一方、年間では、上半期の減少が下半期の増加を上回ったため、26.2人の減となった。
- 女性では、「2月」を除き「6月」まで過去5年平均を下回ったが、「7月」以降は継続して上回り、「10月」は35.4人と最も増加した。また、年間では、下半期の増加が上半期の減少を上回ったため、64.2人の増となった。

1 (1) 全体概況

図表11-23

自殺地の推移(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

年	県内で発見			
	計	県内 居住者	県外 居住者	住居 不明
2015年	1,382	1,343	34	5
2016年	1,213	1,168	36	9
2017年	1,276	1,234	40	2
2018年	1,136	1,119	17	0
2019年	1,076	1,047	26	3
2020年	1,269	1,236	31	2
過去5年平均	1,216.6	1,182.2	30.6	3.8

構成比	県内で発見		
	県内 居住者	県外 居住者	住居 不明
100%	97.2%	2.5%	0.4%
100%	96.3%	3.0%	0.7%
100%	96.7%	3.1%	0.2%
100%	98.5%	1.5%	-
100%	97.3%	2.4%	0.3%
100%	97.4%	2.4%	0.2%
100%	97.2%	2.5%	0.3%

- 2020年における県内で発見された自殺者の97.4%が県内居住者であった。過去5年平均においても97.2%であり、大きな差は見られなかった。

図表11-24

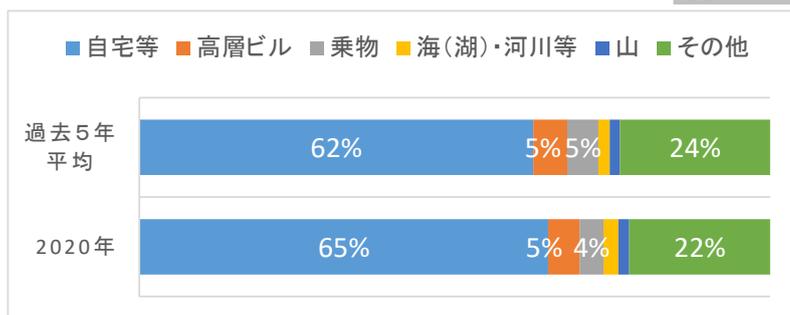
男女別自殺場所の傾向 (2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

男性

図表11-24-1



図表11-24-2

(男性 構成比)	過去5年平均	2020年
自宅等	62%	65%
高層ビル	5%	5%
乗物	5%	4%
海(湖)・河川等	2%	2%
山	2%	2%
その他	24%	22%

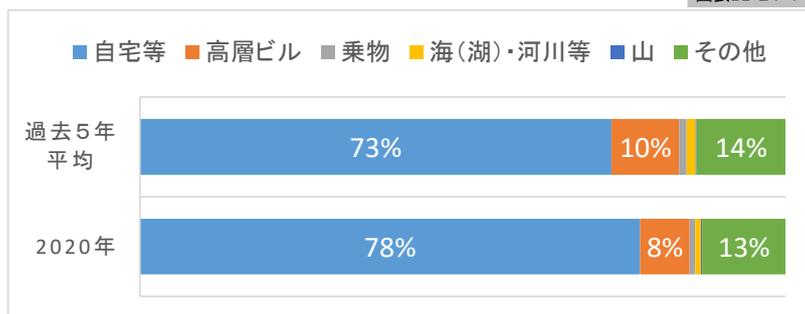
- 「男性」の自殺場所を過去5年平均の構成比で見ると、「自宅等」が62%を占め、次いで、「その他」を除くと「高層ビル」や「乗物」の比率が高い(図表11-24-1,図表11-24-2)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「自宅等」の比率が高くなっている(図表11-24-1,図表11-24-2)。

図表11-24-3

(男性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
自宅等	515	526	11
高層ビル	44.6	40	-4.6
乗物	40.8	31	-9.8
海(湖)・河川等	14.6	19	4.4
山	13.2	14	0.8
その他	196.4	181	-15.4

女性

図表11-24-4



図表11-24-5

(女性 構成比)	過去5年平均	2020年
自宅等	73%	78%
高層ビル	10%	8%
乗物	1%	1%
海(湖)・河川等	1%	1%
山	0%	0%
その他	14%	13%

- 「女性」の自殺場所を過去5年平均の構成比で見ると、「自宅等」が73%を占め、次いで、「その他」を除くと「高層ビル」の比率が高い(図表11-24-4,図表11-24-5)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「自宅等」の比率が高くなっている(図表11-24-4,図表11-24-5)。

図表11-24-6

(女性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
自宅等	286.4	355	68.6
高層ビル	41	35	-6
乗物	4.6	4	-0.6
海(湖)・河川等	5.4	4	-1.4
山	0.6	1	0.4
その他	54	59	5

注)「自宅等」は、下宿・寮を含む。

海(湖)・河川等は、池・沼を含む。「その他」には、次の項目を含む。

学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、駅構内、鉄道線路、路上、公園、社寺境内、田畑、等

1 (1) 全体概況

図表11-25

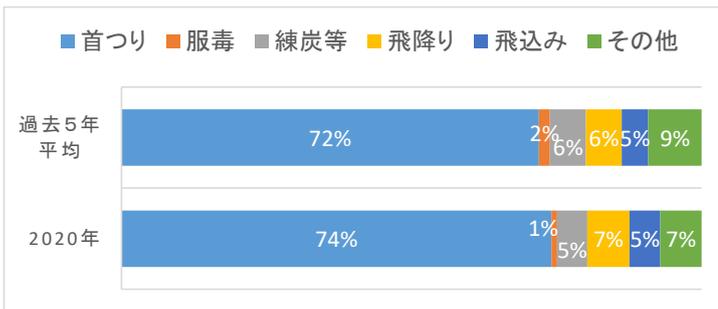
男女別自殺の手段の傾向(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

男性

図表11-25-1



図表11-25-2

(男性 構成比)	過去5年平均	2020年
首つり	72%	74%
服毒	2%	1%
練炭等	6%	5%
飛降り	6%	7%
飛込み	5%	5%
その他	9%	7%

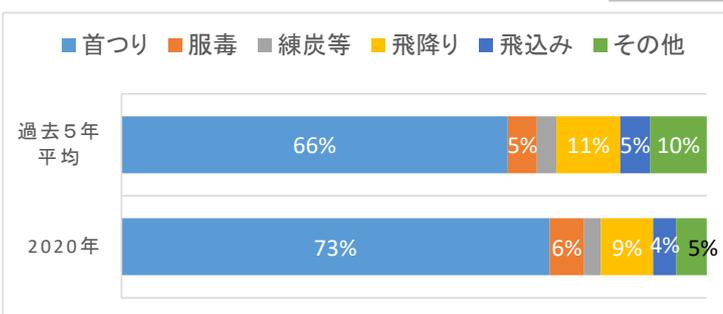
図表11-25-3

(男性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
首つり	593.2	601	7.8
服毒	15.8	8	-7.8
練炭等	51	42	-9
飛降り	51	59	8
飛込み	37.8	43	5.2
その他	75.8	58	-17.8

- 「男性」の自殺手段を過去5年平均の構成比で見ると、「首つり」が72%を占め、次いで、「その他」を除くと「練炭等」や「飛降り」の比率が高い(図表11-25-1,図表11-25-2)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「首つり」が74%と上昇した(図表11-25-1,図表11-25-2)。

女性

図表11-25-4



図表11-25-5

(女性 構成比)	過去5年平均	2020年
首つり	66%	73%
服毒	5%	6%
練炭等	3%	3%
飛降り	11%	9%
飛込み	5%	4%
その他	10%	5%

図表11-25-6

(女性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
首つり	258.8	335	76.2
服毒	19.4	27	7.6
練炭等	13	13	0
飛降り	42.8	41	-1.8
飛込み	19.8	18	-1.8
その他	38.2	24	-14.2

- 「女性」の自殺手段を過去5年平均の構成比で見ると、「首つり」が66%を占め、次いで、「飛降り」の比率が高い(図表11-25-4,図表11-25-5)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「首つり」が7ポイント上昇し、「飛降り」や「その他」の比率が低下した(図表11-25-4,図表11-25-5)。

注) 手段不詳は除外している。また、「その他」には、次の項目を含む。

有機溶剤吸引、排ガス等のガス、感電、焼身、爆発物、銃器、刃物、入水等

図表11-26

男女別自殺者の自殺未遂歴の傾向(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数(人)

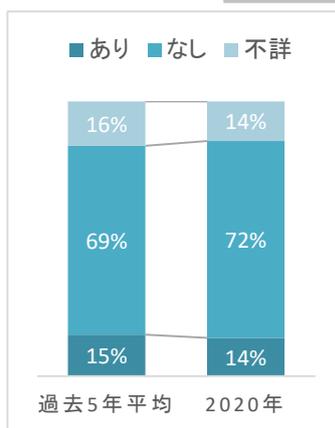
図表11-26-1

		過去5年平均	2020年	増減	増減率
男性	未遂歴あり	123.8	113	-10.8	-9%
	未遂歴なし	568.2	581	12.8	2%
	不詳	132.6	117	-15.6	-12%
女性	未遂歴あり	125.8	157	31.2	25%
	未遂歴なし	229.6	265	35.4	15%
	不詳	36.6	36	-0.6	-2%

構成比(%)

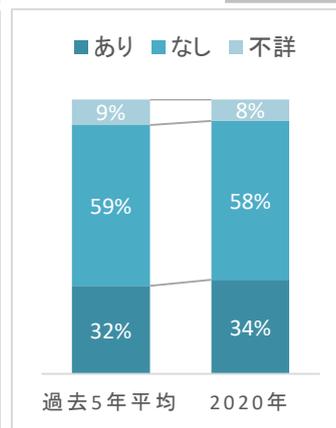
男性

図表11-26-2



女性

図表11-26-3



- 過去5年平均における自殺未遂歴の有無の構成比を男女別にみると、男性は15%、女性は32%が「未遂歴あり」で、女性の自殺者の方が「未遂歴あり」の比率が高い(図表11-26-2, 図表11-26-3)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、男性の「未遂歴なし」が3ポイント上昇し、女性の「未遂歴あり」が2ポイント上昇した(図表11-26-2, 図表11-26-3)。

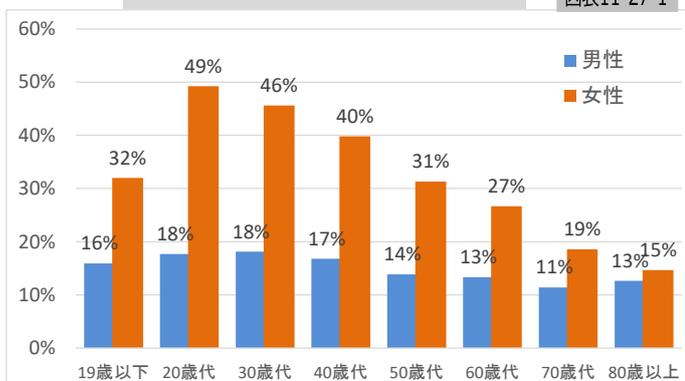
図表11-27

男女別・年齢階級別自殺者の自殺未遂歴ありの比率

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

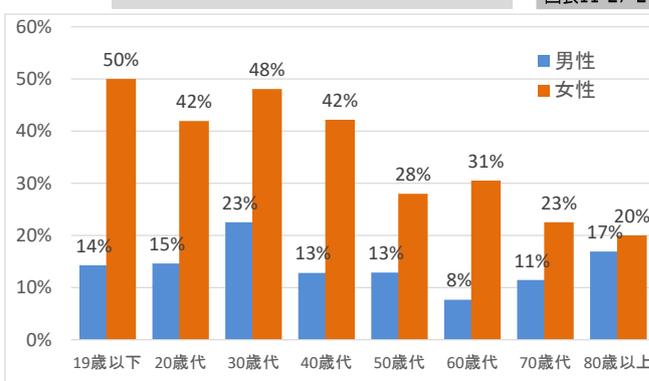
過去5年平均

図表11-27-1



2020年

図表11-27-2



- 年齢階級別自殺者数の「自殺未遂歴あり」の状況について、過去5年平均では、男性は、「20歳代」と「30歳代」がともに「未遂歴あり」が18%で、最も多くなっている。一方、女性は「20～40歳代」の「未遂歴あり」が40%以上で、男性より高い比率となっている(図表11-27-1)。
- 2020年は、「未遂歴あり」が、男性では「30歳代」が20%を超え、また、女性の「19歳以下」が50%となり、過去5年平均より大きく上回った比率となった(図表11-27-2)。

1 (1) 全体概況

全体概況のまとめ

- 本県の自殺者数は、近年減少傾向であったが、2020年は前年比193人増の1,269人と大きく増加した。また、人口10万人あたりの自殺者数である自殺死亡率も前年より2.0ポイント上昇し、13.7となった。
- 男女別では、過去5年平均と比較すると、男性は減少、女性は増加となり、女性の割合が2007年以降最大となった。
- 年齢階級別では、「20歳代」が過去5年平均を大きく上回ったことが特徴的であり、「20歳代」の原因・動機では「勤務問題」と「家庭問題」の比率が過去5年平均を上回った。(※付録参照)
- 職業有無別では、過去5年平均と比較して、男性は「有職者」が、女性は「有職者」「無職者」とも増加したが、特に女性の「有職者」が大きく増加した。
- さらに職業別にみると、過去5年平均と比較して、「有職者」では「被雇用者・勤め人」が、「無職者」では「主婦」が大きく増加した。また、「学生・生徒等」も増加した。さらに、原因・動機別の構成比をみると、「被雇用者・勤め人」は過去5年と比較して、「勤務問題」が上回り、「無職者」では、ほぼ同様の傾向であった。
- 月別自殺者数の状況では、上半期は、過去5年平均を下回り、下半期は上回った。特に、10月に大きく増加した。新型コロナウイルス感染症の新規陽性患者数と月別自殺者数の明らかな相関は見られなかった。(今回は新規陽性患者数との相関のみを分析したが、今後、その他の要因との相関も注視する必要がある。)
- 2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、他都道府県への移動が自粛された期間もあったが、県内で発見された自殺者の県内居住者の比率は、例年と同様の傾向であった。
- また、自殺場所では、過去5年平均と比較して、男女とも「自宅等」の比率が上昇し、自殺の手段では、男女とも「首つり」の比率が上昇した。
- 自殺未遂歴の有無については、例年同様女性の方が男性よりも「未遂歴あり」が多かったが、特に「19歳以下」の女性の「未遂歴あり」が50%と高い比率となった。

【参考】2020年における自殺者の月別動向の背景について**2020年4月～6月まで自殺者が例年より減少**

- 「コロナ禍における自殺の動向に関する分析(緊急レポート)(2020/10/21)(厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター)」では、4～6月まで自殺者が例年より減少したことについて、「新型コロナウイルス感染症による死への恐怖によって人々が自身の命を守ろうとする意識が高まり、同時に、自身の命や暮らしを守るための具体的な施策にアクセスできるようになったことにより、4月から6月にかけては例年よりも自殺者数が減少した可能性がある。」と記載している。
- なお、本県における生活支援策にかかる状況では、生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業の新規相談受付件数が2020年4月は前年同時期の約6.4倍の7,633件、ピークの5月は8,435件となったが、6月は4,903件となり、その後ほぼ横ばいとなった。
- また、住居確保給付金や生活福祉資金特例貸付の緊急小口資金の支給決定件数が6月にピークとなる等、生活を支える支援策が6月頃に集中して行われた状況がある。

2020年7月に自殺者が例年より増加

- 「コロナ禍における自殺の動向に関する分析(緊急レポート)(2020/10/21)(厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター)」では、7月の自殺者数が増加したことについて、「若手有名俳優の自殺報道(若手有名俳優の自殺それ自体というよりも、それに関する報道)が大きく影響している可能性が高い。」と記載している。
- なお、本県においても、同様に、若手有名俳優の自殺及び自殺報道後に自殺者が増加している傾向が見られる。

2020年10月に自殺者が急増

- 「コロナ禍における自殺の動向(2020/12/21)(厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター)」では、10月に自殺者が急増したことについて、「新型コロナの影響により、社会全体の自殺リスクが高まっていること(自殺の要因となり得る、雇用、暮らし、人間関係等の問題が悪化していること)に加えて、相次ぐ有名人の自殺及び自殺報道が大きく影響した可能性(ウェルテル効果の可能性)が高い。」と記載しており、本県においても同様の傾向であったことが推測される。

1 (2) 男性の概況

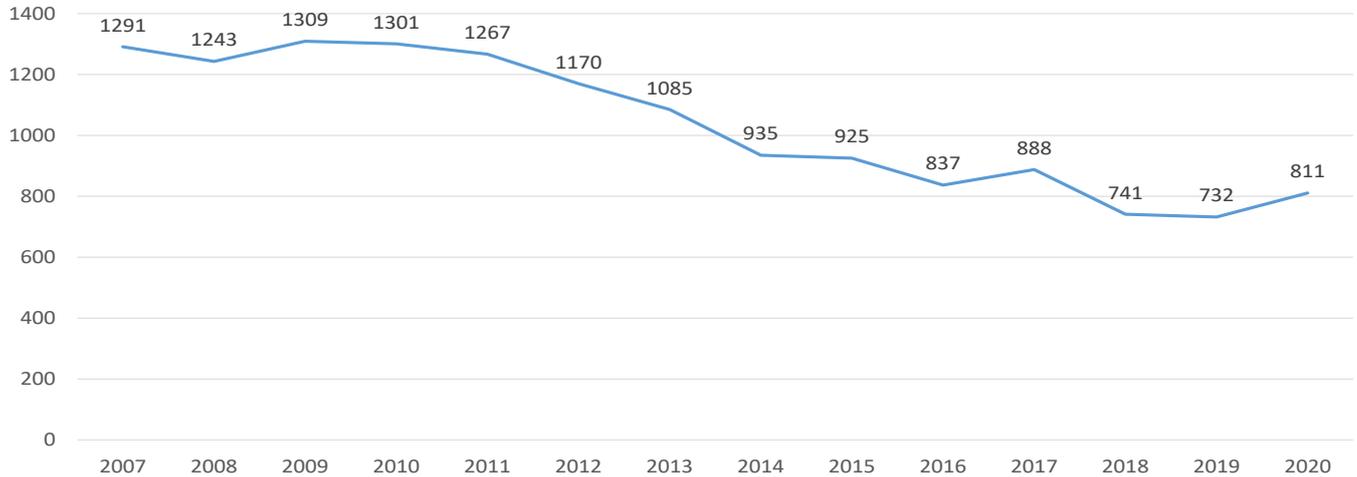
(2) 男性の概況

図表12-01

男性自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



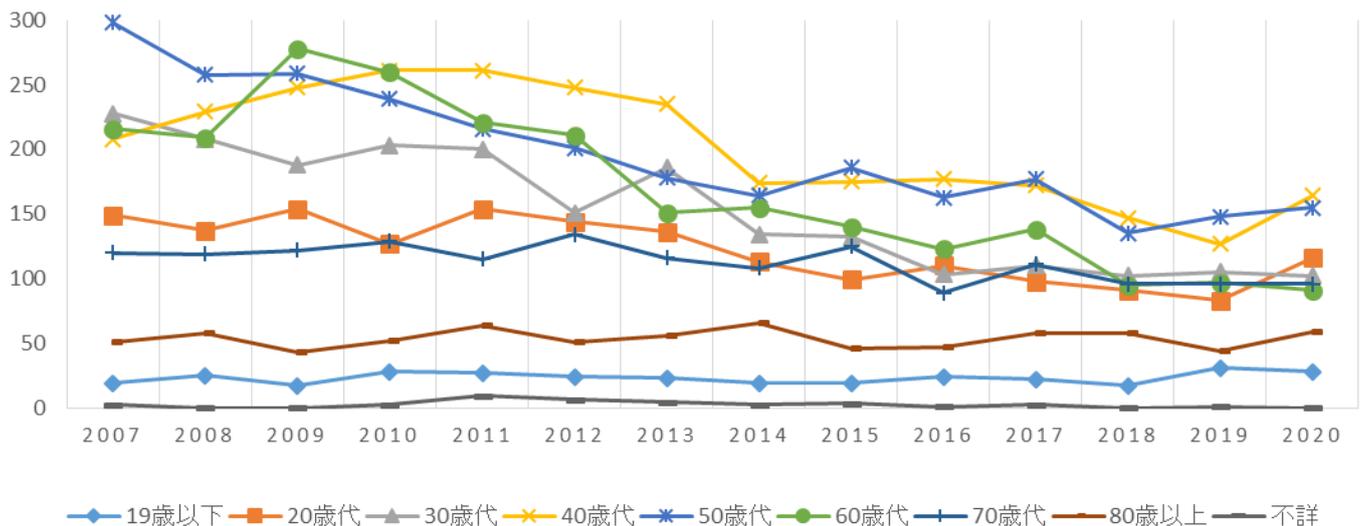
- 男性の自殺者は、2007年以降、2009年が最多で1,309人、2019年が最少で732人であり、この間、577人と、大きく減少したが、2020年は前年比で79人(10.8%)増加し、811人となった。

図表12-02

年齢階級別男性自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

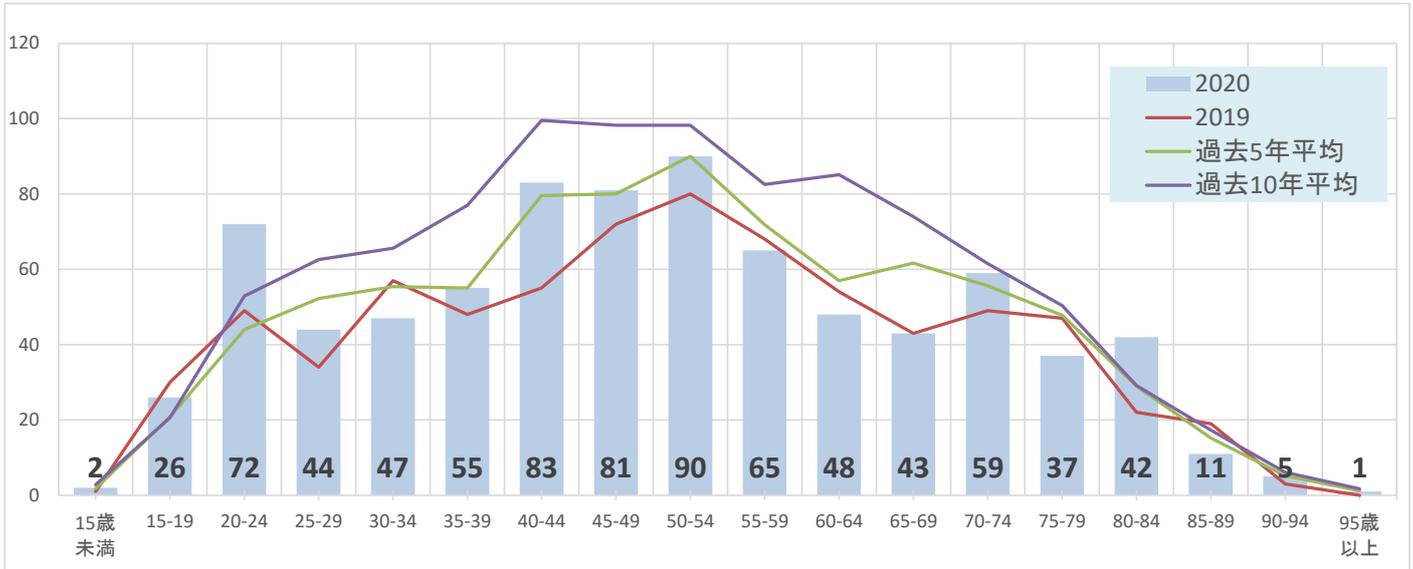
- 年齢階級別自殺者数の推移をみると、2007年以降、「20歳代~70歳代」はおおむね減少傾向、「19歳以下」と「80歳以上」はほぼ横ばいで推移してきたが、2020年は、「20歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「80歳以上」で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「40歳代」と「20歳代」であった。

図表12-03

年齢階級別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年・10年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



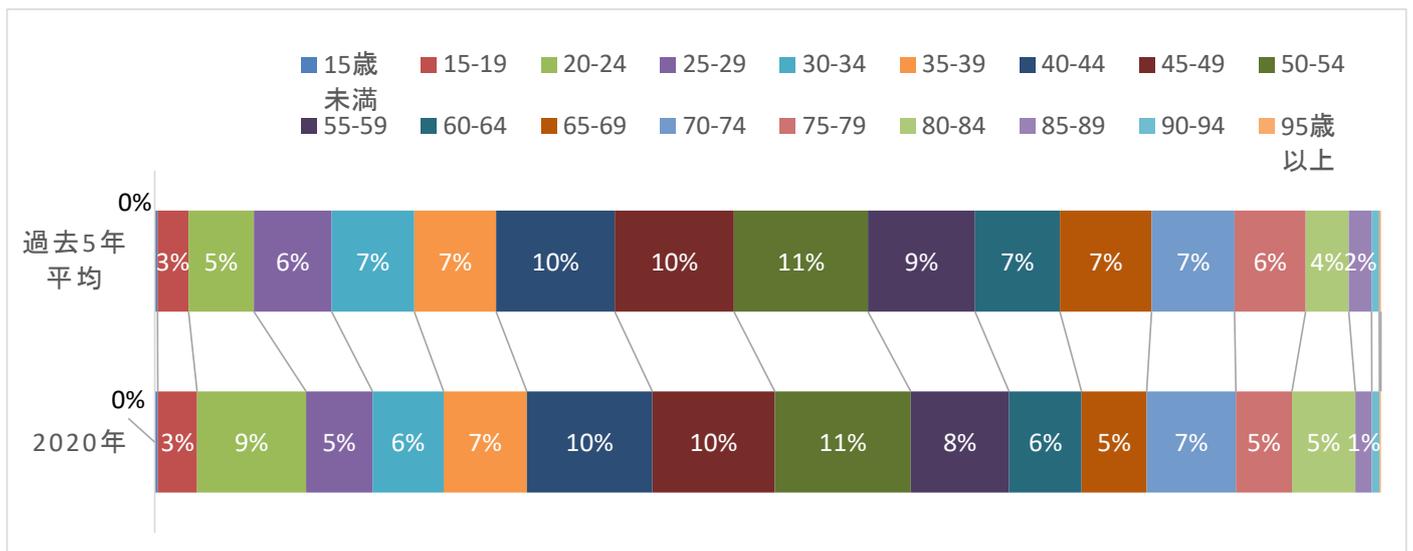
注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の男性の自殺者数について、年齢階級別で見ると、「50歳代前半」が最も多く、次いで、「40歳代前半」、「40歳代後半」、「20歳代前半」の順に多くなっている。

図表12-04

年齢階級別男性自殺者数の構成比(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

- 男性自殺者数の年齢階級別構成比を過去5年平均と比較すると、「20～24歳」が4ポイント増と、最も上昇した。

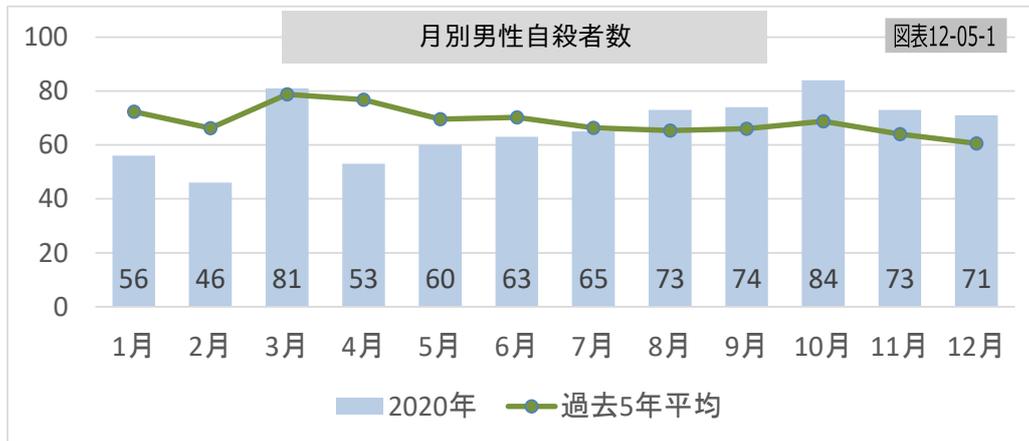
1 (2) 男性の概況

図表12-05

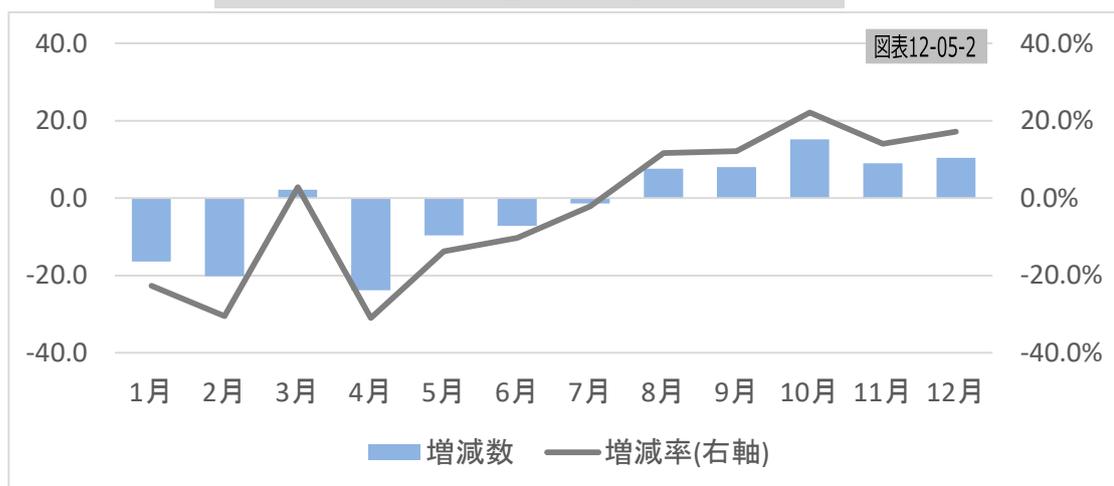
月別男性自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



月別男性自殺者数と過去5年平均との増減比較



図表12-05-3

(男性)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
過去5年平均	72.4	66.2	78.8	76.8	69.6	70.2	66.4	65.4	66.0	68.8	64.0	60.6	825.2
2020年	56	46	81	53	60	63	65	73	74	84	73	71	799
増減数	-16.4	-20.2	2.2	-23.8	-9.6	-7.2	-1.4	7.6	8.0	15.2	9.0	10.4	-26.2
増減率	-22.7%	-30.5%	2.8%	-31.0%	-13.8%	-10.3%	-2.1%	11.6%	12.1%	22.1%	14.1%	17.2%	-3.2%

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

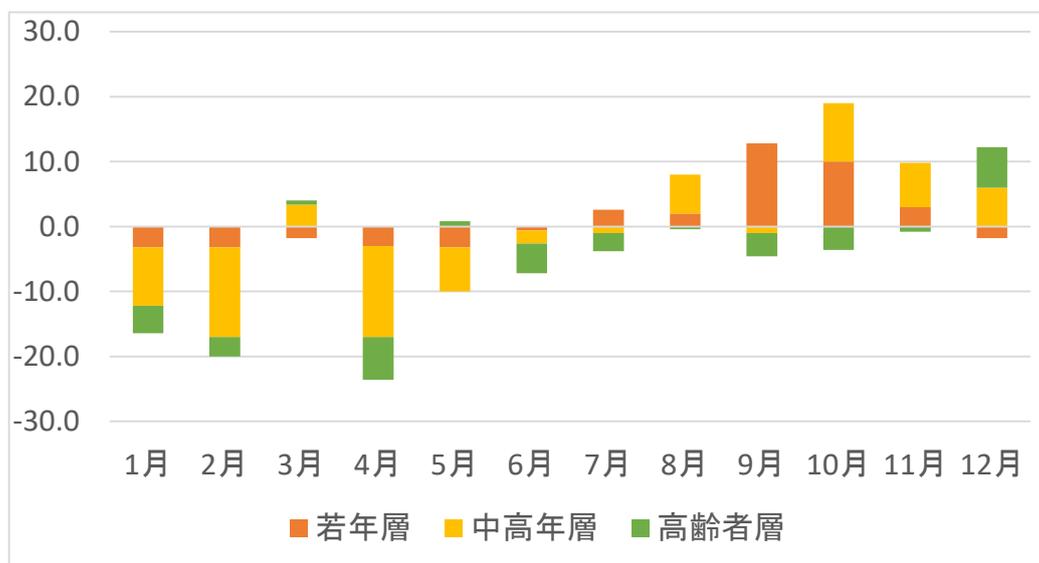
- 2020年の男性の月別自殺者数の推移をみると、「10月」が最も多く、「2月」が最も少なくなっている(図表12-05-1)。
- 過去5年平均と比較すると、「3月」を除き「7月」までは下回ったが、「8月」以降は継続して上回った。年間では、上半期の減少が下半期の増加を上回ったため、26.2人の減少となった(図表12-05-2,図表12-05-3)。
- また、増加数が最も多かったのは「10月」で、15.2人(22.1%)の増であり、次いで、「12月」の10.4人(17.2%)の増であった(図表12-05-2,図表12-05-3)。

図表12-06

年齢階級別男性自殺者数の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



(男性)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
若年層	40歳未満	-3.2	-3.2	-1.8	-3.0	-3.2	-0.6	2.6	2.0	12.8	10.0	3.0	-1.8	13.6
中高年層	40~64歳	-9.0	-13.8	3.4	-14.0	-6.8	-2.0	-1.0	6.0	-1.0	9.0	6.8	6.0	-16.4
高齢者層	65歳以上	-4.2	-3.0	0.6	-6.6	0.8	-4.6	-2.8	-0.4	-3.6	-3.6	-0.8	6.2	-22.0
合計		-16.4	-20.0	2.2	-23.6	-9.2	-7.2	-1.2	7.6	8.2	15.4	9.0	10.4	-24.8

注)自殺月で集計している。年齢不詳、自殺月不詳は除外している。

- 2020年の男性の自殺者数を年齢階級別にみると、「8月」以降は継続して過去5年平均を上回るようになったが、これは主に「若年層」と「中高年層」の増加の影響が大きい。
- 「若年層」は、過去5年平均と比べ、「7月」から増加に転じ、「9月」、「10月」と大きく上回った。年間の合計としても、13.6人増加している。
- 「中高年層」は、過去5年平均と比べ、「7月」までは「3月」を除き下回ったが、「8月」以降は「9月」を除き増加し、特に、「10月」が最も増加した。一方で、年間の合計としては、上半期の減少の影響を受け、16.4人減少している。
- 「高齢者層」は、過去5年平均と比較してほとんど下回ったが、「12月」が各年代層の中で、最も増加した。

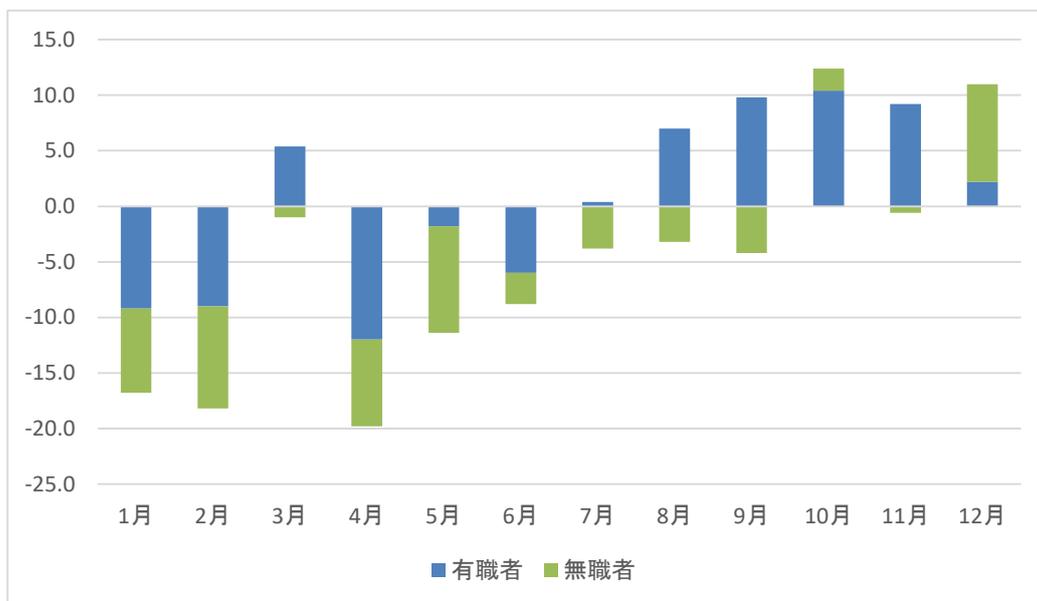
1 (2) 男性の概況

図表12-07

職業有無別男性自殺者数の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



(男性)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
有職者	-9.2	-9.0	5.4	-12.0	-1.8	-6.0	0.4	7.0	9.8	10.4	9.2	2.2	6.4
無職者	-7.6	-9.2	-1.0	-7.8	-9.6	-2.8	-3.8	-3.2	-4.2	2.0	-0.6	8.8	-39.0

注)自殺月で集計している。職業不詳、自殺月不詳は除外している。

- 2020年の男性の職業有無別自殺者数を月別で過去5年平均と比較すると、「有職者」は、上半期は減少傾向、下半期は増加傾向であったが、下半期の増加が上半期の減少を上回ったため、年間では6.4人の増となった。
- また、「無職者」は「10月」と「12月」のみ過去5年平均を上回り、年間では39.0人の減となった。

図表12-08

職業別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

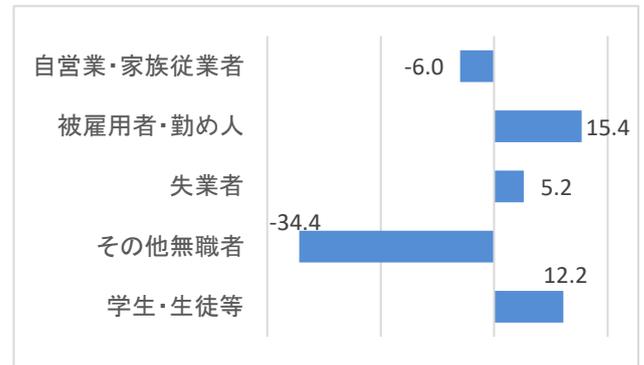
自殺者数(人)

図表12-08-1

		過去5年平均	2020年	増減数	増減率
有職者	自営業・家族従業者	62.0	56	-6.0	-10%
	被雇用者・勤め人	312.6	328	15.4	5%
無職者	失業者	38.8	44	5.2	13%
	その他無職者	356.4	322	-34.4	-10%
	学生・生徒等	34.8	47	12.2	35%

注) 職業不詳は除外している。

図表12-08-2



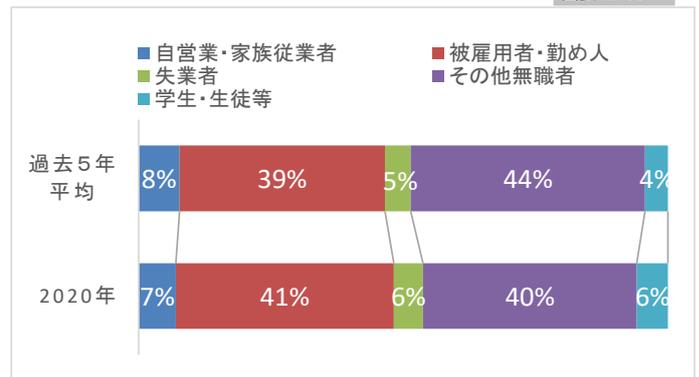
構成比(%)

図表12-08-3

		過去5年平均	2020年
有職者	自営業・家族従業者	8%	7%
	被雇用者・勤め人	39%	41%
無職者	失業者	5%	6%
	その他無職者	44%	40%
	学生・生徒等	4%	6%

注) 職業不詳は除外している。

図表12-08-4



年齢階級別(人)

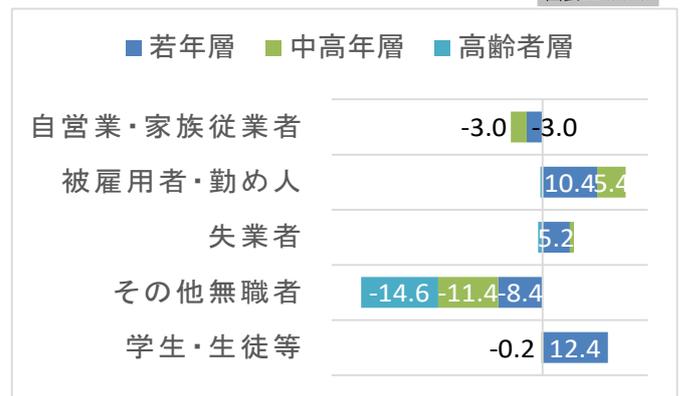
図表12-08-5

		若年層 40歳未満	中高年層 40~64歳	高齢者層 65歳以上
有職者	自営業・家族従業者	-3.0	-3.0	0.0
	被雇用者・勤め人	10.4	5.4	-0.4
無職者	失業者	5.2	0.8	-0.8
	その他無職者	-8.4	-11.4	-14.6
	学生・生徒等	12.4	-0.2	0.0

注) 職業不詳、年齢不詳は除外している。

注) 「その他無職者」は、無職者のうち主婦、失業者を除くもので、利子・配当・家賃生活者、年金・雇用保険等生活者、浮浪者及びその他の無職者に分類されるものをまとめている。

図表12-08-6



- 男性の職業別自殺者数を構成比で過去5年平均と比較すると、「被雇用者・勤め人」と「学生・生徒等」がそれぞれ2ポイントずつ上昇した(図表12-08-3,図表12-08-4)。
- 自殺者数で過去5年平均と比較すると、「有職者」は、「被雇用者・勤め人」が15.4人、「無職者」は、「失業者」が5.2人とそれぞれ最も増加した。また、「学生・生徒等」は、12.2人増加した(図表12-08-1,図表12-08-2)。
- また、過去5年平均と比較して自殺者が増加した、「被雇用者・勤め人」、「学生・生徒等」、「失業者」について、年齢階級別にみると、いずれも「若年層」での増加が多くなっている(図表12-08-5,図表12-08-6)。

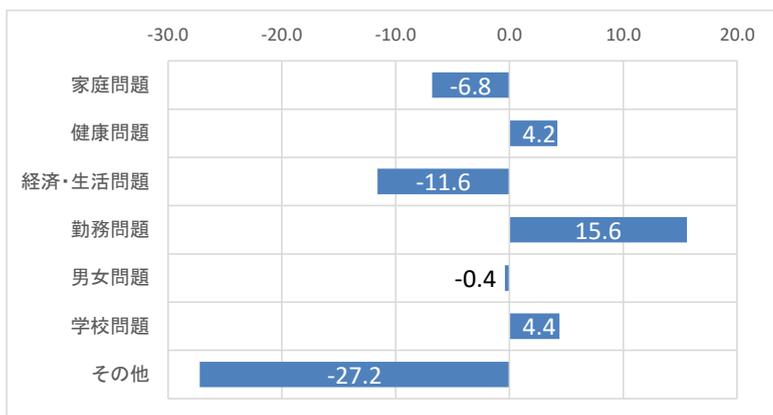
1 (2) 男性の概況

図表12-09

原因・動機別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	94.8	88	-6.8
健康問題	253.8	258	4.2
経済・生活問題	160.6	149	-11.6
勤務問題	86.4	102	15.6
男女問題	22.4	22	-0.4
学校問題	13.6	18	4.4
その他	58.2	31	-27.2

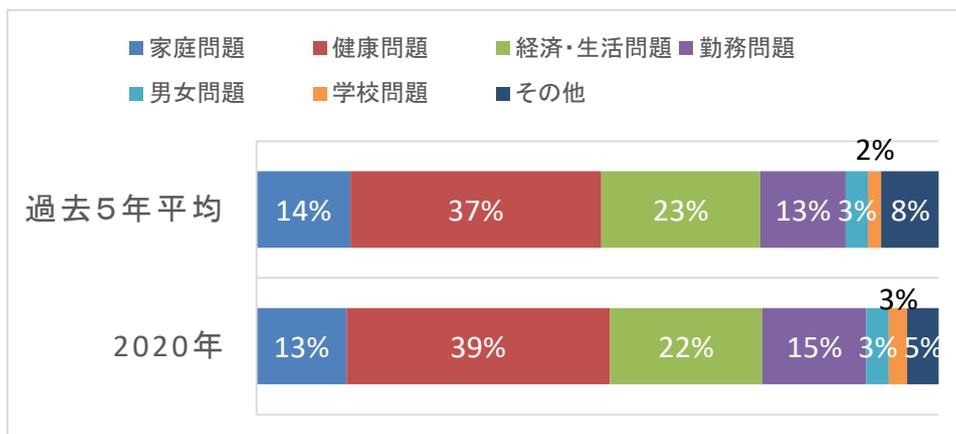
注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「その他」を除くと、「勤務問題」が15.6人と最も増加し、「経済・生活問題」が11.6人と最も減少した。

図表12-10

原因・動機別男性自殺者数構成比の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



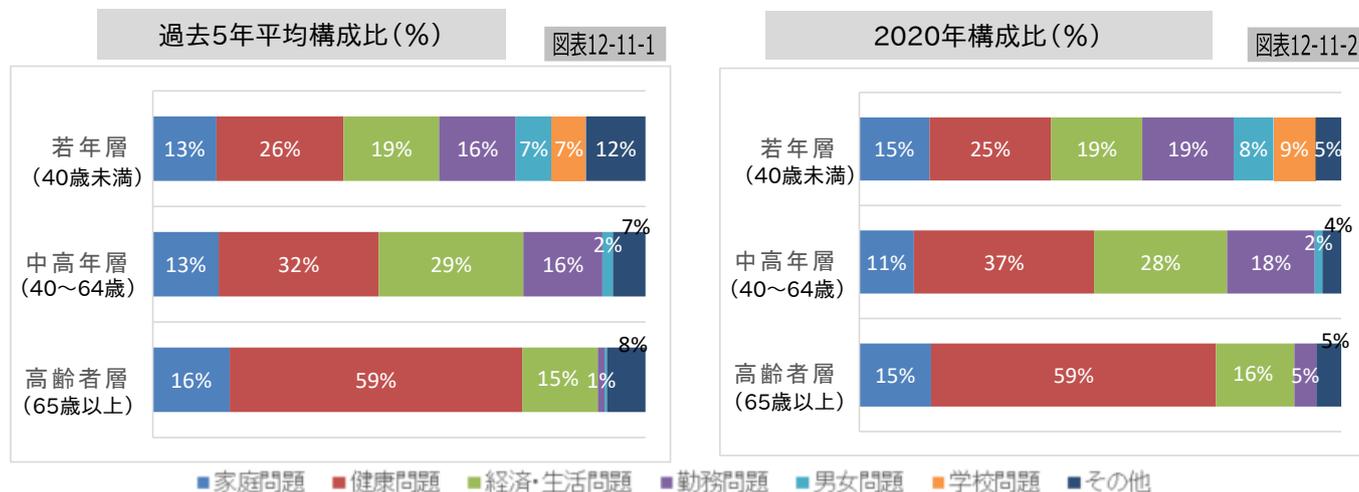
注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者の原因・動機別の構成比は、「健康問題」が39%と最も多く、次いで、「経済・生活問題」が22%、「勤務問題」が15%の順となっている。
- また、過去5年平均と比較すると、「健康問題」と「勤務問題」がそれぞれ2ポイントずつ上昇した。

図表12-11

年齢階級別、原因・動機別男性自殺者数の構成比比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 男性自殺者の原因・動機別の構成比を、年齢階級別に過去5年平均と比較すると、2020年は「若年層」では、「勤務問題」が3ポイントと最も上昇した(図表12-11-1,図表12-11-2)。
- 「中高年層」では、「健康問題」が5ポイントと最も上昇した(図表12-11-1,図表12-11-2)。
- 「高齢者層」では、「勤務問題」が4ポイントと最も上昇した(図表12-11-1,図表12-11-2)。

図表12-12

年齢階級別、原因・動機別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	若年層 (40歳未満)			中高年層 (40~64歳)			高齢者層 (65歳以上)		
	過去5年平均	2020年	増減	過去5年平均	2020年	増減	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	25.4	30	4.6	44.6	35	-9.6	24.8	23	-1.8
健康問題	50.8	52	1.2	108.4	115	6.6	94.4	91	-3.4
経済・生活問題	38.2	39	0.8	98	85	-13.0	24.4	25	0.6
勤務問題	30.6	39	8.4	53.6	56	2.4	2.2	7	4.8
男女問題	14.4	17	2.6	7.2	5	-2.2	0.8	0	-0.8
学校問題	13.6	18	4.4	0	0	0.0	0	0	0.0
その他の問題	23.8	11	-12.8	22	12	-10.0	12.4	8	-4.4

注) 年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者について、年齢階級別、原因・動機別に、過去5年平均と比較すると、「若年層」では、最も増加したのは「勤務問題」で、次いで「家庭問題」、「学校問題」の順であった。
- 「中高年層」では、「健康問題」と「勤務問題」のみが増加した。
- 「高齢者層」では、「勤務問題」と「経済・生活問題」のみが増加した。

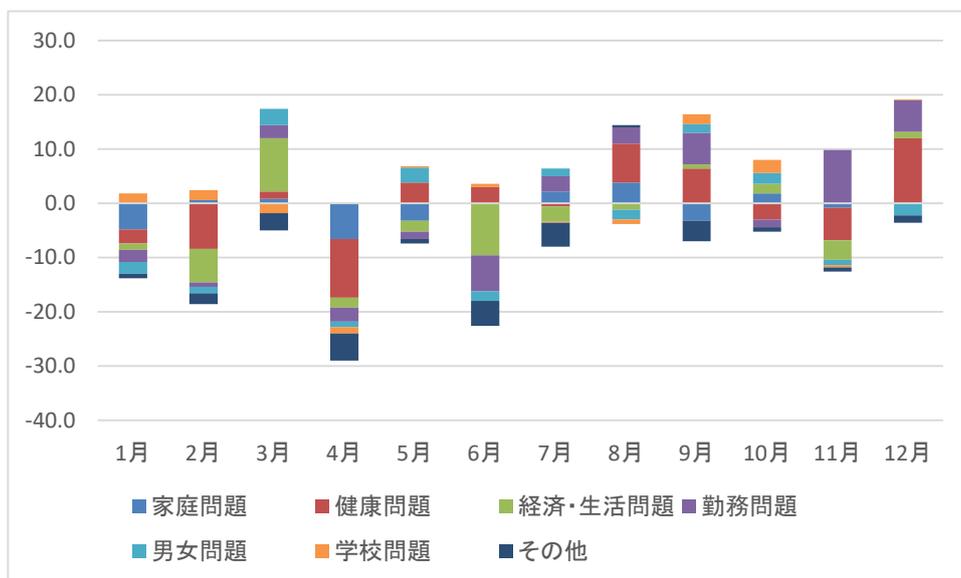
1 (2) 男性の概況

図表12-13

原因・動機別、月別男性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。

原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者数を月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、男性自殺者数が継続して増加に転じた「8月」以降は「健康問題」と「勤務問題」の増加が目立っている。
- 年間の合計で見ると、過去5年平均と比べ、「勤務問題」、「学校問題」、「健康問題」の順で増加した。

図表12-14

原因・動機別、年齢階級別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	上半期			下半期		
	過去5年平均	2020年	増減	過去5年平均	2020年	増減
若年層 (40歳未満)						
家庭問題	13.6	16	2.4	12	13	1.0
健康問題	26	23	-3.0	25	27	2.0
経済・生活問題	20.6	19	-1.6	17.8	19	1.2
勤務問題	16.4	14	-2.4	14.2	24	9.8
男女問題	7.2	8	0.8	7.2	9	1.8
学校問題	6.6	8	1.4	7	10	3.0
その他の問題	13.6	4	-9.6	10.2	7	-3.2
合計	104	92	-12.0	93.4	109	15.6
中高年層 (40~64歳)						
家庭問題	22	14	-8.0	22.8	20	-2.8
健康問題	56.4	55	-1.4	52	60	8.0
経済・生活問題	53.4	40	-13.4	44.6	43	-1.6
勤務問題	27.4	16	-11.4	26.2	40	13.8
男女問題	3.4	3	-0.4	3.8	2	-1.8
その他の問題	10.6	4	-6.6	11.4	8	-3.4
合計	173.2	132	-41.2	160.8	173	12.2
高齢者層 (65歳以上)						
家庭問題	16.6	9	-7.6	8.2	14	5.8
健康問題	45	36	-9.0	49.2	55	5.8
経済・生活問題	13	17	4.0	11.4	8	-3.4
勤務問題	1.4	4	2.6	0.8	3	2.2
男女問題	0.8	0	-0.8	0	0	0.0
その他の問題	6.2	6	-0.2	6.2	2	-4.2
合計	83	72	-11.0	75.8	82	6.2

注) 自殺月で集計している。年齢不詳、自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。
原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の男性自殺者について、期別・年齢階級別に自殺の原因・動機を過去5年平均と比較した。
- 「若年層」は、上半期は、ほぼ減少したが、主に「家庭問題」と「学校問題」でやや増加した。下半期はほぼ増加し、最も増加したものは「勤務問題」であった。
- 「中高年層」は、上半期はすべての項目で減少し、下半期は、「勤務問題」と「健康問題」のみが増加した。
- 「高齢者層」は、上半期は「経済・生活問題」と「勤務問題」のみが増加した。下半期は、「家庭問題」、「健康問題」、「勤務問題」が増加した。

1 (2) 男性の概況

図表12-15

職業有無、原因・動機別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

若年層(40歳未満) 男性

図表12-15-1

		上半期	下半期	年間
有職者	家庭問題	0.0	-1.4	-1.4
	健康問題	-3.0	1.0	-2.0
	経済・生活問題	1.6	2.6	4.2
	勤務問題	-1.6	7.6	6.0
	男女問題	1.0	0.4	1.4
	学校問題	0.0	-0.2	-0.2
	その他の問題	-3.8	-1.4	-5.2
	無職者	家庭問題	1.4	0.0
健康問題		1.6	-3.4	-1.8
経済・生活問題		-1.4	-1.8	-3.2
勤務問題		-0.8	1.2	0.4
男女問題		-1.2	-0.2	-1.4
学校問題		1.8	-0.2	1.6
その他の問題		-3.2	-1.8	-5.0

中高年層(40~64歳) 男性

図表12-15-2

		上半期	下半期	年間
有職者	家庭問題	-5.4	-1.4	-6.8
	健康問題	1.4	9.6	11.0
	経済・生活問題	-5.8	-6.6	-12.4
	勤務問題	-9.6	12.2	2.6
	男女問題	-1.2	-1.2	-2.4
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	-4.4	-1.2	-5.6
	無職者	家庭問題	-2.4	-1.4
健康問題		-4.0	-1.0	-5.0
経済・生活問題		-7.2	5.8	-1.4
勤務問題		-1.6	1.6	0.0
男女問題		0.8	-0.6	0.2
学校問題		0.0	0.0	0.0
その他の問題		-2.4	-1.2	-3.6

高齢者層(65歳以上) 男性

図表12-15-3

		上半期	下半期	年間
有職者	家庭問題	-2.2	-0.8	-3.0
	健康問題	3.6	4.2	7.8
	経済・生活問題	0.2	-0.8	-0.6
	勤務問題	3.0	1.4	4.4
	男女問題	-0.4	0.0	-0.4
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	1.0	-1.0	0.0
	無職者	家庭問題	-5.2	6.6
健康問題		-12.2	1.8	-10.4
経済・生活問題		4.2	-2.4	1.8
勤務問題		-0.4	0.8	0.4
男女問題		-0.4	0.0	-0.4
学校問題		0.0	0.0	0.0
その他の問題		-1.0	-3.2	-4.2

- 2020年の男性自殺者について、さらに、年齢階級区分別に職業有無別の原因・動機を過去5年平均と比較した。
- 「若年層」は、「有職者」で、特に下半期の「勤務問題」が増加した(図表12-15-1)。
- 「中高年層」は、「有職者」では、特に下半期の「勤務問題」と「健康問題」、「無職者」では、特に「経済・生活問題」が増加した(図表12-15-2)。
- 「高齢者層」については、「有職者」では、特に、年間を通じた「健康問題」と上半期の「勤務問題」が、「無職者」では、特に上半期の「経済・生活問題」と下半期の「家庭問題」が増加した(図表12-15-3)。

注)自殺月で集計している。

年齢不詳、職業不詳、自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

図表12-16

原因・動機(小分類)別男性自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

区分:有職者 男性				図表12-16-1	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=337	n=309	n=1676	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	15.1%	14.2%	13.9%	健康
2	仕事疲れ	8.6%	7.4%	7.2%	勤務
3	職場の人間関係	7.1%	8.7%	6.6%	勤務
4	事業不振	6.8%	5.8%	5.6%	経済生活
5	病気の悩み(身体の病気)	6.5%	4.5%	5.8%	健康
6	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	5.3%	2.6%	2.6%	健康
7	夫婦関係の不和	5.0%	3.9%	6.1%	家庭
7	負債(その他)	5.0%	6.5%	5.8%	経済生活
7	職場環境の変化	5.0%	4.2%	4.1%	勤務
10	仕事の失敗	4.2%	4.2%	3.9%	勤務

区分:無職者 男性				図表12-16-2	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=288	n=271	n=1584	
1	病気の悩み(身体の病気)	20.1%	21.0%	20.4%	健康
2	病気の悩み・影響(うつ病)	14.6%	17.7%	16.9%	健康
3	生活苦	8.0%	6.3%	6.6%	経済生活
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	5.9%	4.1%	4.1%	健康
5	失業	4.9%	4.1%	5.9%	経済生活
6	夫婦関係の不和	3.8%	2.6%	2.0%	家庭
6	病気の悩み・影響(統合失調症)	3.8%	6.3%	5.0%	健康
6	就職失敗	3.8%	1.5%	2.6%	経済生活
9	孤独感	3.5%	1.8%	2.0%	その他
10	負債(その他)	3.1%	3.7%	3.2%	経済生活

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 男性の自殺者の原因・動機(小分類)を有職者・無職者別に過去5年平均と比較した。
- 「有職者」は、2020年は「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで、「仕事疲れ」、「職場の人間関係」の順であり、これらの原因・動機は、いずれも過去5年平均と比較して、比率が上昇した(図表12-16-1)。
- 「無職者」は、2020年は「病気の悩み(身体の病気)」が最も多く、次いで、「病気の悩み・影響(うつ病)」、「生活苦」の順であり、これらの原因・動機のうち、「生活苦」のみが過去5年平均と比較して、比率が上昇した(図表12-16-2)。

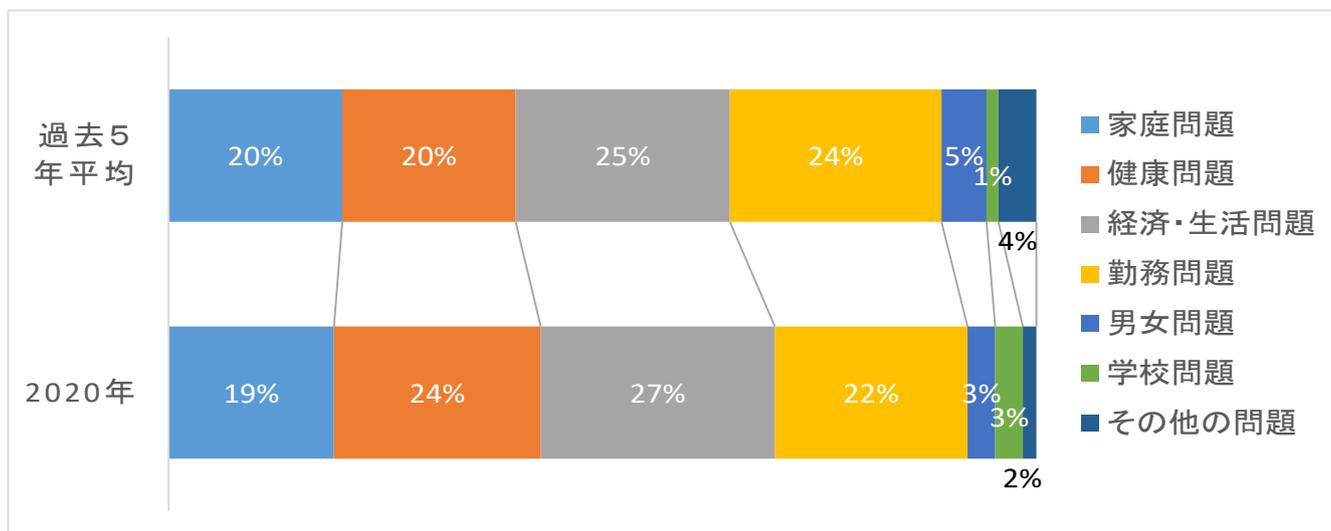
1 (2) 男性の概況

図表12-17

うつ病と併せて計上された原因・動機の比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位: %

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- うつ病は、「経済・生活問題」や「家庭問題」、「勤務問題」等、他の問題が深刻化する中で、発症することも多いと考えられることから、男性自殺者の原因・動機の上位にある「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された原因・動機について調べた。
- 構成比で見ると、2020年は、「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された要因は、「経済・生活問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「勤務問題」の順に多かった。
- 過去5年平均と比較すると、「健康問題」が4ポイントと最も上昇し、次いで、「経済・生活問題」、「学校問題」がそれぞれ2ポイント上昇した。

図表12-18

原因・動機(小分類)別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	家庭問題		年間
	上半期	下半期	
親子関係の不和	-1.4	3.0	1.6
夫婦関係の不和	-1.4	1.2	-0.2
その他家族関係の不和	0.2	-2.0	-1.8
家族の死亡	-3.0	2.0	-1.0
家族の将来悲観	-3.6	0.4	-3.2
家族からのしつけ・叱責	0.4	1.2	1.6
子育ての悩み	-0.4	-0.6	-1.0
被虐待	0.0	-0.2	-0.2
介護・看病疲れ	-3.2	-1.0	-4.2
家庭問題その他	-0.8	0.0	-0.8

● 2020年の男性の自殺者の原因・動機(小分類)別について、過去5年平均と比較した。

● 「家庭問題」は、下半期の「親子関係の不和」が最も増加し、次いで、「家族の死亡」が多かった。

	健康問題		年間
	上半期	下半期	
病気の悩み(身体の病気)	-2.4	-1.4	-3.8
病気の悩み・影響(うつ病)	11.0	4.6	-6.4
病気の悩み・影響(統合失調症)	-3.6	-1.0	-4.6
病気の悩み・影響(アルコール依存症)	0.4	2.0	2.4
病気の悩み・影響(薬物乱用)	-0.6	-0.2	-0.8
病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	5.2	9.2	14.4
身体障害の悩み	-2.0	1.2	-0.8
健康問題その他	0.4	1.4	1.8

● 「健康問題」は、下半期の「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」が最も増加し、次いで、上半期の「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」、下半期の「病気の悩み・影響(うつ病)」の順となった。

	経済・生活問題		年間
	上半期	下半期	
倒産	-0.8	-0.6	-1.4
事業不振	0.8	2.8	3.6
失業	-5.2	0.0	-5.2
就職失敗	3.2	-0.6	2.6
生活苦	-4.2	-2.2	-6.4
負債(多重債務)	1.0	-3.0	-2.0
負債(連帯保証債務)	-0.2	-1.0	-1.2
負債(その他)	-5.6	0.6	-5.0
借金の取り立て苦	2.0	1.2	3.2
自殺による保険金支給	-1.0	0.2	-0.8
経済生活問題その他	-1.0	-1.2	-2.2

● 「経済・生活問題」は、上半期の「就職失敗」が最も増加し、次いで、下半期の「事業不振」が増加した。

注)自殺月で集計している。原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

1 (2) 男性の概況

図表12-19

原因・動機(小分類)別男性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	勤務問題		
	上半期	下半期	年間
仕事の失敗	-2.0	2.2	0.2
職場の人間関係	-3.2	6.8	3.6
職場環境の変化	-1.8	5.6	3.8
仕事疲れ	-1.8	5.6	3.8
勤務問題その他	-2.4	5.6	3.2

- 「勤務問題」は、すべての項目で、上半期は下回り、下半期は上回った。下半期のうち、最も大きく上回ったのは、「職場の人間関係」で、次いで、「職場環境の変化」・「仕事疲れ」・「勤務問題その他」の順であった。

	男女問題		
	上半期	下半期	年間
結婚をめぐる悩み	0.2	-1.0	-0.8
失恋	-0.2	3.8	3.6
不倫の悩み	-0.2	1.4	1.2
その他交際をめぐる悩み	1.2	-3.6	-2.4
男女問題その他	-1.4	-0.6	-2.0

- 「男女問題」は、下半期の「失恋」が最も増加した。

	学校問題		
	上半期	下半期	年間
入試に関する悩み	0.8	-0.8	0.0
その他進路に関する悩み	2.8	3.8	6.6
学業不振	-1.0	-0.2	-1.2
教師との人間関係	0.0	0.0	0.0
いじめ	-0.2	0.0	-0.2
その他学友との不和	-0.8	0.8	0.0
学校問題その他	-0.2	-0.6	-0.8

- 「学校問題」は、上半期、下半期ともに、「その他進路に関する悩み」が最も増加した。

	その他の問題		
	上半期	下半期	年間
犯罪発覚等	-1.8	1.2	-0.6
犯罪被害	0.0	0.0	0.0
後追い	-0.6	-0.8	-1.4
孤独感	4.0	1.0	5.0
近隣関係	0.8	-0.4	0.4
その他問題その他	-18.8	-11.8	-30.6

- 「その他の問題」は、上半期の「孤独感」が最も増加した。

注)自殺月で集計している。原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

男性の概況まとめ

- 男性の自殺者数は、2007年以降、2009年が最多で1,309人、2019年が最少で732人であり、この間、577人と、大きく減少したが、2020年は前年比79人増の811人と増加した。
- 年齢階級別では、「20歳代」が過去5年平均を大きく上回ったことが特徴的であった。特に、「20～24歳」の増加が目立った。2020年の「20歳代男性」の自殺者数を職業別で見ると、「被雇用者・勤め人」が最も多く、次いで、「学生・生徒等」と「その他無職者」の順で多かった。また、原因・動機別では、「勤務問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「経済・生活問題」の順となった。(※付録参照)
- 職業別では、過去5年平均と比較して、「有職者」は「被雇用者・勤め人」が、「無職者」は「失業者」が増加し、「学生・生徒等」も増加した。また、「被雇用者・勤め人」の中では、「専門・技術職」が最も増加した。
- 原因・動機別の構成比をみると、過去5年平均と比較して、「健康問題」と「勤務問題」が最も増加した。「健康問題」の中で、最も多い「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された原因・動機は、2020年では「経済・生活問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「勤務問題」の順に多かった。また、このうち、過去5年平均と比較して、最も増加した原因・動機は「健康問題」であった。
- 月別自殺者数では、主に「8月」以降で過去5年平均を上回り、特に、「10月」の増加が大きかった。「8月」以降の増加は、主に「若年層」と「中高年層」の増加の影響が大きく、また、職業の有無別自殺者数を過去5年平均と期別で比較すると、下半期では、特に「有職者」の増加が目立った。
- また、「若年層」と「中高年層」の有職者における下半期の原因・動機をみると、過去5年平均と比較して「勤務問題」が最も増加した。また、「中高年層」では、「健康問題」も増加した。

1 (3) 女性の概況

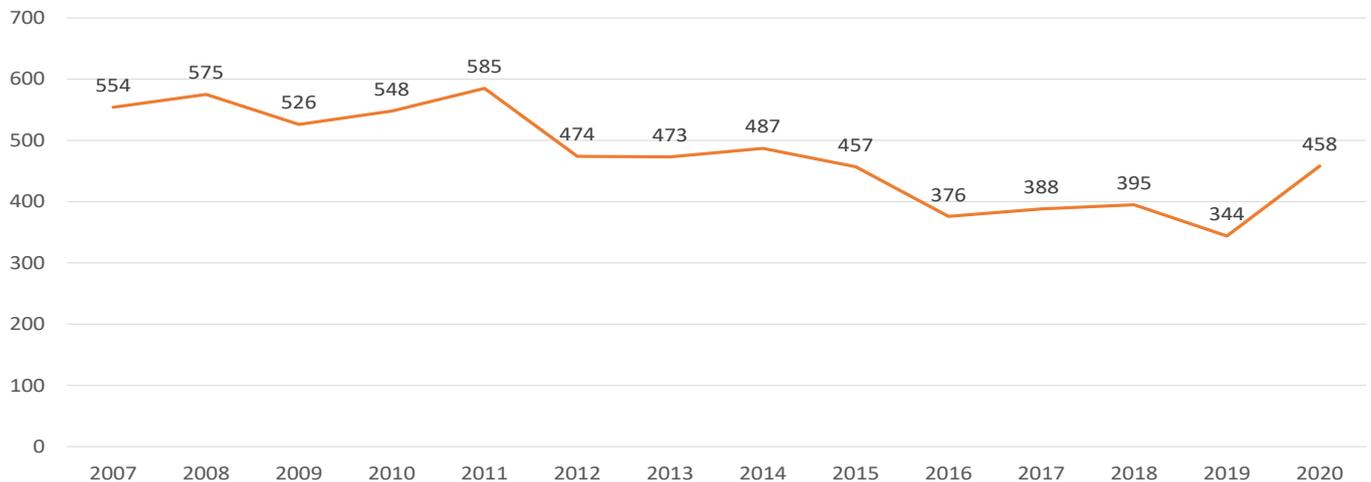
(3) 女性の概況

図表13-01

女性自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



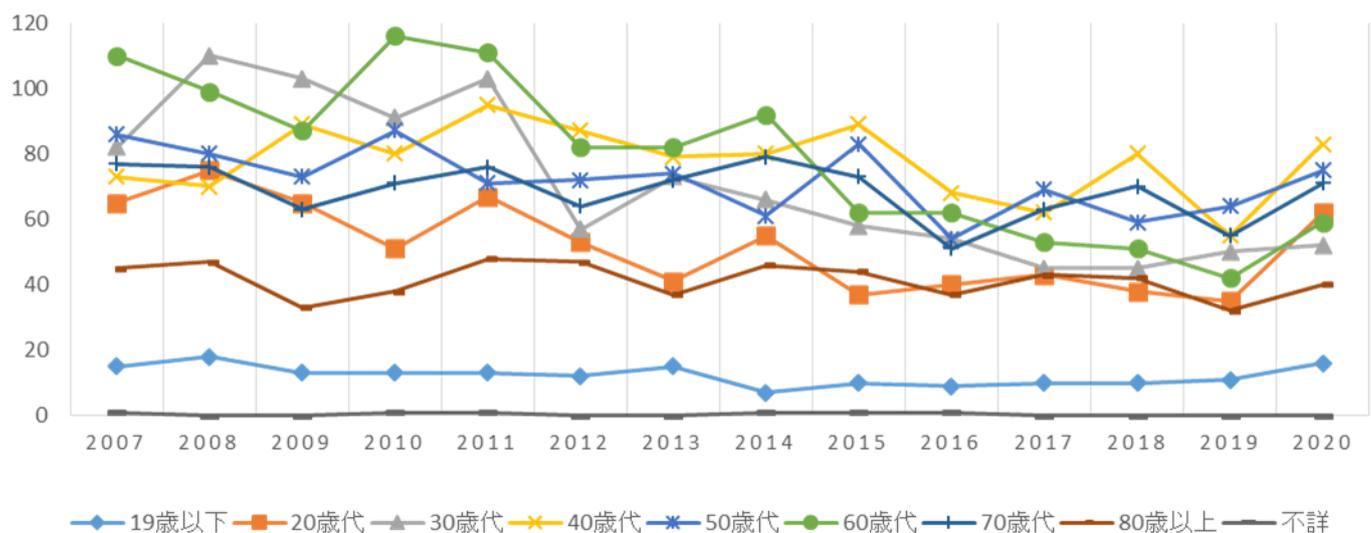
- 女性の自殺者は、2020年は前年比で114人(33.1%)増加し、458人となった。1年で100人を超えて増加したのは、2007年以降で初である。

図表13-02

年齢階級別女性自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳は除外している。

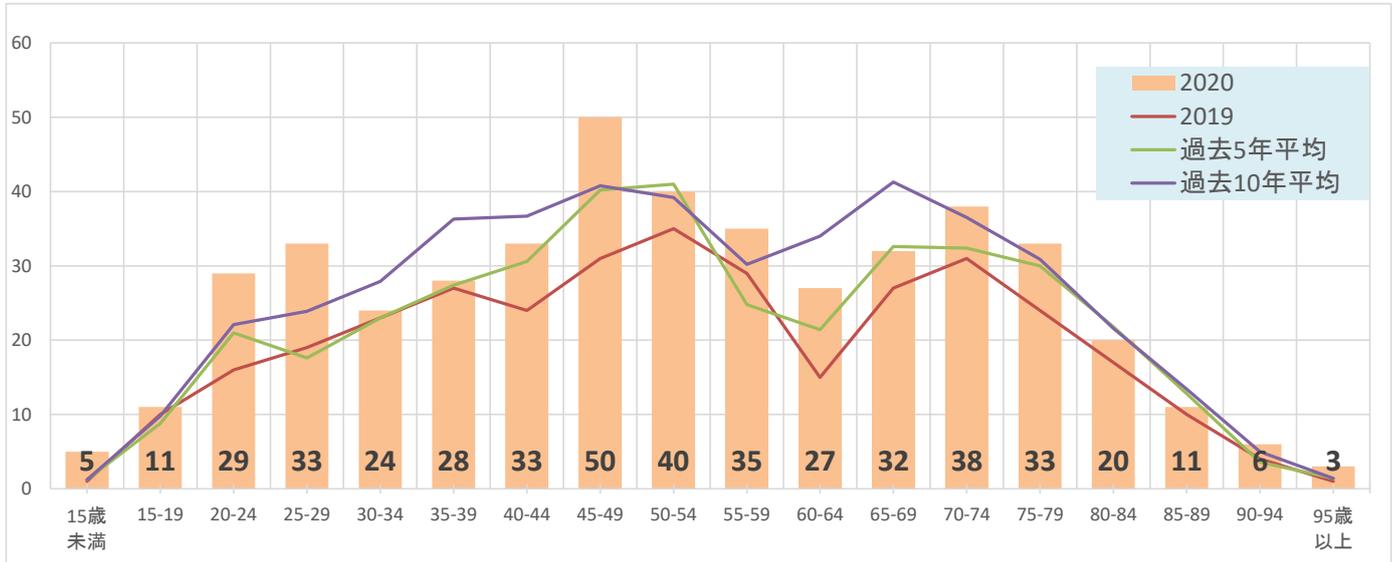
- 年齢階級別自殺者数の推移をみると、2007年以降、「20歳代~70歳代」はおおむね減少傾向、「19歳以下」と「80歳以上」が横ばいで推移してきたが、2020年は、すべての年代で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「40歳代」と「20歳代」であった。

図表13-03

年齢階級別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



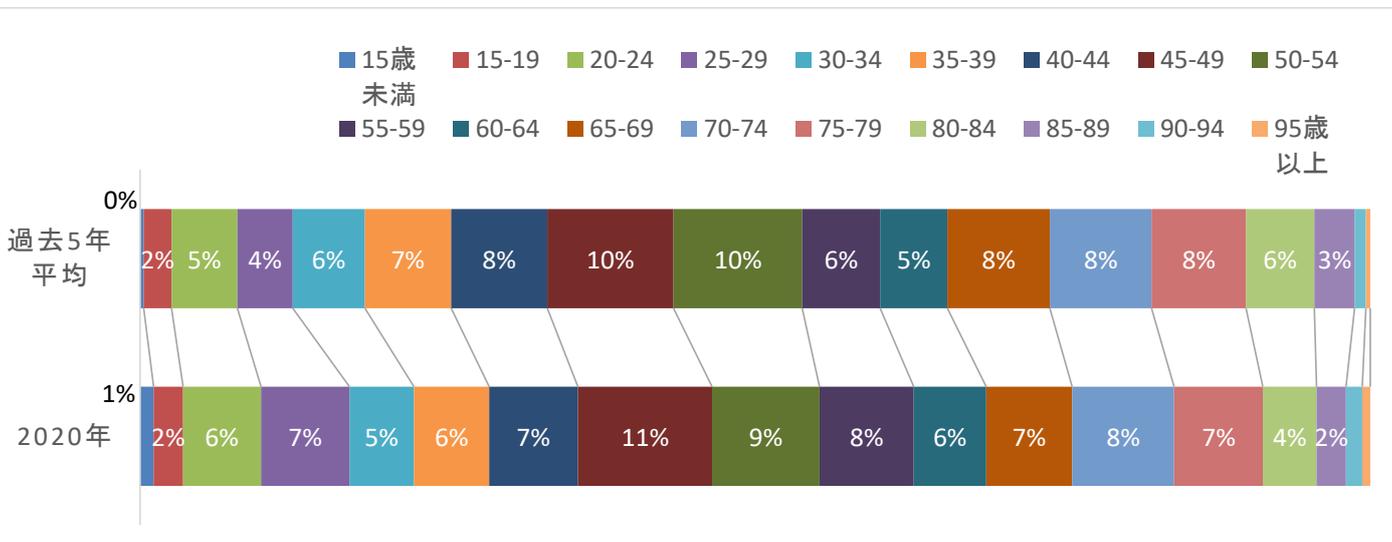
注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の女性の自殺者数について、年齢階級別で見ると、「40歳代後半」が最も多く、次いで、「50歳代前半」、「70歳代前半」の順に多くなっている。
- 過去10年平均、5年平均との比較では、「20歳代前半及び後半」、「40歳代後半」が大きく上回っていることが特徴的である。

図表13-04

年齢階級別女性自殺者数の構成比(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

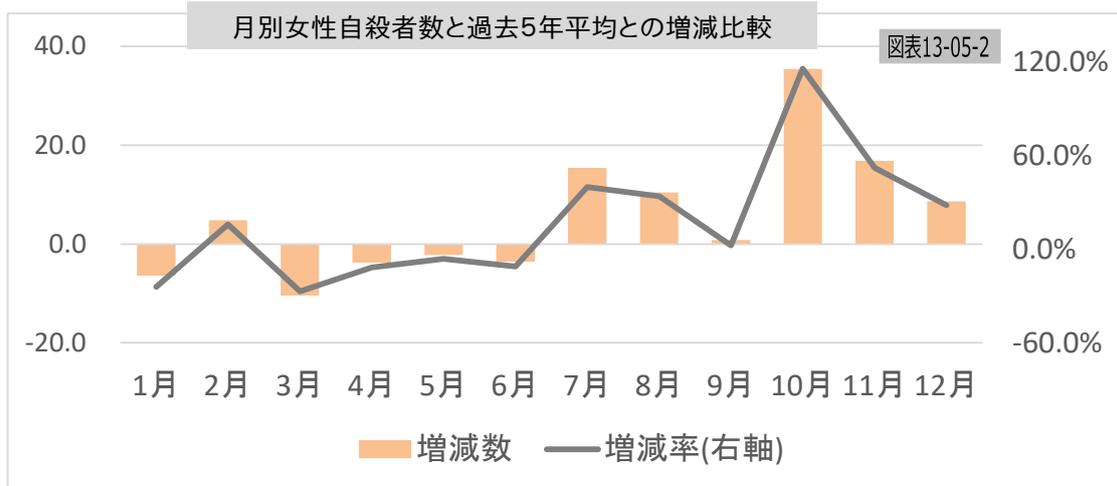
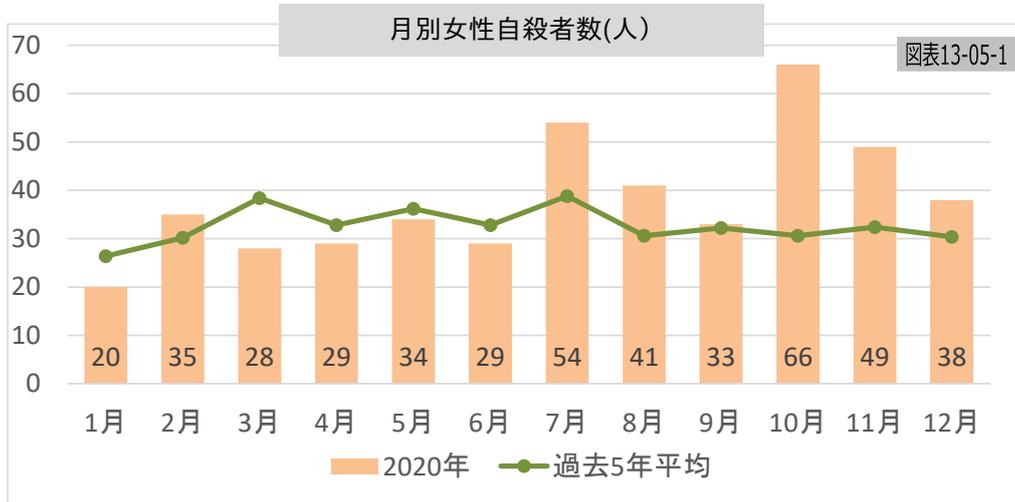
- 2020年の女性自殺者数の年齢階級別構成比を過去5年平均と比較すると、「25～29歳」が3ポイント増と、最も上昇した。

1 (3) 女性の概況

図表13-05

月別女性自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



図表13-05-3

(女性)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
過去5年平均	26.4	30.2	38.4	32.8	36.2	32.8	38.8	30.6	32.2	30.6	32.4	30.4	391.8
2020年	20	35	28	29	34	29	54	41	33	66	49	38	456
増減数	-6.4	4.8	-10.4	-3.8	-2.2	-3.8	15.2	10.4	0.8	35.4	16.6	7.6	64.2
増減率	-24.2%	15.9%	-27.1%	-11.6%	-6.1%	-11.6%	39.2%	34.0%	2.5%	115.7%	51.2%	25.0%	16.4%

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

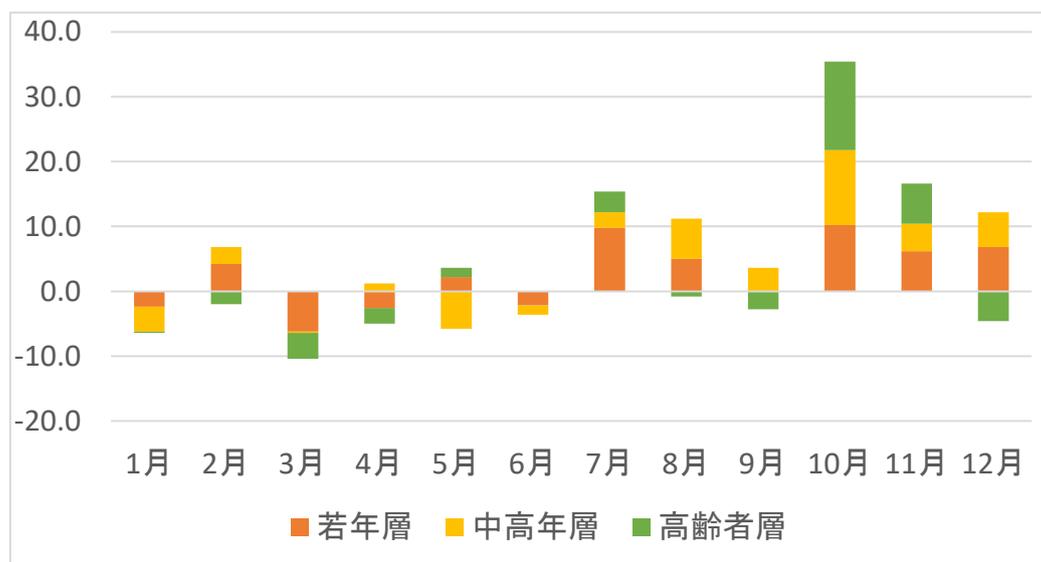
- 2020年の女性の月別自殺者数の推移をみると、「10月」が最も多く、「1月」が最も少なくなっている(図表13-05-1)。
- 月別自殺者数について、過去5年平均と比較すると、「6月」までは「2月」を除き下回ったが、「7月」以降は継続して上回った。年間では、上半期の減少が下半期の増加を下回ったため、64.2人の増加となった(図表13-05-2,図表13-05-3)。
- また、増加数が最も多かったのは、「10月」で35.4人(115.7%)の増であった(図表13-05-2,図表13-05-3)。

図表13-06

年齢階級別女性自殺者数の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



(女性)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
若年層	40歳未満	-2.4	4.2	-6.2	-2.6	2.2	-2.2	9.8	5.0	0.0	10.2	6.2	6.8	31.0
中高年層	40~64歳	-3.8	2.6	-0.2	1.2	-5.8	-1.4	2.4	6.2	3.6	11.6	4.2	5.4	26.0
高齢者層	65歳以上	-0.2	-2.0	-4.0	-2.4	1.4	0.0	3.2	-0.8	-2.8	13.6	6.2	-4.6	7.6
合計		-6.4	4.8	-10.4	-3.8	-2.2	-3.6	15.4	10.4	0.8	35.4	16.6	7.6	64.6

注)自殺月で集計している。年齢不詳、自殺月不詳は除外している。

- 2020年の女性の自殺者数は過去5年平均を「7月」に大きく上回り、「12月」までほぼ継続して上回った。
- 年齢階級別にみると、特に、女性の自殺者が最も増加が多かった「10月」のほか、「7月」や「11月」では、すべての年齢層で増加している。
- また、年間では、「若年層」が最も多く31.0人の増、次いで「中高年層」26.0人、「高齢者層」7.6人の順となっている。

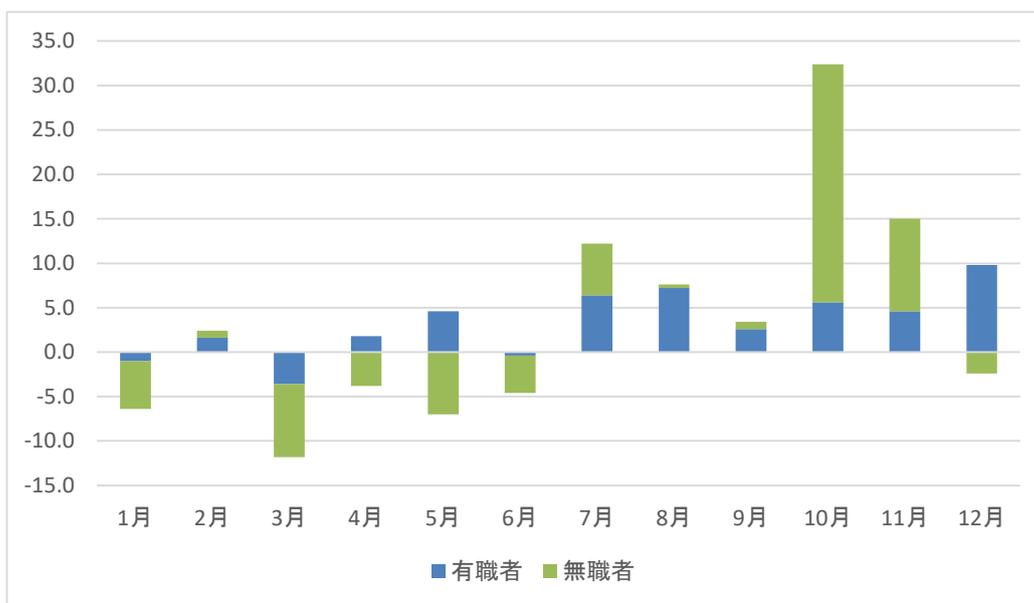
1 (3) 女性の概況

図表13-07

職業有無別女性自殺者数の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



(女性)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
有職者	-1.0	1.6	-3.6	1.8	4.6	-0.4	6.4	7.2	2.6	5.6	4.6	9.8	39.2
無職者	-5.4	0.8	-8.2	-3.8	-7.0	-4.2	5.8	0.4	0.8	26.8	10.4	-2.4	14.0

注)自殺月で集計している。職業不詳、自殺月不詳は除外している。

- 2020年の女性の職業有無別自殺者数を月別で過去5年平均と比較すると、「有職者」は、過去5年平均を上回る月が多かったが、「無職者」は上半期は減少傾向、下半期は増加傾向で、年間では、「有職者」が39.2人の増、「無職者」が14.0人の増となった。
- 過去5年平均と比べ、女性の自殺者数が最も増加した「10月」については、「無職者」が大きく増加した。

図表13-08

職業別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数(人)

図表13-08-1

		過去5年平均	2020年	増減数	増減率
有職者	自営業・家族従業者	7.8	13	5.2	67%
	被雇用者・勤め人	65.0	99	34.0	52%
無職者	主婦	97.6	112	14.4	15%
	失業者	4.0	6	2.0	50%
	その他無職者	197.8	196	-1.8	-1%
	学生・生徒等	15.6	28	12.4	79%

注) 職業不詳は除外している。

図表13-08-2



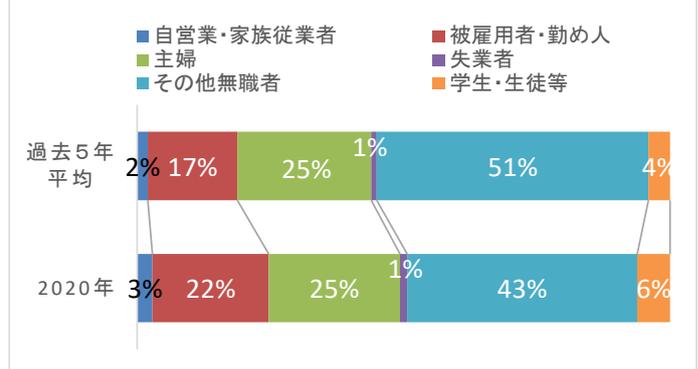
構成比(%)

図表13-08-3

		過去5年平均	2020年
有職者	自営業・家族従業者	2%	3%
	被雇用者・勤め人	17%	22%
無職者	主婦	25%	25%
	失業者	1%	1%
	その他無職者	51%	43%
	学生・生徒等	4%	6%

注) 職業不詳は除外している。

図表13-08-4



年齢階級別(人)

図表13-08-5

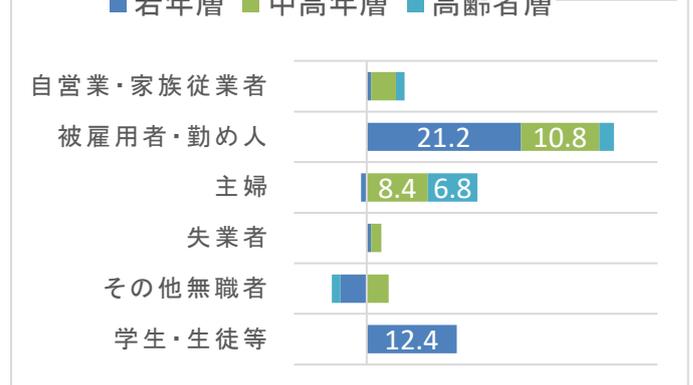
		若年層	中高年層	高齢者層
		40歳未満	40~64歳	65歳以上
有職者	自営業・家族従業者	0.6	3.4	1.2
	被雇用者・勤め人	21.2	10.8	2.0
無職者	主婦	-0.8	8.4	6.8
	失業者	0.6	1.4	0.0
	その他無職者	-3.6	3.0	-1.2
	学生・生徒等	12.4	0.0	0.0

注) 職業不詳、年齢不詳は除外している。

注) 「その他無職者」は、無職者のうち主婦、失業者を除くもので、利子・配当・家賃生活者、年金・雇用保険等生活者、浮浪者及びその他の無職者に分類されるものをまとめている。

若年層 中高年層 高齢者層

図表13-08-6



- 2020年の女性の職業別自殺者数を構成比で過去5年平均と比較すると、「被雇用者・勤め人」が5ポイントと最も上昇し、「学生・生徒等」が2ポイント上昇した(図表13-08-3,図表13-08-4)。
- 自殺者数で過去5年平均と比較すると、「有職者」は、「被雇用者・勤め人」が34.0人、「無職者」は、「主婦」が14.4人とそれぞれ最も増加した。また、「学生・生徒等」が12.4人増加した(図表13-08-1,図表13-08-2)。
- また、過去5年平均と比較して増加が大きかった「被雇用者・勤め人」や「学生・生徒等」では「若年層」が、「主婦」では、「中高年層」での増加が目立った(図表13-08-5,図表13-08-6)。

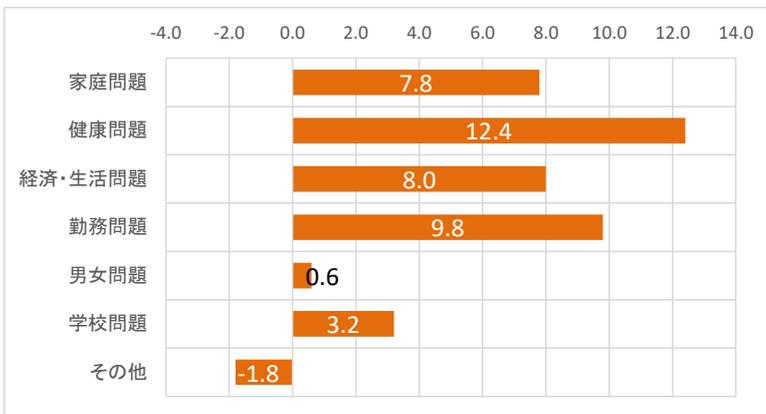
1 (3) 女性の概況

図表13-09

原因・動機別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	75.2	83	7.8
健康問題	201.6	214	12.4
経済・生活問題	20.0	28	8.0
勤務問題	11.2	21	9.8
男女問題	16.4	17	0.6
学校問題	5.8	9	3.2
その他	24.8	23	-1.8

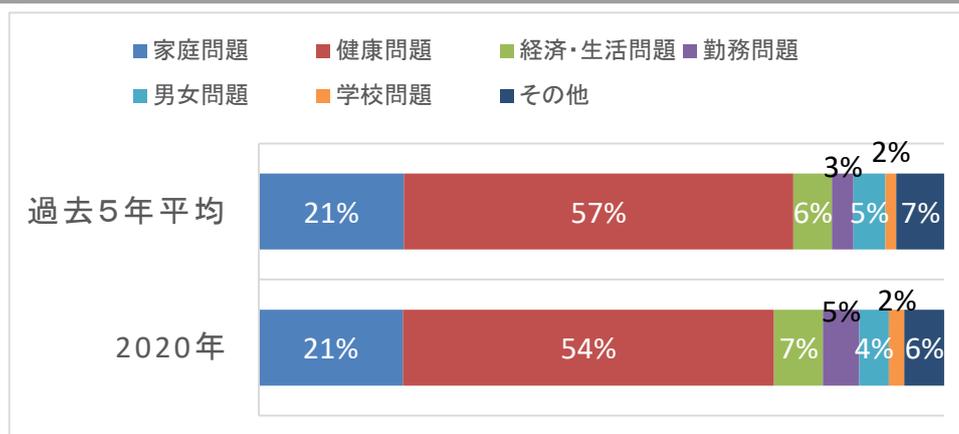
注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性自殺者の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「その他」を除き、すべての区分で増加している。
- 「健康問題」が12.4人と最も多く増加し、次いで、「勤務問題」が9.8人の増加、「経済・生活問題」が8.0人の増加となっている。

図表13-10

原因・動機別女性自殺者数構成比の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



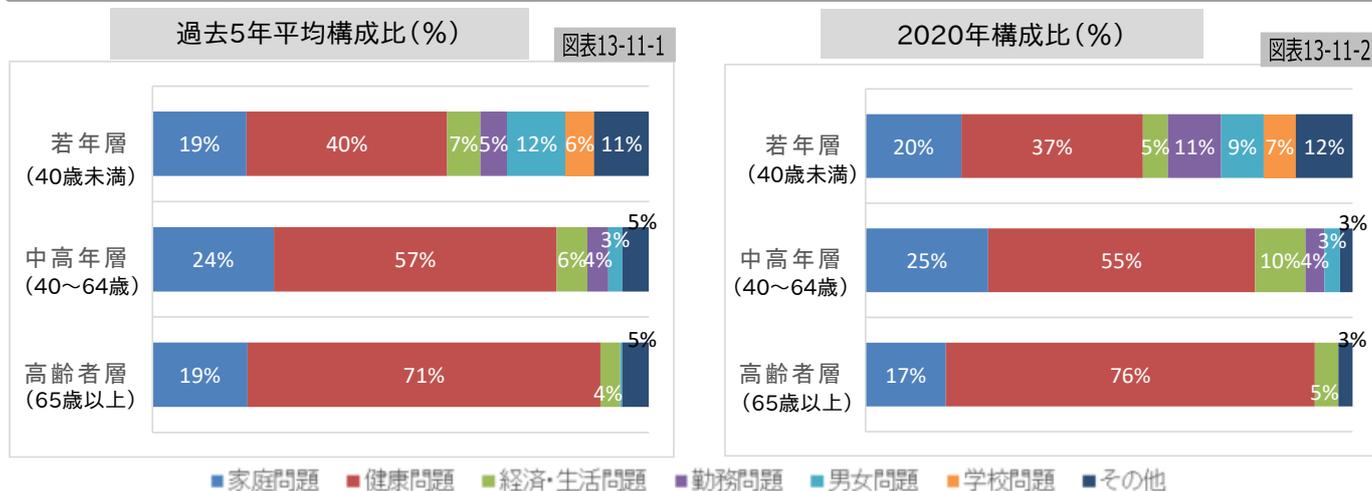
注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性自殺者の原因・動機別の構成比では、「健康問題」が54%と最も多く、次いで、「家庭問題」、「経済・生活問題」の順となった。女性は、男性と比較して、「健康問題」や「家庭問題」の比率が高い。
- また、過去5年平均と比較すると、「勤務問題」と「経済・生活問題」が増加し、「健康問題」が低下した。

図表13-11

年齢階級別、原因・動機別女性自殺者数の構成比比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 女性自殺者の原因・動機別の構成比を年齢階級別に過去5年平均と比較すると、2020年は「若年層」では、「勤務問題」が6ポイントと最も上昇した(図表13-11-1,図表13-11-2)。
- 「中高年層」では、「経済・生活問題」が4ポイントと最も上昇した(図表13-11-1,図表13-11-2)。
- 「高齢者層」では、「健康問題」が5ポイントと最も上昇した(図表13-11-1,図表13-11-2)。

図表13-12

年齢階級別、原因・動機別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	若年層 (40歳未満)			中高年層 (40~64歳)			高齢者層 (65歳以上)		
	過去5年平均	2020年	増減	過去5年平均	2020年	増減	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	19.2	27	7.8	34	39	5.0	22	17	-5
健康問題	41	51	10.0	79.2	85	5.8	81.4	78	-3.4
経済・生活問題	6.8	7	0.2	8.6	16	7.4	4.6	5	0.4
勤務問題	5.4	15	9.6	5.8	6	0.2	0	0	0
男女問題	12	12	0	4	5	1.0	0.4	0	-0.4
学校問題	5.8	9	3.2	0	0	0.0	0	0	0
その他の問題	11.2	16	4.8	7.4	4	-3.4	6.2	3	-3.2

注) 年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性自殺者について、年齢階級別に自殺の原因・動機を過去5年平均と比較すると、「若年層」では、「男女問題」を除くすべての項目で増加した。最も増加したのは、「健康問題」で、次いで、「勤務問題」、「家庭問題」の順に多く増加した。
- 「中高年層」では、「経済・生活問題」が最も増加し、次いで、「健康問題」、「家庭問題」の順に多く増加した。
- 「高齢者層」では、「経済・生活問題」のみが増加した。

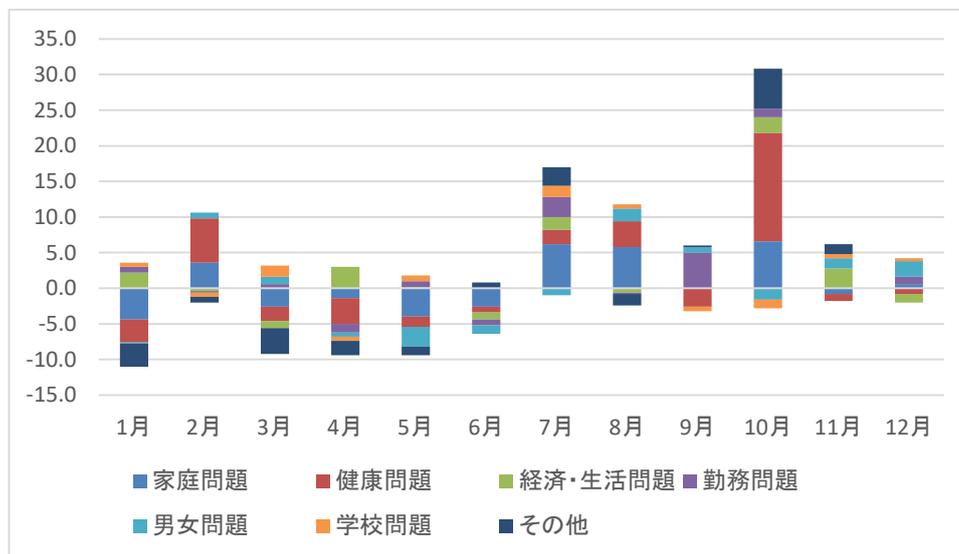
1 (3) 女性の概況

図表13-13

原因・動機別、月別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



原因・動機	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
家庭問題	-4.4	3.6	-2.6	-1.4	-4.0	-2.6	6.2	5.8	0.0	6.6	-0.8	0.6	7.0
健康問題	-3.2	6.2	-2.0	-3.6	-1.4	-0.8	2.0	3.6	-2.6	15.2	-1.0	-0.8	11.6
経済・生活問題	2.2	-0.4	-1.0	3.0	0.2	-1.0	1.8	-0.6	0.0	2.2	2.8	-1.2	8.0
勤務問題	0.8	-0.2	0.6	-1.2	0.8	-0.8	2.8	-0.2	5.0	1.2	0.0	1.0	9.8
男女問題	-0.2	0.8	1.0	-0.6	-2.8	-1.2	-1.0	1.8	0.8	-1.6	1.4	2.2	0.6
学校問題	0.6	-0.6	1.6	-0.6	0.8	0.0	1.6	0.6	-0.6	-1.2	0.6	0.4	3.2
その他	-3.2	-0.8	-3.6	-2.0	-1.2	0.8	2.6	-1.6	0.2	5.6	1.4	0.0	-1.8

注)自殺月で集計している。原因・動機不詳、自殺月不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性の自殺者数を、月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、女性の自殺者数が継続して増加に転じた「7月」は「家庭問題」の増加が目立っている。
- 年間の合計で見ると過去5年平均と比べ増加が多かった上位3位は、①「健康問題」②「勤務問題」③「経済・生活問題」であった。

図表13-14

原因・動機別、年齢階級別女性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	上半期			下半期		
	過去5年平均	2020年	増減	過去5年平均	2020年	増減
若年層 (40歳未満)						
家庭問題	10.8	4	-6.8	8.4	23	14.6
健康問題	22.8	22	-0.8	18.2	29	10.8
経済・生活問題	2.4	1	-1.4	4.4	6	1.6
勤務問題	2.4	4	1.6	3	11	8.0
男女問題	4.6	2	-2.6	7.4	10	2.6
学校問題	2.2	4	1.8	3.6	5	1.4
その他の問題	7	1	-6.0	4.2	15	10.8
合計	52.2	38	-14.2	49.2	99	49.8
中高年層 (40~64歳)						
家庭問題	16.2	15	-1.2	17.8	23	5.2
健康問題	40.2	39	-1.2	38.8	46	7.2
経済・生活問題	4.6	8	3.4	4	8	4.0
勤務問題	2.6	1	-1.6	3.2	5	1.8
男女問題	2.2	2	-0.2	1.8	3	1.2
その他の問題	4.4	1	-3.4	3	3	0.0
合計	70.2	66	-4.2	68.6	88	19.4
高齢者層 (65歳以上)						
家庭問題	10.4	7	-3.4	11.4	10	-1.4
健康問題	40.8	38	-2.8	40.6	39	-1.6
経済・生活問題	2	3	1.0	2.6	2	-0.6
勤務問題	0	0	0.0	0	0	0.0
男女問題	0.2	0	-0.2	0.2	0	-0.2
その他の問題	3.6	3	-0.6	2.6	0	-2.6
合計	57	51	-6.0	57.4	51	-6.4

注) 自殺月で集計している。年齢不詳、自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性自殺者について、期別・年齢階級別に自殺の原因・動機を過去5年平均と比較した。
- 「若年層」は、上半期はほぼ減少傾向であったが、「学校問題」、「勤務問題」で増加した。下半期はすべての項目で増加し、最も増加したものは、「家庭問題」で、次いで「健康問題」及び「その他の問題」、「勤務問題」の順であった。
- 「中高年層」は、上半期は、「経済・生活問題」のみが増加した。下半期はほぼすべての項目で増加し、最も増加したものは、「健康問題」、次いで「家庭問題」の順であった。
- 「高齢者層」は上半期は、「経済・生活問題」のみが増加した。下半期は、ほぼすべての項目で減少した。

1 (3) 女性の概況

図表13-15

職業有無別、原因・動機別女性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

若年層(40歳未満) 女性

図表13-15-1

		上半期	下半期	年間
有職者	家庭問題	-0.6	8.4	7.8
	健康問題	2.4	3.0	5.4
	経済・生活問題	0.6	2.2	2.8
	勤務問題	1.6	6.2	7.8
	男女問題	-1.0	2.0	1.0
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	-1.8	3.4	1.6
無職者	家庭問題	-5.6	5.4	-0.2
	健康問題	-7.0	6.2	-0.8
	経済・生活問題	-1.8	-1.2	-3.0
	勤務問題	0.0	1.8	1.8
	男女問題	-1.2	0.8	-0.4
	学校問題	0.0	-0.2	-0.2
	その他の問題	-2.4	1.6	-0.8

中高年層(40~64歳) 女性

図表13-15-2

		上半期	下半期	年間
有職者	家庭問題	-1.6	1.0	-0.6
	健康問題	-4.6	2.0	-2.6
	経済・生活問題	-0.2	2.2	2.0
	勤務問題	-1.6	-1.0	-2.6
	男女問題	-0.4	1.2	0.8
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	-1.6	-1.0	-2.6
無職者	家庭問題	0.6	3.4	4.0
	健康問題	4.4	5.4	9.8
	経済・生活問題	3.8	2.2	6.0
	勤務問題	0.0	2.8	2.8
	男女問題	0.2	-1.0	-0.8
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	-1.8	1.0	-0.8

高齢者層(65歳以上) 女性

図表13-15-3

		上半期	下半期	年間
有職者	家庭問題	0.6	0.6	1.2
	健康問題	-0.4	1.0	0.6
	経済・生活問題	-0.2	-1.0	-1.2
	勤務問題	0.0	0.0	0.0
	男女問題	0.0	0.0	0.0
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	-0.4	-0.4	-0.8
無職者	家庭問題	-4.0	-2.0	-6.0
	健康問題	-2.4	-2.4	-4.8
	経済・生活問題	1.2	0.4	1.6
	勤務問題	0.0	0.0	0.0
	男女問題	-0.2	-0.2	-0.4
	学校問題	0.0	0.0	0.0
	その他の問題	-0.2	-2.2	-2.4

- 2020年の女性自殺者について、さらに、年齢階級別に職業有無別の原因・動機を過去5年平均と比較した。
- 「若年層」は、下半期の増加が目立ったが、下半期の原因・動機は、「有職者」では「家庭問題」が最も増加し、次いで「勤務問題」が、「無職者」では「健康問題」が最も増加し、次いで「家庭問題」が増加した(図表13-15-1)。
- 「中高年層」は、「有職者」では、下半期の「経済・生活問題」が最も増加した。「無職者」では、上半期では「健康問題」と「経済・生活問題」が、下半期では「健康問題」と「家庭問題」が主に増加した(図表13-15-2)。
- 「高齢者層」については、年間を通じて、「有職者」では「家庭問題」が、「無職者」では「経済・生活問題」が増加した(図表13-15-3)。

注)自殺月で集計している。

年齢不詳、職業不詳、自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

図表13-16

職業有無別、原因・動機(小分類)別女性自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

区分:有職者 女性				図表13-16-1	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=96	n=77	n=377	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	25.0%	23.4%	23.9%	健康
2	夫婦関係の不和	7.3%	1.3%	5.3%	家庭
3	職場の人間関係	6.3%	3.9%	4.2%	勤務
4	家庭問題その他	5.2%	0.0%	3.2%	家庭
5	生活苦	4.2%	1.3%	1.6%	経済生活
6	親子関係の不和	3.1%	3.9%	2.4%	家庭
6	家族の死亡	3.1%	1.3%	2.7%	家庭
6	子育ての悩み	3.1%	5.2%	1.9%	家庭
6	病気の悩み(身体の病気)	3.1%	5.2%	6.1%	健康
6	病気の悩み・影響(統合失調症)	3.1%	0.0%	3.2%	健康
6	健康問題その他	3.1%	1.3%	1.1%	健康

区分:無職者 女性				図表13-16-2	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=264	n=240	n=1291	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	32.2%	29.2%	30.1%	健康
2	病気の悩み(身体の病気)	16.7%	13.3%	16.5%	健康
3	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	8.0%	5.4%	6.2%	健康
4	病気の悩み・影響(統合失調症)	6.1%	5.4%	7.3%	健康
5	家族の将来悲観	4.5%	2.5%	2.4%	家庭
6	夫婦関係の不和	4.2%	2.9%	3.6%	家庭
7	家庭問題その他	3.0%	2.9%	1.9%	家庭
7	生活苦	3.0%	2.1%	1.9%	経済生活

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

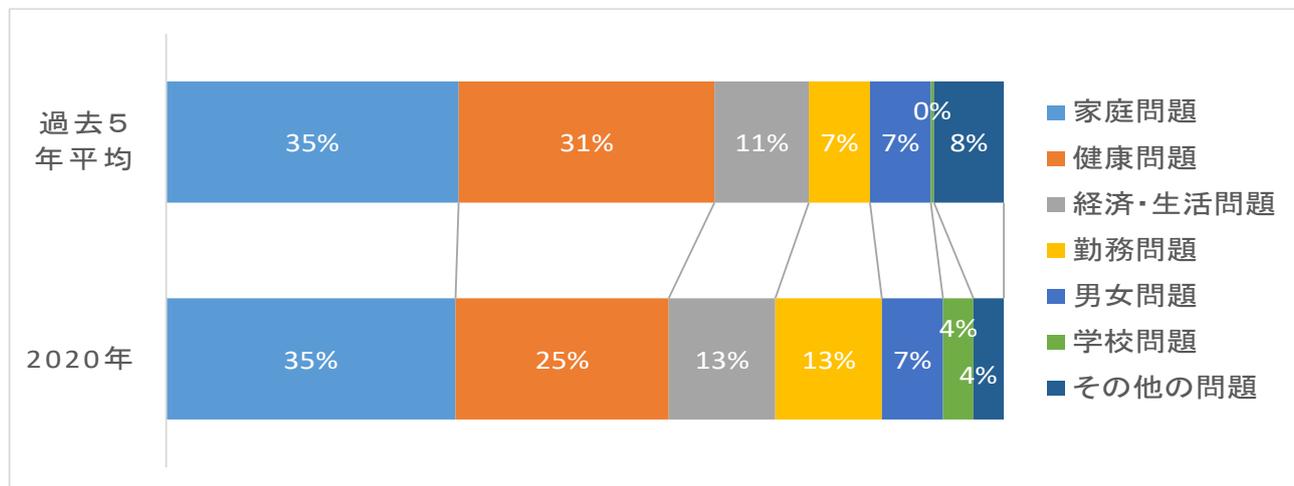
- 女性の自殺者の原因・動機(小分類)を有職者・無職者別に過去5年平均と比較した。
- 「有職者」は、2020年は「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで、「夫婦関係の不和」、「職場の人間関係」の順であり、これらの原因・動機は、いずれも過去5年平均と比較して、比率が上昇した(図表13-16-1)。
- 「無職者」は、2020年は「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで、「病気の悩み(身体の病気)」、「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」の順であり、これらの原因・動機はいずれも過去5年平均と比較して比率が上昇した(図表13-16-2)。

1 (3) 女性の概況

図表13-17

うつ病と併せて計上された原因・動機の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- うつ病は、「経済・生活問題」や「家庭問題」、「勤務問題」等、他の問題が深刻化する中で、発症することも多いと考えられることから、女性自殺者の原因・動機の上位にある「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された原因・動機について調べた。
- 構成比で見ると、2020年は、「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された要因は、「家庭問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「経済・生活問題」・「勤務問題」の順に多かった。
- 過去5年平均と比較すると、「勤務問題」が6ポイントと最も上昇し、次いで、「学校問題」が4ポイント上昇した。

図表13-18

原因・動機(小分類)別女性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	家庭問題		
	上半期	下半期	年間
親子関係の不和	-1.6	-0.6	-2.2
夫婦関係の不和	-0.6	5.4	4.8
その他家族関係の不和	-2.0	-2.2	-4.2
家族の死亡	-3.4	2.0	-1.4
家族の将来悲観	1.6	3.4	5.0
家族からのしつけ・叱責	-0.8	2.2	1.4
子育ての悩み	-1.0	1.4	0.4
被虐待	0.0	0.0	0.0
介護・看病疲れ	-1.0	-2.2	-3.2
家庭問題その他	-2.6	9.0	6.4

	健康問題		
	上半期	下半期	年間
病気の悩み(身体の病気)	-0.8	0.4	-0.4
病気の悩み・影響(うつ病)	-0.6	15.8	15.2
病気の悩み・影響(統合失調症)	1.4	-3.0	-1.6
病気の悩み・影響(アルコール依存症)	-1.6	-0.2	-1.8
病気の悩み・影響(薬物乱用)	-0.4	-0.2	-0.6
病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	-1.0	3.2	2.2
身体障害の悩み	-0.6	-1.0	-1.6
健康問題その他	-1.2	1.4	0.2

	経済・生活問題		
	上半期	下半期	年間
倒産	0.0	0.0	0.0
事業不振	-0.2	-0.6	-0.8
失業	0.0	0.4	0.4
就職失敗	-0.2	0.8	0.6
生活苦	4.2	1.4	5.6
負債(多重債務)	0.6	0.0	0.6
負債(連帯保証債務)	0.0	0.0	0.0
負債(その他)	-0.4	-1.4	-1.8
借金の取り立て苦	-0.2	1.0	0.8
自殺による保険金支給	-0.2	0.0	-0.2
経済生活問題その他	-0.6	3.4	2.8

● 2020年の女性の自殺者の原因・動機(小分類)別について、過去5年平均と比較した。

● 「家庭問題」は、下半期の「家庭問題その他」が最も増加し、次いで、「夫婦関係の不和」が増加した。

● 「健康問題」は、特に下半期の「病気の悩み・影響(うつ病)」が増加した。

● 「経済・生活問題」は、主に、上半期の「生活苦」が最も増加し、次いで、下半期の「経済生活問題その他」が増加した。

注)自殺月で集計している。自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

1 (3) 女性の概況

図表13-19

原因・動機(小分類)別女性自殺者数の期別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

	勤務問題		
	上半期	下半期	年間
仕事の失敗	1.0	-0.8	0.2
職場の人間関係	0.4	5.4	5.8
職場環境の変化	-0.8	2.8	2.0
仕事疲れ	-0.8	1.4	0.6
勤務問題その他	0.2	1.0	1.2

- 「勤務問題」は、下半期の増加が特徴的で、そのうち「職場の人間関係」の増が最も多く、次いで、「職場環境の変化」が多かった。

	男女問題		
	上半期	下半期	年間
結婚をめぐる悩み	-0.2	0.4	0.2
失恋	0.2	0.2	0.4
不倫の悩み	-0.8	1.0	0.2
その他交際をめぐる悩み	-2.2	0.6	-1.6
男女問題その他	0.0	1.4	1.4

- 「男女問題」は、下半期に増加した。主なものは「男女問題その他」であった。

	学校問題		
	上半期	下半期	年間
入試に関する悩み	-0.2	-0.2	-0.4
その他進路に関する悩み	-0.8	0.8	0.0
学業不振	1.4	0.6	2.0
教師との人間関係	0.0	-0.2	-0.2
いじめ	1.0	0.0	1.0
その他学友との不和	0.8	-0.2	0.6
学校問題その他	-0.4	0.6	0.2

- 「学校問題」は、上半期に「学業不振」、「いじめ」でやや増加し、下半期で、「その他進路に関する悩み」、「学業不振」及び「学校問題その他」がやや増加した。

	その他の問題		
	上半期	下半期	年間
犯罪発覚等	0.0	-0.2	-0.2
犯罪被害	-0.2	0.8	0.6
後追い	-1.8	1.8	0.0
孤独感	-1.6	3.2	1.6
近隣関係	-0.4	1.8	1.4
その他問題その他	-6.0	0.8	-5.2

- 「その他の問題」は、下半期の「孤独感」が最も増加した。

注) 自殺月で集計している。自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

女性の概況まとめ

- 2020年の女性の自殺者数は、前年比114人増の458人となったが、1年で100人を超えて増加したのは、2007年以降で初である。
- 年齢階級別では、「20歳代」が過去5年平均を大きく上回ったことが特徴的であった。「20歳代女性」の自殺者数を職業別でみると、「被雇用者・勤め人」が最も多く、次いで、「その他の無職者」、「学生・生徒等」の順となっており、原因・動機別では、「健康問題」が最も多く、次いで、「家庭問題」、「男女問題」、「その他」の順であった。（※付録参照）
- 職業別では、過去5年平均と比較して、「有職者」では「被雇用者・勤め人」が、「無職者」では「主婦」が最も多く増加した。また、「学生・生徒等」も増加した。また、「被雇用者・勤め人」のうち、「専門・技術職」が最も多く増加した。
- 原因・動機別では、過去5年平均と比較して、「健康問題」が最も増加し、次いで、「勤務問題」が増加した。「健康問題」の中で最も多い「病気の悩み・影響(うつ病)」と併せて計上された原因・動機では、「家庭問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「経済・生活問題」・「勤務問題」の順に多かった。また、このうち、過去5年平均と比較して、最も増加した原因・動機は「勤務問題」であった。
- 月別自殺者数では、主に「7月」以降で過去5年平均を上回り、特に「10月」が大きく増加した。「7月」以降は、「高齢者層」が「8月」、「9月」、「12月」に減少したものの、その他の月は、ほぼすべての年齢階級で増加した。
- 職業の有無別で過去5年平均と比較すると、ともに、「7月」以降は増加傾向であった。特に増加が目立った下半期の原因・動機別について、過去5年平均と比較すると、「若年層」の「有職者」では、「家庭問題」が最も多く、次いで「勤務問題」が、「無職者」では、「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」が、「中高年層」の「有職者」では、「経済・生活問題」が最も多く、次いで「健康問題」が、「無職者」では、「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」が、「高齢者層」の「有職者」では、「健康問題」が最も多く、「無職者」では「経済・生活問題」が増加した。

(4) 著名人の自殺及び自殺報道の影響

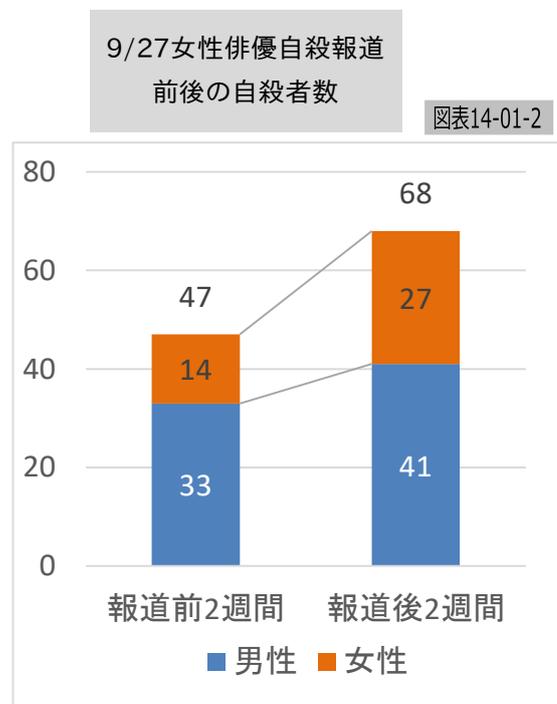
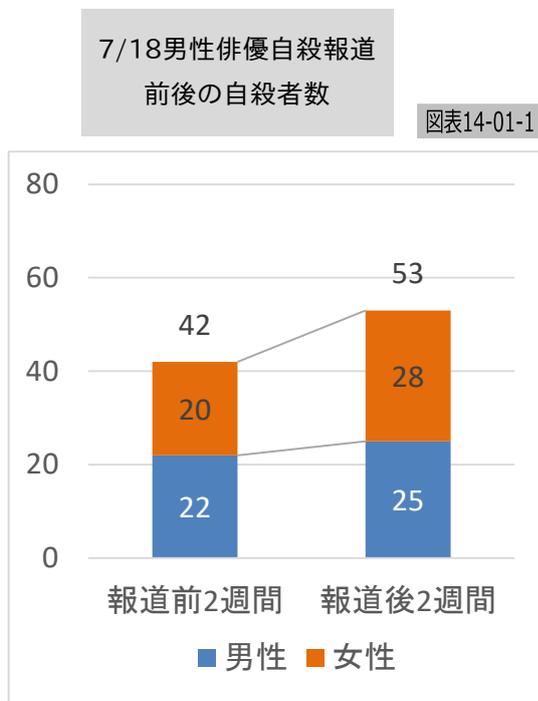
- 2020年の下半期は、相次ぐ著名人の自殺と自殺報道から影響を受けたとみられる自殺の増加が全国的にも特徴的であったことから、特に影響が大きかったとみられる2人の俳優の自殺及び自殺報道時期と本県の自殺者の状況を分析した。
- 1名は男性俳優で、2020年7月18日に自殺で亡くなったことが報道された。また、1名は女性俳優で、2020年9月27日に自殺で亡くなったことが報道された。

図表14-01

著名人の自殺報道前後2週の男女別自殺者数

単位：人

(出典：警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 報道日を第1週の1日目として前後4週の自殺者数

- 自殺報道後2週間と報道前2週間の自殺者数を比較してみると、男性俳優の自殺報道前後においては、自殺者数は42人から53人と、11人増加した。男女別では、男性が22人から25人と3人、女性が20人から28人と8人増加している(図表14-01-1)。
- 女性俳優の自殺報道前後においては、自殺者数は47人から68人と、21人増加した。男女別では、男性が33人から41人と8人、女性が14人から27人と13人増加している。いずれも男性より女性の自殺者が増加している(図表14-01-2)。

図表14-02

著名人の自殺報道前後2週の男女別・年齢階級別自殺者数

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

			7/18男性俳優			9/27女性俳優		
			報道前 2週間	報道後 2週間	増減	報道前 2週間	報道後 2週間	増減
男 性	若年層	40歳未満	8	11	3	15	15	0
	中高年層	40～64歳	10	9	-1	12	19	7
	高齢者層	65歳以上	4	5	1	6	7	1
	小計		22	25	3	33	41	8
女 性	若年層	40歳未満	5	11	6	4	9	5
	中高年層	40～64歳	7	8	1	6	8	2
	高齢者層	65歳以上	8	9	1	4	10	6
	小計		20	28	8	14	27	13
合計			42	53	11	47	68	21

注) 報道日を第1週の1日目として前後4週の自殺者数

- 著名人の自殺及び自殺報道の影響を調べるため、2人の著名人の報道前2週間と報道後2週間の自殺者数の増減数を男女別、年齢階級別で調べた。
- 年齢階級別の状況をみると、男性俳優の自殺報道前後において、増加数が大きい順に、①女性・若年層が6人、②男性・若年層が3人となっている。
- 女性俳優の自殺報道前後においては、増加数の大きい順に、①男性・中高年層が7人、②女性・高齢者層が6人、③女性・若年層が5人となっている。

1 (4) 著名人の自殺及び自殺報道の影響

図表14-03

著名人の自殺報道前後の男女別自殺者数及び前年同期間比

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

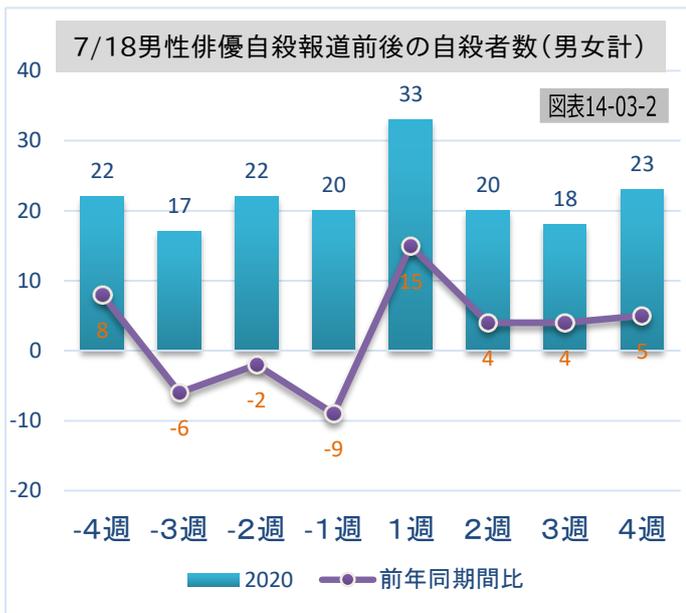
男性俳優の自殺報道前後の前年同期間比

図表14-03-1

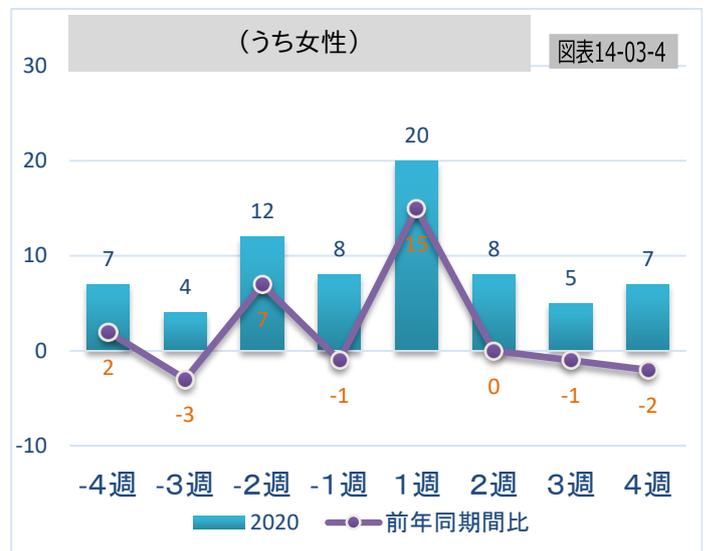
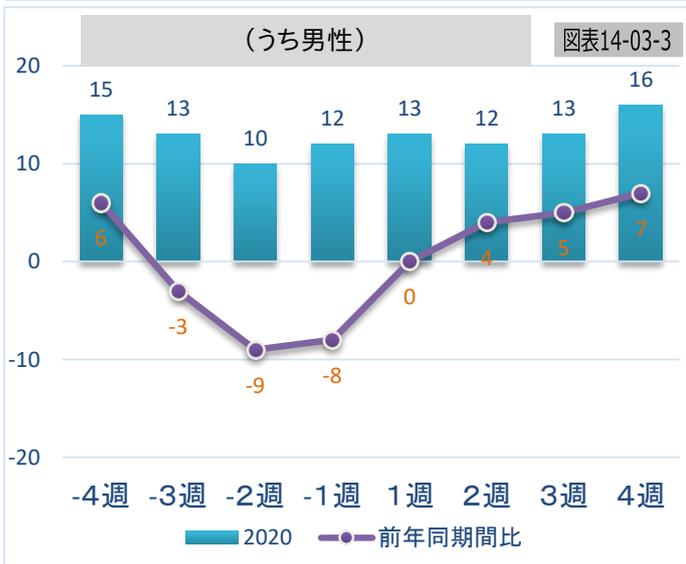
	-4週	-3週	-2週	-1週	1週	2週	3週	4週
男女計	8	-6	-2	-9	15	4	4	5
男性	6	-3	-9	-8	0	4	5	7
女性	2	-3	7	-1	15	0	-1	-2

注) 報道日を第1週の1日目として前後4週の自殺者数(前年同期間比は2019年の同日を起点としている。)

- 男性俳優の自殺報道前後の状況を1週ごとに前年同期間比で見ると、報道日を含む第1週から前年同期間比が増加に転じて15人増加した。また、このうち全員が女性であった(図表14-03-1)。



- 自殺報道後2週目以降も前年同期間比は増加しているが、第1週のように10人以上の増加はみられなかった(図表14-03-1)。
- このように、自殺報道日を含む第1週において、女性の自殺者が大きく増加していることが特徴的である(図表14-03-3,図表14-03-4)。



図表14-04

著名人の自殺報道前後の男女別自殺者数及び前年同期間比

単位：人

(出典：警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

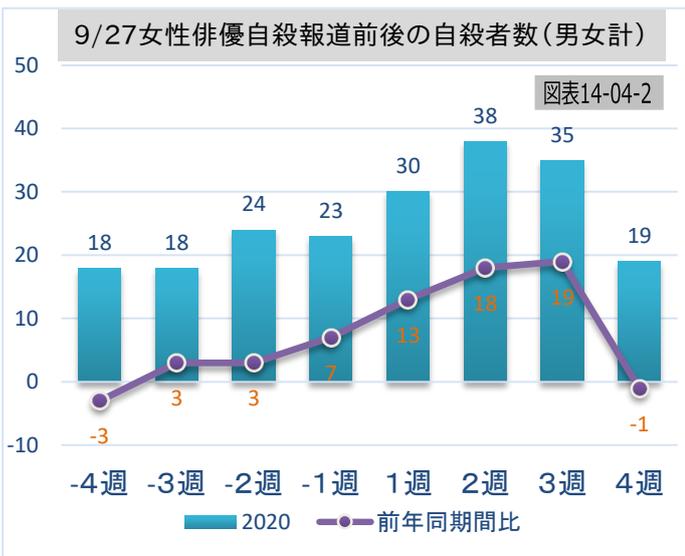
女性俳優の自殺報道前後の前年同期間比

図表14-04-1

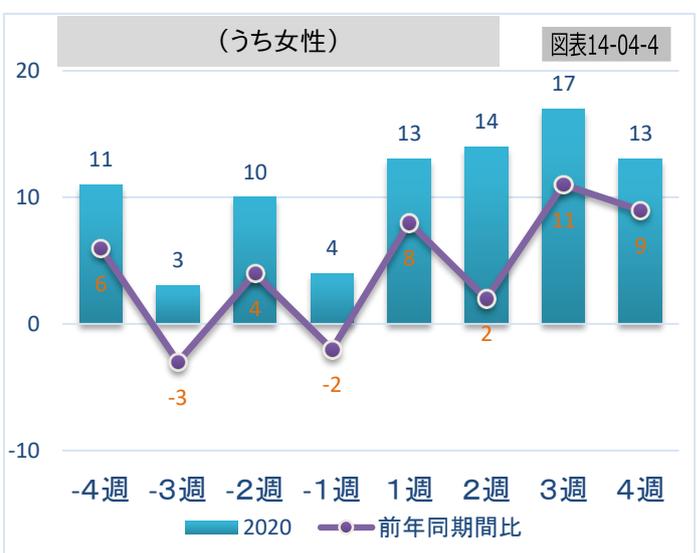
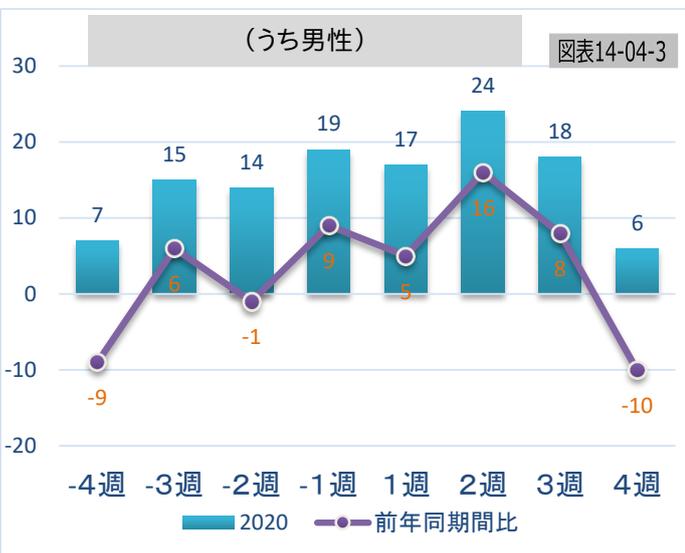
	-4週	-3週	-2週	-1週	1週	2週	3週	4週
男女計	-3	3	3	7	13	18	19	-1
男性	-9	6	-1	9	5	16	8	-10
女性	6	-3	4	-2	8	2	11	9

注) 報道日を第1週の1日目として前後4週の自殺者数(前年同期間比は2019年の同月日を起点としている。)

- 女性俳優の自殺報道前後の状況を1週ごとに前年同期間比でみると、報道日を含む第1週は前年同期間比が13人増加した。またその翌週及び翌々週も自殺者数の前年同期間比が10人を上回って増加した(図表14-04-1)。



- 女性俳優自殺報道後は、3週にわたり前年同期間比が連続して増加している点で、男性俳優の状況とは異なっており、自殺報道以外の増加要因もあると推測される(図表14-04-1)。



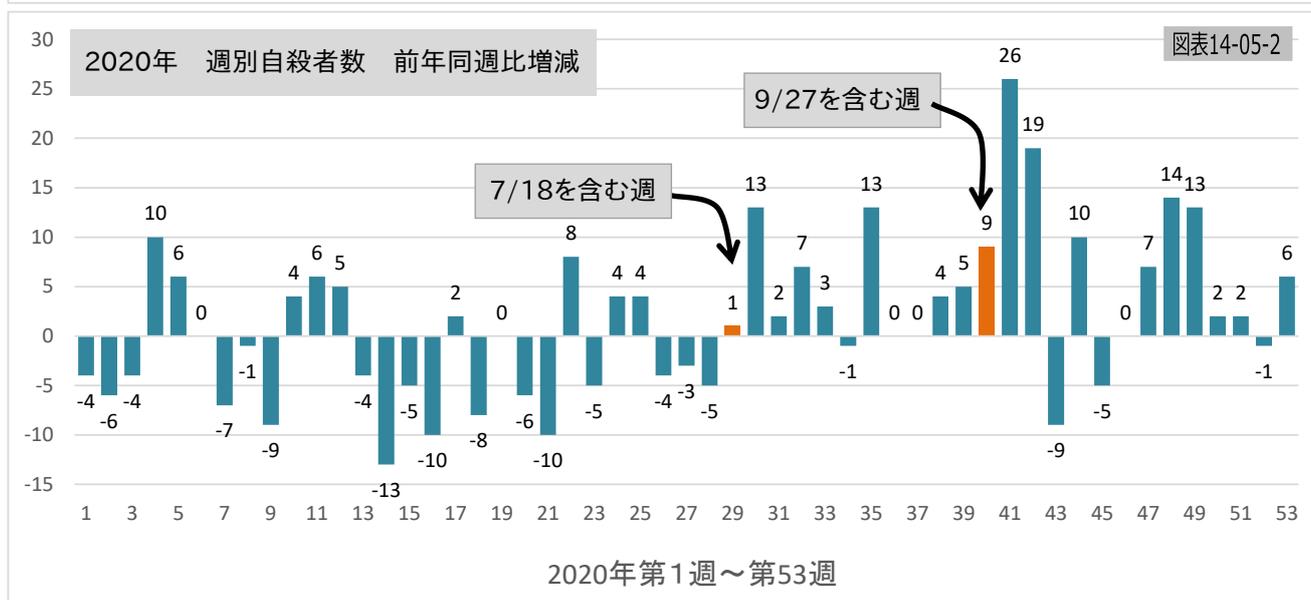
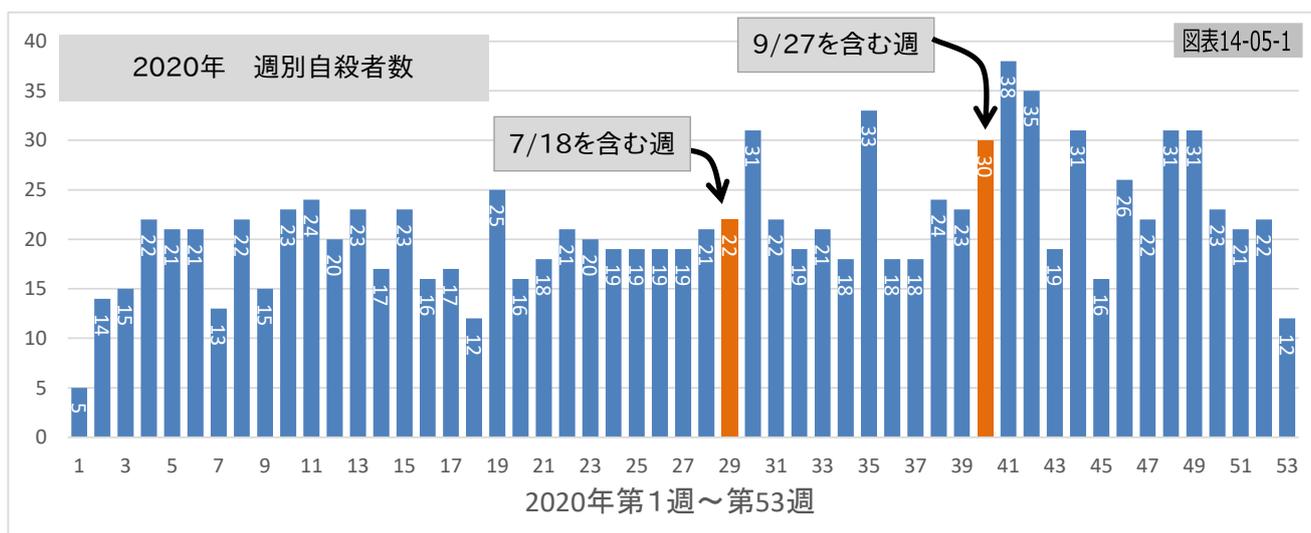
1 (4) 著名人の自殺及び自殺報道の影響

図表14-05

著名人の自殺報道前後の自殺者数及び前年同週比

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺日不詳は除外している。週別自殺者数の横軸は日曜日をはじまりとする週番号で、1月1日を第1週としている。

- ここでは、2020年の通年の週別自殺者数についてみるため、日曜を開始日とする7日間で自殺者数及び前年同週比を掲載している。横軸は週番号である。
- 週別の自殺者数を前年同週比で見ると、最大で26人増加した週があり、また、10人以上増加した週は2020年に8回発生している(図表14-05-2)。
- 男性俳優の自殺報道日は2020年7月18日(土)であり、その翌週の自殺者が前年同週比で13人増加している。また、女性俳優の自殺報道日は2020年9月27日(日)であり、その週の自殺者が前年同週比で9人の増、次の週が26人の増、その次の週が19人の増加となっている(図表14-05-2)。

著名人の自殺及び自殺報道の影響 まとめ

- 著名人の自殺及び自殺報道の影響とみられる自殺者数の増加では、2人の著名人(男性俳優、女性俳優)の自殺報道前後の2週間の自殺者数の状況を調べたところ、どちらの著名人の自殺報道後においても男女とも自殺者数の増加が見られた。
- 男性俳優の自殺報道後増加が多い順では、①女性・若年層、②男性・若年層であり、女性俳優の自殺報道後増加が多い順では、①男性・中高年層、②女性・高齢者層、③女性・若年層であった。

2 女性の自殺者の増加

2 女性の自殺者の増加

- 近年、低下傾向にあった女性の自殺者が1年間に100人を超えて増加し、前年比増加数が2007年以降最多となったことや、男女別構成比(36%)が2007年以降で最大となっていることから、2020年は女性の自殺者数が大きく増加したといえる(図表20-01-1,図表20-01-2)。
- そこで、「1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化 (3)女性の概況」をさらに掘り下げ、職業別や、自殺の原因・動機等について詳しい分析を行った。

図表20-01

女性の自殺者数(2007年~2020年)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

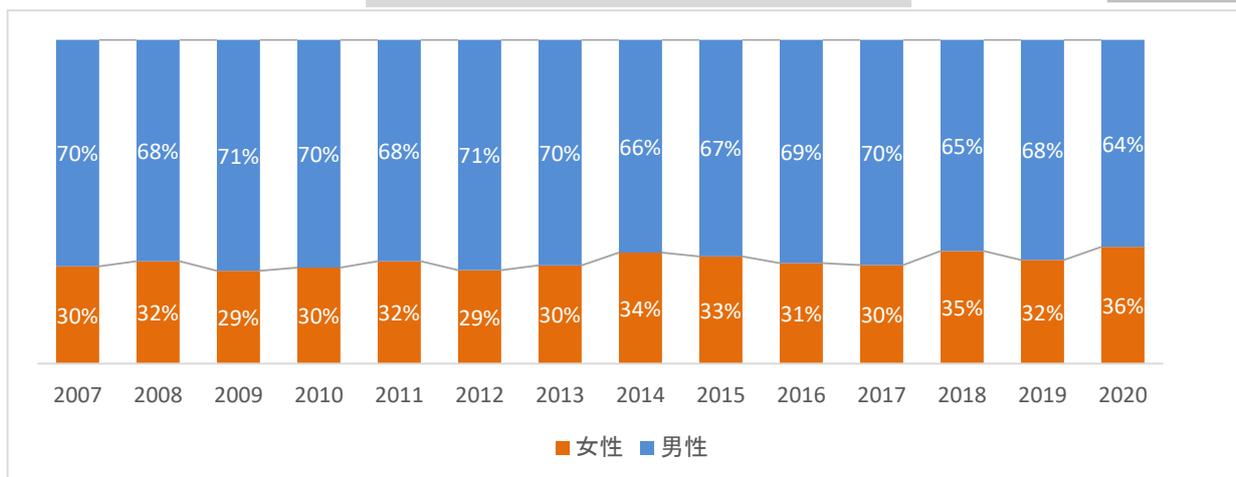
女性の自殺者数の年推移(人)

図表20-01-1



男女別構成比(%)

図表20-01-2

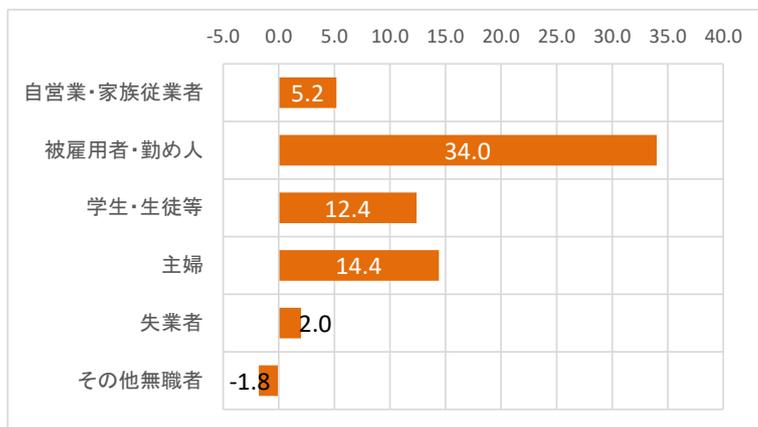


図表20-02

職業別女性自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
自営業・家族従業者	7.8	13	5.2
被雇用者・勤め人	65.0	99	34.0
学生・生徒等	15.6	28	12.4
主婦	97.6	112	14.4
失業者	4.0	6	2.0
その他無職者	197.8	196	-1.8

注)職業不詳は除外している。

「その他無職者」は、無職のうち学生・生徒等、主婦、失業者を除くもの。

- 2020年の女性の職業別の自殺者数を過去5年平均との増減数で比較すると、「その他無職者」を除いて、すべて増加している。
- 特に、「被雇用者・勤め人」が最も多く、34.0人の増加となっている。

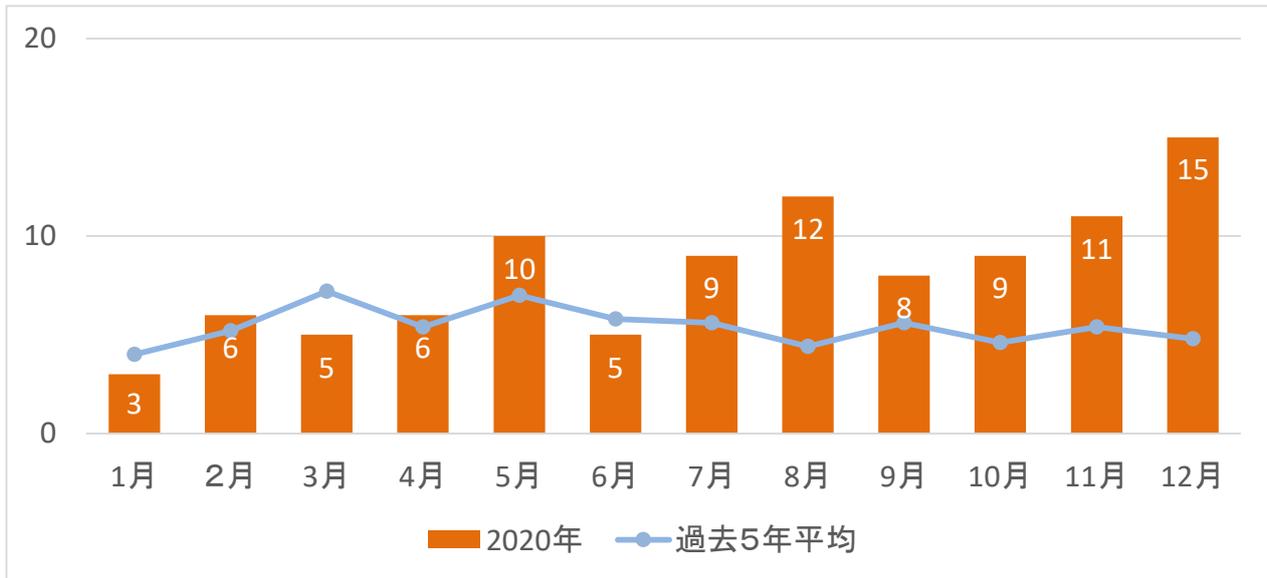
2 女性の自殺者の増加

図表20-03

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の月別比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
過去5年平均	4	5.2	7.2	5.4	7	5.8	5.6	4.4	5.6	4.6	5.4	4.8	65
2020年	3	6	5	6	10	5	9	12	8	9	11	15	99
増減数	-1	0.8	-2.2	0.6	3	-0.8	3.4	7.6	2.4	4.4	5.6	10.2	34
増減率	-25%	15%	-31%	11%	43%	-14%	61%	173%	43%	96%	104%	213%	52%

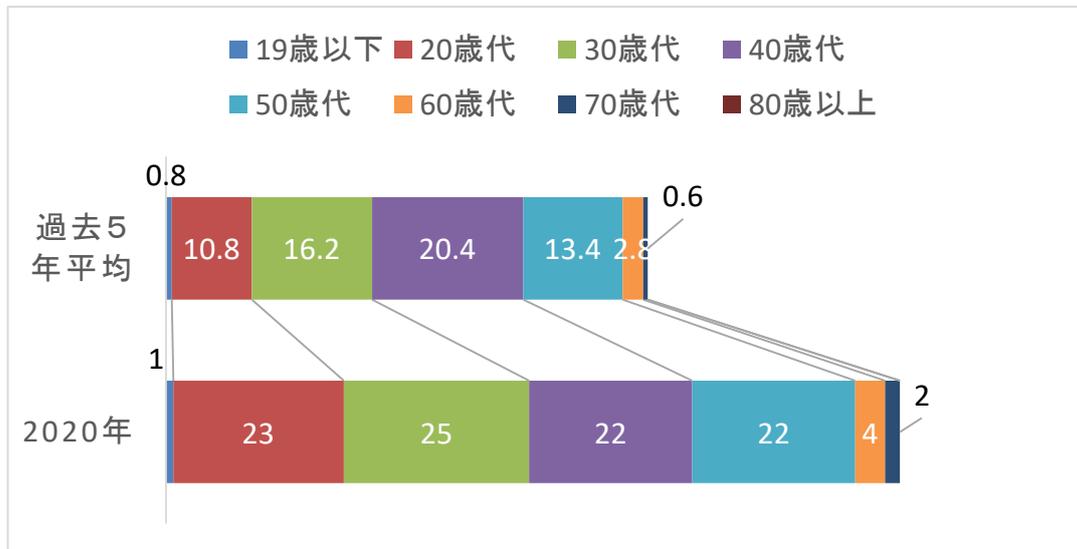
- 職業別女性自殺者数のうち、過去5年平均と比較して最も増加数が多い「被雇用者・勤め人」について、2020年の月別の自殺者数の動向をみると、「12月」が最も多く、「1月」が最も少なくなっている。
- また、「1月」、「3月」、「6月」を除く、すべての月で過去5年平均の自殺者数を上回り、最も多く上回ったのは「12月」であった。

図表20-04

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の年齢階級別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
過去5年平均	0.8	10.8	16.2	20.4	13.4	2.8	0.6	0	65
2020年	1	23	25	22	22	4	2	0	99
増減数	0.2	12.2	8.8	1.6	8.6	1.2	1.4	0	34
増減率	25%	113%	54%	8%	64%	43%	233%	-	52%

注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の女性自殺者数(被雇用者・勤め人)を年齢階級別にみると、「30歳代」が25人と最も多く、次いで、「20歳代」が23人、「40歳代」・「50歳代」が22人の順となっている。
- また、過去5年平均と比較すると、増加数では、「20歳代」が最も増加し、次いで、「30歳代」、「50歳代」となっている。

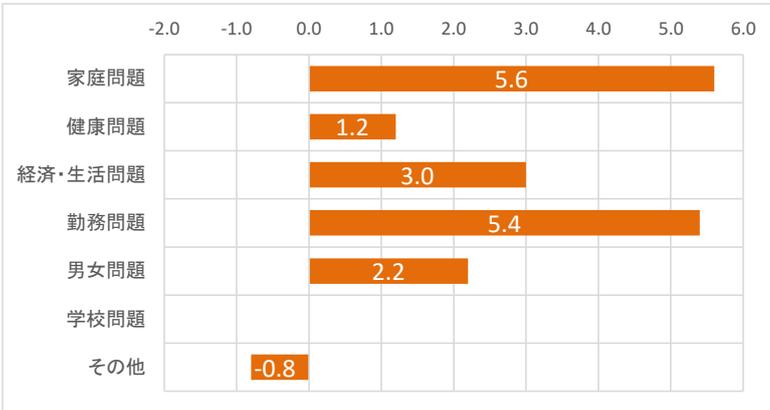
2 女性の自殺者の増加

図表20-05

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の原因・動機別の増減(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	14.4	20	5.6
健康問題	26.8	28	1.2
経済・生活問題	4.0	7	3.0
勤務問題	10.6	16	5.4
男女問題	5.8	8	2.2
学校問題	0.0	0	0.0
その他	5.8	5	-0.8
不詳	22.0	40	18.0

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

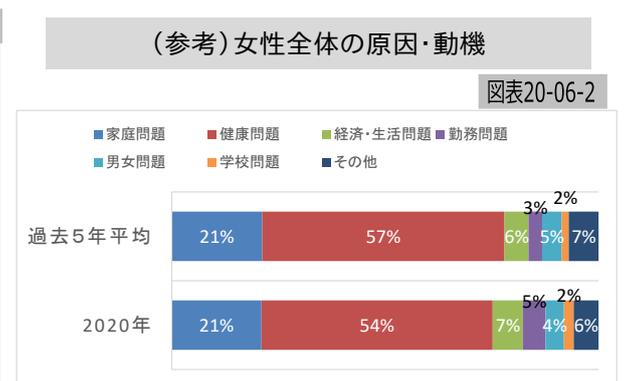
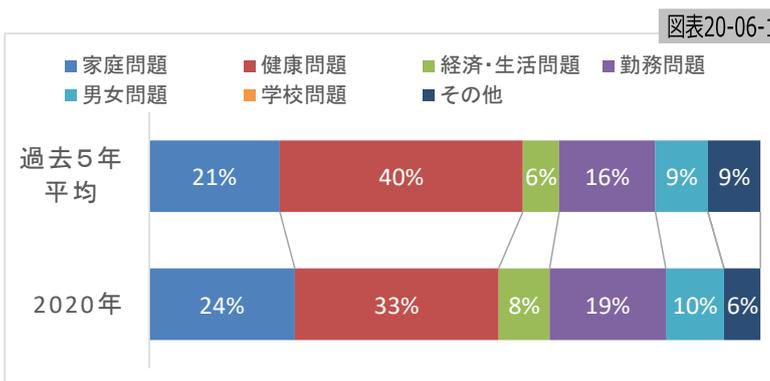
- 2020年における女性の「被雇用者・勤め人」の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」が5.6人と最も増加し、次いで、「勤務問題」が5.4人増加した。

図表20-06

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の原因・動機別構成比(2020年と過去5年平均との比較)

単位:%

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の原因・動機別の構成比では、「健康問題」が33%と最も多く、次いで、「家庭問題」が24%、「勤務問題」が19%の順となっている。これを女性全体の構成割合と比較すると、「被雇用者・勤め人」は、「健康問題」の割合が低く、特に「勤務問題」の比率が高くなっている(図表20-06-1,図表20-06-2)。
- また、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」「勤務問題」がそれぞれ3ポイントと、最も上昇した(図表20-06-1)。

図表20-07

原因・動機(小分類)別女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

区分:被雇用者・勤め人 女性				GA06U3022	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=84	n=66	n=337	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	23.8%	21.2%	23.7%	健康
2	夫婦関係の不和	7.1%	1.5%	5.0%	家庭
2	職場の人間関係	7.1%	4.5%	4.7%	勤務
4	親子関係の不和	3.6%	3.0%	2.4%	家庭
4	家族の死亡	3.6%	1.5%	3.0%	家庭
4	子育ての悩み	3.6%	6.1%	2.1%	家庭
4	その他の家庭問題	3.6%	0.0%	3.3%	家庭
4	病気の悩み・影響(統合失調症)	3.6%	0.0%	3.3%	健康
4	その他の健康問題	3.6%	1.5%	0.6%	健康
4	職場環境の変化	3.6%	3.0%	3.0%	勤務
4	仕事疲れ	3.6%	7.6%	4.7%	勤務
4	その他の勤務問題	3.6%	4.5%	2.4%	勤務
4	不倫の悩み	3.6%	3.0%	1.8%	男女

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 女性の「被雇用者・勤め人」の自殺の原因・動機(小分類)を過去5年平均と比較した。
- 2020年は「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多く、次いで、「夫婦関係の不和」・「職場の人間関係」の順であり、「病気の悩み・影響(うつ病)」は過去5年平均とほぼ同様であるが、「夫婦関係の不和」・「職場の人間関係」は、過去5年平均の比率を上回った。

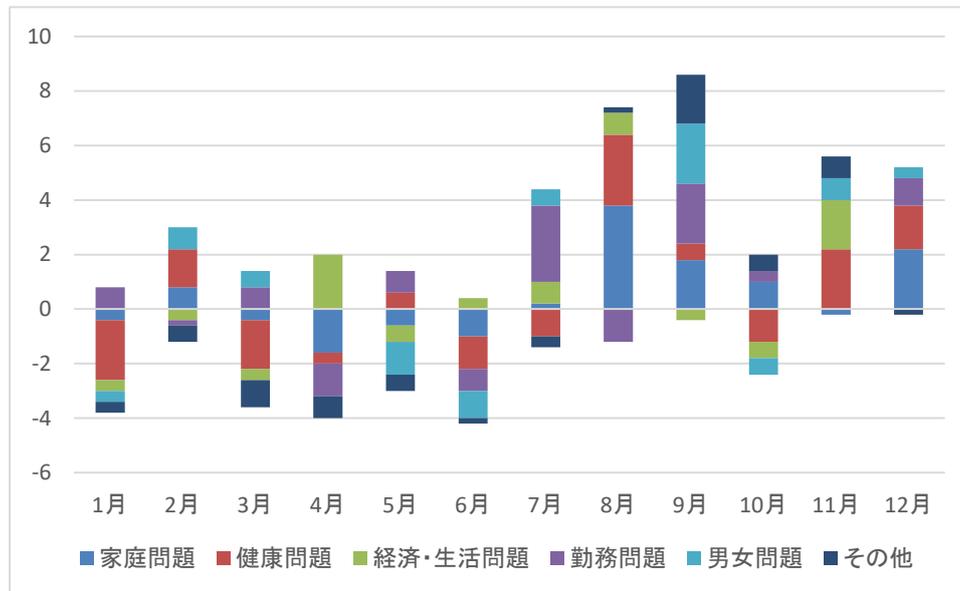
2 女性の自殺者の増加

図表20-08

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の月別原因・動機別増減比較
(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



原因・動機	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
家庭問題	-0.4	0.8	-0.4	-1.6	-0.6	-1.0	0.2	3.8	1.8	1.0	-0.2	2.2	5.6
健康問題	-2.2	1.4	-1.8	-0.4	0.6	-1.2	-1.0	2.6	0.6	-1.2	2.2	1.6	1.2
経済・生活問題	-0.4	-0.4	-0.4	2.0	-0.6	0.4	0.8	0.8	-0.4	-0.6	1.8	0.0	3.0
勤務問題	0.8	-0.2	0.8	-1.2	0.8	-0.8	2.8	-1.2	2.2	0.4	0.0	1.0	5.4
男女問題	-0.4	0.8	0.6	0.0	-1.2	-1.0	0.6	0.0	2.2	-0.6	0.8	0.4	2.2
学校問題	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	-0.4	-0.6	-1.0	-0.8	-0.6	-0.2	-0.4	0.2	1.8	0.6	0.8	-0.2	-0.8

注)自殺月で集計している。自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年における女性の「被雇用者・勤め人」の自殺者数を、月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、女性の自殺者数が大きく増加に転じた「7月」は「勤務問題」の増加が最も多い。
- 年間の合計でみると過去5年平均と比べ増加が多かった上位3位は、①「家庭問題」②「勤務問題」③「経済・生活問題」であった。

図表20-09

女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の内訳増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

増加数の多い職種(女性)

図表20-09-1

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	専門・技術職	11.2	22	10.8	96%
2	販売従事者	5.2	13	7.8	150%
3	その他の被雇用者・勤め人	15.0	22	7.0	47%
4	事務職	13.8	20	6.2	45%
5	サービス業従事者	14.2	17	2.8	20%

参考(男性)

図表20-09-2

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	専門・技術職	41.2	51	9.8	24%
2	販売従事者	19.0	27	8.0	42%
3	労務作業	39.6	47	7.4	19%
4	通信運輸従事	16.4	19	2.6	16%
5	事務職	21.8	23	1.2	6%

増加率の高い職種(女性)

図表20-09-3

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	販売従事者	5.2	13	7.8	150%
2	専門・技術職	11.2	22	10.8	96%
3	技能工	1.2	2	0.8	67%
4	その他の被雇用者・勤め人	15.0	22	7.0	47%
5	事務職	13.8	20	6.2	45%

参考(男性)

図表20-09-4

	職種(職業中分類)	過去5年平均	2020年	増加数	増減率
1	販売従事者	19.0	27	8.0	42%
2	専門・技術職	41.2	51	9.8	24%
3	労務作業	39.6	47	7.4	19%
4	通信運輸従事	16.4	19	2.6	16%
5	事務職	21.8	23	1.2	6%

注) 職種は警察庁の自殺統計の区分を使用している。

「専門・技術職」には、教員、医療・保健従事者、芸能人・プロスポーツ選手、弁護士、その他の専門・技術職を含む。

「その他の被雇用者・勤め人」は、専門・技術職、管理的職業、事務職、販売従事者、サービス業従事者、技能工、保安従事者、通信運輸従事者、労務作業以外職種。

- 2020年の女性自殺者(被雇用者・勤め人)のうち、さらに詳しい職種については、過去5年平均と比較すると、増加数では、「専門・技術職」が最も多く、10.8人の増、次いで「販売従事者」、「その他の被雇用者・勤め人」、「事務職」の順となった(図表20-09-1)。
- ちなみに、男性について、過去5年平均と比較すると、「被雇用者・勤め人」のうち、増加数の多いものから、「専門・技術職」、「販売従事者」、「労務作業」となったが、最も増加が多い「専門・技術職」でも増加数が9.8人で、女性より少ない状況であった。自殺者数全体の男女比が男性7割、女性3割であることを鑑みると、「専門・技術職」や「販売従事者」等、同一職種でも女性の方が増加が大きいといえる(図表20-09-1,図表20-09-2)。

2 女性の自殺者の増加

図表20-10

女性自殺者数(被雇用者・勤め人の内訳)の年齢階級別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数(女性)

図表20-10-1

	若年層		中高年層		高齢者層		合計	
	40歳未満		40～64歳		65歳以上			
	過去5年平均	2020年	過去5年平均	2020年	過去5年平均	2020年	過去5年平均	2020年
専門・技術職	5.0	13	6.0	8	0.2	1	11.2	22
管理的職業	0.2	0	1.2	0	0.4	1	1.8	1
事務職	6.2	9	7.4	11	0.2	0	13.8	20
販売従事者	2.2	6	3.0	7	0.0	0	5.2	13
サービス業従事者	7.0	11	6.4	5	0.8	1	14.2	17
技能工	0.8	1	0.4	1	0.0	0	1.2	2
通信運輸従事	0.2	0	0.2	0	0.0	0	0.4	0
労務作業	0.6	0	1.4	2	0.2	0	2.2	2
その他の被雇用者・勤め人	5.6	9	9.2	12	0.2	1	15.0	22

増減数(女性)

図表20-10-2

	若年層	中高年層	高齢者層	合計
	40歳未満	40～64歳	65歳以上	
専門・技術職	8.0	2.0	0.8	10.8
管理的職業	-0.2	-1.2	0.6	-0.8
事務職	2.8	3.6	-0.2	6.2
販売従事者	3.8	4.0	0.0	7.8
サービス業従事者	4.0	-1.4	0.2	2.8
技能工	0.2	0.6	0.0	0.8
通信運輸従事	-0.2	-0.2	0.0	-0.4
労務作業	-0.6	0.6	-0.2	-0.2
その他の被雇用者・勤め人	3.4	2.8	0.8	7.0

参考 (男性)

図表20-10-3

	若年層	中高年層	高齢者層	合計
	40歳未満	40～64歳	65歳以上	
専門・技術職	5.2	4.8	-0.2	9.8
管理的職業	0.6	-3.2	0.2	-2.4
事務職	2.6	-1.8	0.4	1.2
販売従事者	2.6	5.6	-0.2	8.0
サービス業従事者	-1.0	3.4	-1.4	1.0
技能工	0.4	-6.8	1.8	-4.6
保安従事者	-3.0	-0.6	0.6	-3.0
通信運輸従事	0.8	2.8	-1.0	2.6
労務作業	3.2	5.8	-1.6	7.4
その他の被雇用者・勤め人	-1.0	-4.6	1.0	-4.6

注) 年齢不詳は除外している。

職種は警察庁の自殺統計の区分を使用している。

「専門・技術職」には、教員、医療・保健従事者、芸能人・プロスポーツ選手、弁護士、その他の専門・技術職を含む。

「その他の被雇用者・勤め人」は、専門・技術職、管理的職業、事務職、販売従事者、サービス業従事者、技能工、保安従事者、通信運輸従事者、労務作業以外職種。

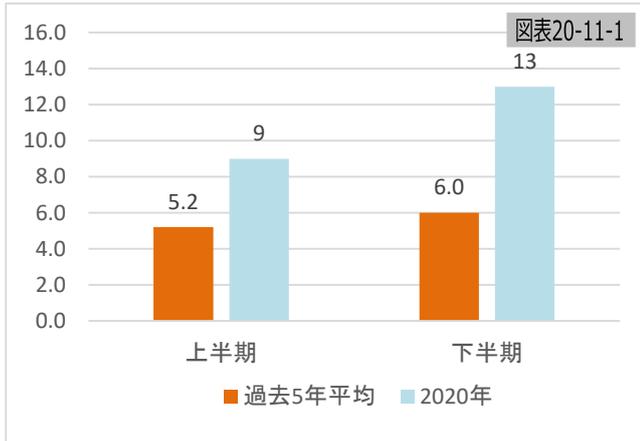
- 2020年における女性自殺者数(被雇用者・勤め人)の内訳の職種別について、過去5年平均と年齢階級別に比較すると、「若年層」では、「専門・技術職」が最も増加し、次いで、「サービス業従事者」、「販売従事者」の順に多く増加した。また、「中高年層」では、「販売従事者」、「事務職」、「その他の被雇用者・勤め人」の順に増加が多かった。「高齢者層」では、「専門・技術職」・「その他の被雇用者・勤め人」が最も増加した。また、全年代合計で最も増加した「専門・技術職」については、「若年層」での増加が多くを占めた(図表20-10-1,図表20-10-2)。
- ちなみに、男性について、過去5年平均と比較すると、「若年層」では「専門・技術職」が、「中高年層」では「労務作業」が、「高齢者層」では、「技能工」が最も増加した。また、全年代合計で最も増加した「専門・技術職」については、「若年層」と「中高年層」の増加が多くを占めた(図表20-10-3)。

図表20-11

専門・技術職の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



専門・技術職	女性 図表20-11-2		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	5.2	6.0	11.2
2020年	9	13	22
増減	3.8	7.0	10.8

専門・技術職	参考(男性) 図表20-11-3		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	20.0	21.0	41.0
2020年	15	35	50
増減	-5.0	14.0	9.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

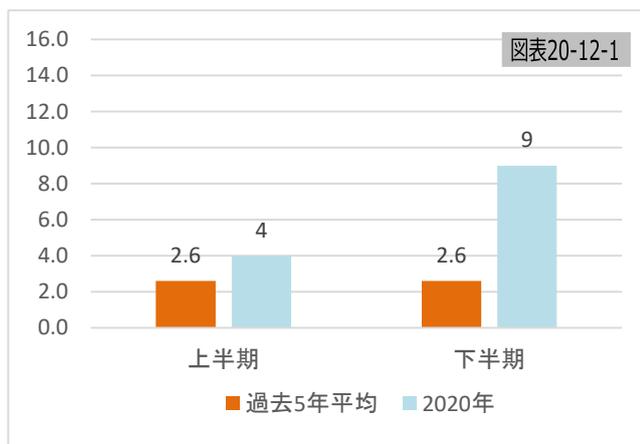
- 女性の自殺者の「被雇用者・勤め人」の中でも、過去5年平均と比較して増加数の多い職種について、2020年の上半期、下半期の増加の状況をみた。
- 女性の「専門・技術職」については、上半期より下半期が多く増加し、年間では10.8人の増となった(図表20-11-1,図表20-11-2)。
- 一方、男性は上半期は過去5年平均を下回り、下半期に大きく増加した。年間では9.0人の増であった。年間の増加数は女性が男性を上回った(図表20-11-2,図表20-11-3)。

図表20-12

販売従事者の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



販売従事者	女性 図表20-12-2		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	2.6	2.6	5.2
2020年	4	9	13
増減	1.4	6.4	7.8

販売従事者	参考(男性) 図表20-12-3		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	9.8	9.2	19.0
2020年	17	10	27
増減	7.2	0.8	8.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

- 女性の「販売従事者」について、過去5年平均と比較すると、下半期の増加が目立ち、年間では7.8人の増となった(図表20-12-1,図表20-12-2)。
- 一方、男性は、上半期の方が増加が多く、年間では8.0人の増となっている。年間の増加数は男女ほぼ同様である(図表20-12-2,図表20-12-3)。

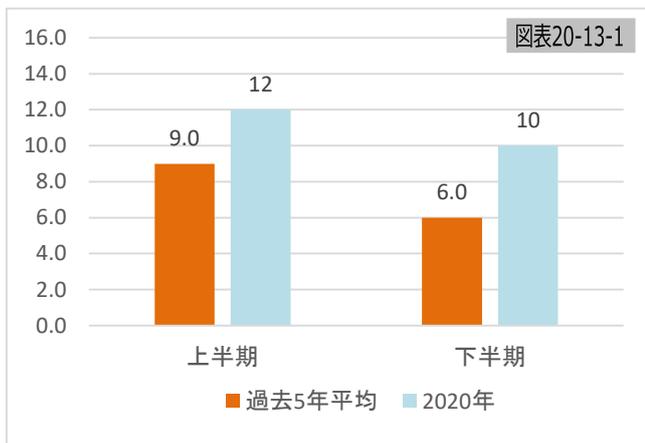
2 女性の自殺者の増加

図表20-13

その他の被雇用者・勤め人の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



その他の被雇用者・勤め人	女性 図表20-13-2		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	9.0	6.0	15.0
2020年	12	10	22
増減	3.0	4.0	7.0

その他の被雇用者・勤め人	参考(男性) 図表20-13-3		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	29.6	27.2	56.8
2020年	26	25	51
増減	-3.6	-2.2	-5.8

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

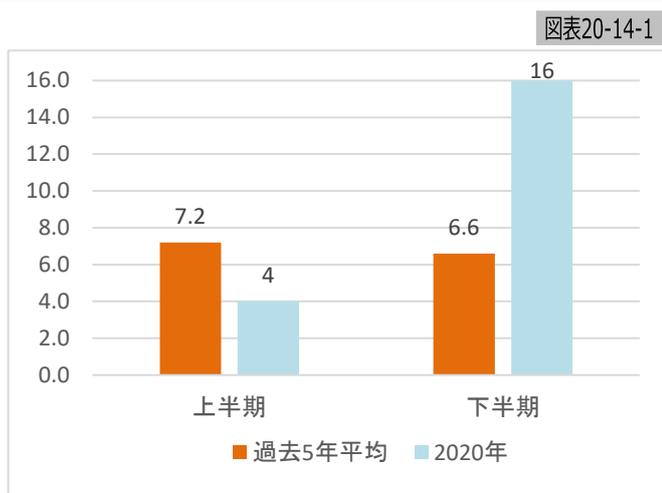
- 女性の「その他の被雇用者・勤め人」について、過去5年平均と比較すると、下半期の方が増加が多く、年間では7.0人の増となった(図表20-13-1,図表20-13-2)。
- 一方、男性は、上半期と下半期ともに減少し、年間で5.8人の減となった(図表20-13-3)。

図表20-14

事務職の期別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



事務職	女性 図表20-14-2		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	7.2	6.6	13.8
2020年	4	16	20
増減	-3.2	9.4	6.2

事務職	参考(男性) 図表20-14-3		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	11.2	10.6	21.8
2020年	7	16	23
増減	-4.2	5.4	1.2

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

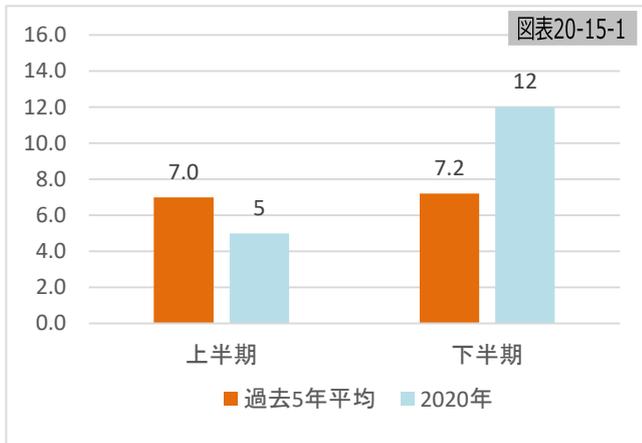
- 女性の「事務職」については、上半期は過去5年平均より下回っていたが、下半期は上回り、年間では6.2人の増となった(図表20-14-1,図表20-14-2)。
- 一方、男性も同様に上半期は過去5年平均を下回り、下半期は上回った。年間では1.2人の増となった。年間の増加数は女性が男性を上回った(図表20-14-2,図表20-14-3)。

図表20-15

サービス業従事者の期別自殺者数比較 (2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



図表20-15-2

サービス業従事者	女性		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	7.0	7.2	14.2
2020年	5	12	17
増減	-2.0	4.8	2.8

図表20-15-3

サービス業従事者	参考 (男性)		
	上半期	下半期	年間
過去5年平均	15.4	13.6	29.0
2020年	15	15	30
増減	-0.4	1.4	1.0

注) 自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

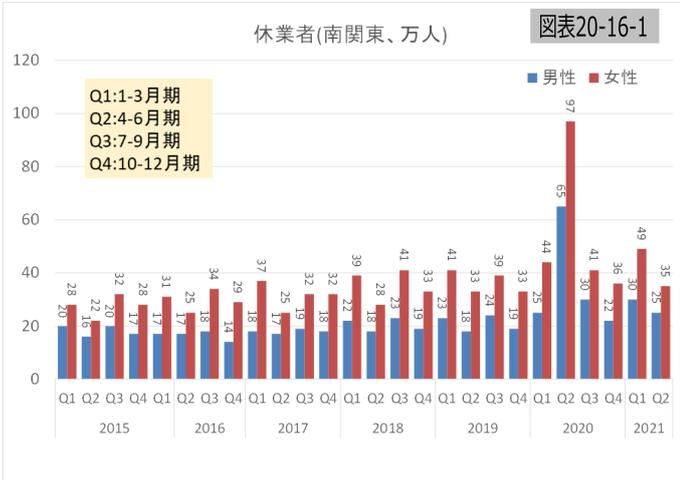
- 女性の「サービス業従事者」については、上半期は過去5年平均より下回ったが、下半期は上回り、年間では2.8人の増となった(図表20-15-1,図表20-15-2)。
- 一方、男性も同様に、上半期は過去5年平均を下回り、下半期は上回った。年間では1.0人の増となった。年間の増加数は、女性が男性を上回った(図表20-15-2,図表20-15-3)。

2 女性の自殺者の増加

図表20-16

参考 労働力の状況

(出典：総務省「労働力調査」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 労働力調査の南関東地区集計をみると、2020年4～6月期は、休業者数が急増し、南関東地区で男性65万人、女性97万人となった。また、全国集計では、男性168万人、女性250万人となった。いずれも女性が男性よりも多い。これは、2020年4月7日に発出された緊急事態宣言の発出による休業、休校、ステイホーム等の影響が大きく表れたと考えられる(図表20-16-1,図表20-16-2)。

- 同期の全国集計で休業者増加の職業別内訳をみると、女性のサービス職業従事者で54万人の増加、販売従事者が27万人の増加、専門的・技術的職業従事者が26万人の増加となっており、女性の被雇用者に対して影響が大きかったことがうかがえる(図表20-16-3)。

図表20-16-2

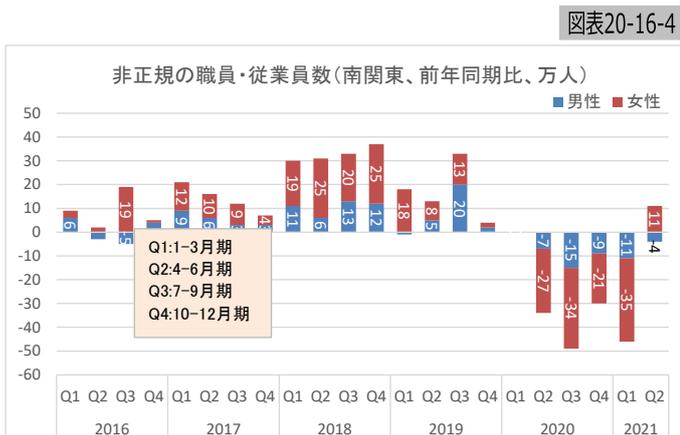
2020年4-6月期	休業者数(万人)			休業者増減(万人)		
	男	女	男女計	男	女	男女計
南関東	65	97	162	47	64	112
全国	168	250	418	106	155	261

- 休業者数の増加は2020年4～6月期のみの特徴であったが、同調査で女性の多い非正規の職員・従業員数の増減をみると、2020年4～6月期から4期連続して前年同期比が減少し、特に女性で20万人以上の減少が継続してみられている(図表20-16-4)。

図表20-16-3

(職業別 休業者数 全国)	休業者増減(万人)		
	男	女	男女計
合計	106	155	261
管理的職業従事者	1	0	1
専門的・技術的職業従事者	17	26	44
事務従事者	8	21	28
販売従事者	9	27	35
サービス職業従事者	27	54	82
保安職業従事者	3	0	3
農林漁業従事者	0	0	0
生産工程従事者	13	9	22
輸送・機械運転従事者	9	1	9
建設・採掘従事者	7	0	7
運搬・清掃・包装等従事者	7	12	19
分類不能の職業	5	4	9

- このように、就業環境の悪化は、男性よりも女性に大きく影響している。



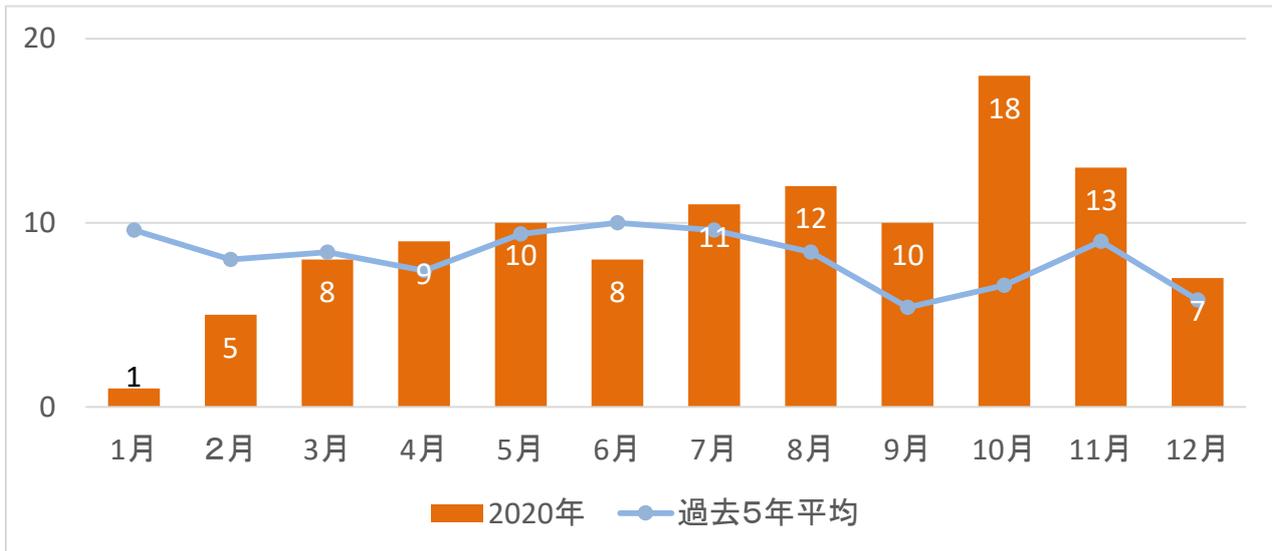
注)総務省労働力調査(基本集計)四半期平均の全国・地域別結果を利用している。地域表章には南関東を利用している。なお南関東は、埼玉、千葉、東京、神奈川の1都3県である。前年同期比は原数値での増減数である。

図表20-17

主婦の月別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
過去5年平均	9.6	8	8.4	7.4	9.4	10	9.6	8.4	5.4	6.6	9	5.8	97.6
2020年	1	5	8	9	10	8	11	12	10	18	13	7	112
増減数	-8.6	-3	-0.4	1.6	0.6	-2	1.4	3.6	4.6	11.4	4	1.2	14.4

- 次に、職業別の増加数が「被雇用者・勤め人」に次いで多い「主婦」について詳しくみた。
- 2020年の月別の「主婦」の自殺者数では、主に「7月」以降、過去5年平均を上回って推移し、特に「10月」が多く増加した。

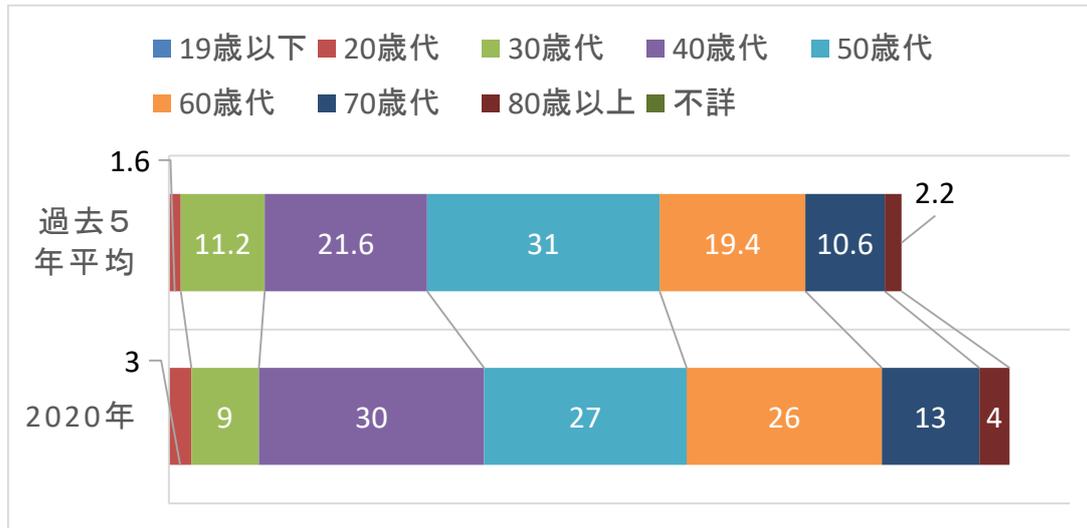
2 女性の自殺者の増加

図表20-18

主婦の年齢階級別自殺者数比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
過去5年平均	0	1.6	11.2	21.6	31	19.4	10.6	2.2	97.6
2020年	0	3	9	30	27	26	13	4	112
増減数	0	1.4	-2.2	8.4	-4	6.6	2.4	1.8	14.4
増減率	-	88%	-20%	39%	-13%	34%	23%	82%	15%

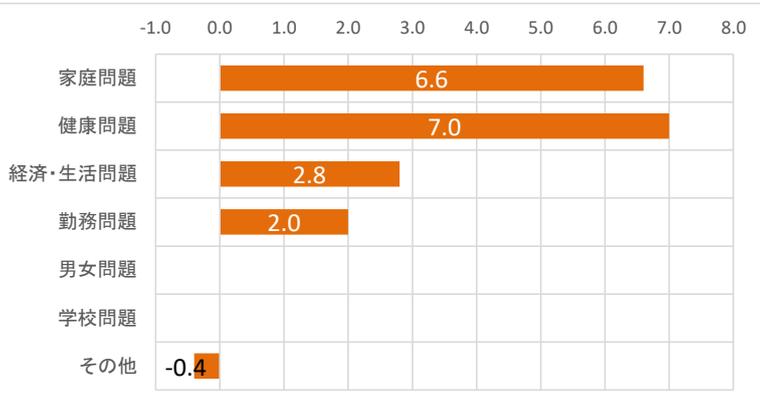
- 2020年の「主婦」の自殺者数を年齢階級別にみると、「40歳代」が30人と最も多く、次いで、「50歳代」が27人、「60歳代」が26人の順となった。
- また、過去5年平均と比較すると、増加数が最も多いのは、「40歳代」で8.4人の増であり、次いで「60歳代」で6.6人の増であった。

図表20-19

主婦の原因・動機別の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減
家庭問題	22.4	29	6.6
健康問題	54.0	61	7.0
経済・生活問題	2.2	5	2.8
勤務問題	0.0	2	2.0
男女問題	1.0	1	0.0
学校問題	0.0	0	0.0
その他	3.4	3	-0.4
不詳	39.2	39	-0.2

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

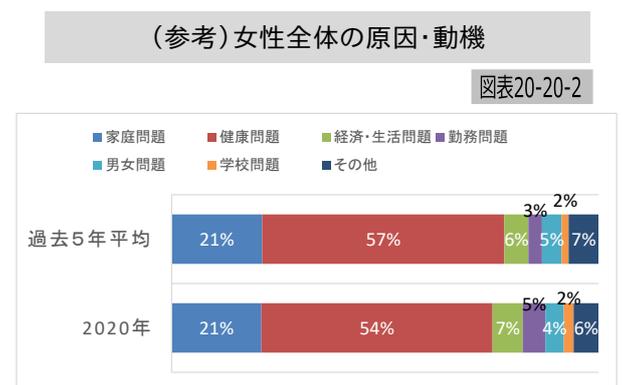
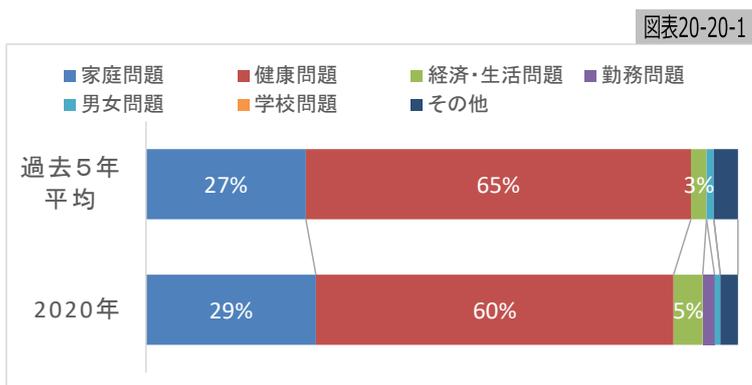
- 2020年の「主婦」の原因・動機別の状況について、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」、「健康問題」、「経済・生活問題」、「勤務問題」で増加している。
- 「健康問題」が7.0人と最も多く増加し、次いで、「家庭問題」が6.6人の増加となっている。

図表20-20

主婦の原因・動機別構成比の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:%

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の「主婦」の原因・動機別の構成比は、「健康問題」が60%と最も多く、次いで「家庭問題」が29%となっている。これを女性全体の構成比と比較すると、「主婦」は、「健康問題」と「家庭問題」の比率が高くなっている(図表20-20-1,図表20-20-2)。
- また、過去5年平均と比較すると、「家庭問題」と「経済・生活問題」が増加し、「健康問題」が減少した(図表20-20-1)。

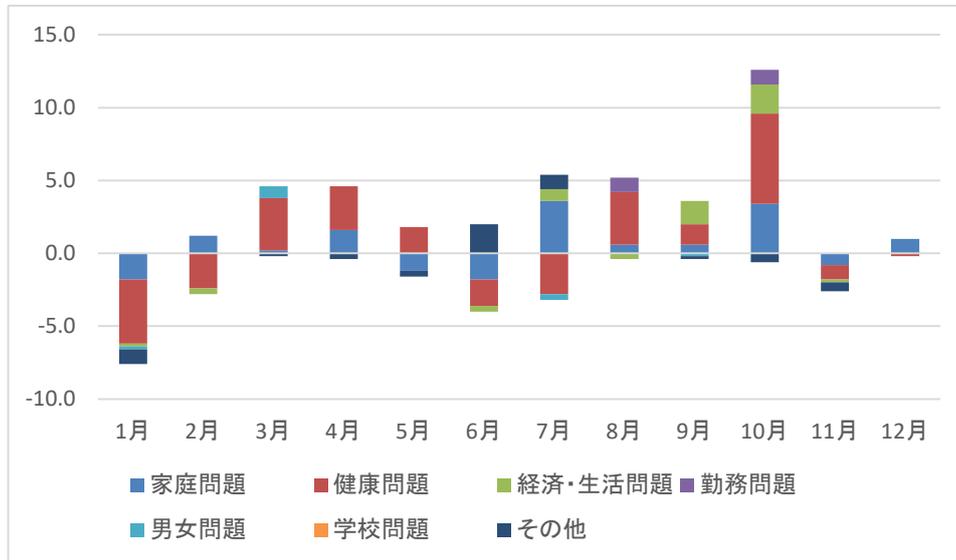
2 女性の自殺者の増加

図表20-21

主婦の原因・動機別の月別増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳、原因・動機不詳は除外している。

原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の「主婦」の自殺者数を、月別、原因・動機別で過去5年平均と比較すると、女性の自殺者数が大きく増加に転じた「7月」は、「家庭問題」の増加が目立っている。また、女性の自殺者が最も増加した「10月」は「健康問題」と「家庭問題」の増加が目立った。
- 年間の合計で見ると過去5年平均と比べ増加が多かった上位3位は、①「健康問題」②「家庭問題」③「経済・生活問題」であった。

図表20-22

原因・動機（小分類）別主婦自殺者数の比較（2020年と過去5年平均との比較）

（出典：警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成）

区分:主婦 女性				GA06R4032	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=101	n=57	n=415	
1	病気の悩み・影響（うつ病）	27.7%	26.3%	34.2%	健康
2	病気の悩み（身体の病気）	15.8%	15.8%	15.4%	健康
3	夫婦関係の不和	8.9%	10.5%	6.7%	家庭
3	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	8.9%	1.8%	5.5%	健康
5	病気の悩み・影響（統合失調症）	7.9%	7.0%	7.5%	健康
6	家族の将来悲観	5.0%	0.0%	2.9%	家庭
7	家庭問題その他	4.0%	1.8%	2.4%	家庭
8	その他家族関係の不和	3.0%	0.0%	2.4%	家庭
8	家族の死亡	3.0%	1.8%	1.9%	家庭
8	子育ての悩み	3.0%	7.0%	5.8%	家庭
8	経済生活問題その他	3.0%	0.0%	1.0%	経済生活
12	親子関係の不和	2.0%	5.3%	2.4%	家庭
12	生活苦	2.0%	0.0%	1.0%	経済生活
12	その他問題その他	2.0%	8.8%	2.9%	その他

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは一致しない。

- 主婦について、自殺の原因・動機（小分類）をみると、2020年は、「病気の悩み・影響（うつ病）」が全体の27.7%を占めて最も高く、次いで、「病気の悩み（身体の病気）」、「夫婦関係の不和」・「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」の順となっている。
- このうち、「病気の悩み（身体の病気）」、「夫婦関係の不和」、「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」は、過去5年平均の比率を上回った。

2 女性の自殺者の増加

女性の自殺者数の増加まとめ

- 2020年の女性の自殺者数を職業別で見ると、「被雇用者・勤め人」が過去5年平均と比較して最も多く増加し、次いで、「主婦」が増加した。そこで、「女性の被雇用者・勤め人」と「主婦」の自殺者について、詳しくみた。
- 「女性の被雇用者・勤め人」の自殺者については、次のことがわかった。
 - ・月別自殺者数は、主に「7月」以降、継続して増加傾向で「12月」が最も多かった。この間の原因・動機では、「家庭問題」と「勤務問題」の増加が目立った。
 - ・年齢階級別では、「30歳代」が最も多く、次いで「20歳代」の順であった。また、過去5年平均と比較して、増加数が最も多く増加したのは、「20歳代」、次いで「30歳代」、「50歳代」の順であった。
 - ・原因・動機別を構成比で見ると、「健康問題」が最も多く、次いで、「家庭問題」、「勤務問題」の順に多かった。女性全体の自殺者の原因・動機と構成比と比較すると、「健康問題」の割合が低く、「勤務問題」の割合が高かった。また、過去5年平均と比較すると、最も多く増加したのは「家庭問題」と「勤務問題」であった。
 - ・さらに職種の内訳を過去5年平均と比較すると、増加数は、「専門・技術職」が最も多かった。
 - ・また、年齢階級別・職業別で過去5年平均と比較すると、「若年層」では、「専門・技術職」が最も多く増加し、「中高年層」では、「販売従事者」が最も増加した。
- 次に、「主婦」の自殺者については、次のことがわかった。
 - ・月別自殺者数は、主に「7月」以降、過去5年平均を上回って推移し、特に「10月」が最も増加した。「7月」の原因・動機では「家庭問題」が、「10月」は「健康問題」と「家庭問題」の増加が目立った。
 - ・年齢階級別をみると、「40歳代」が最も多く、次いで、「50歳代」、「60歳代」の順となった。過去5年平均と比較して、増加数が最も増加したのは、「40歳代」、次いで「60歳代」の順であった。
 - ・原因・動機別を構成比で見ると、「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」の順であった。これを女性全体の自殺者の原因・動機と比較すると、「主婦」は「健康問題」と「家庭問題」の比率が高かった。また、過去5年平均と構成比で比較すると、最も増加したのは「家庭問題」と「経済・生活問題」であった。

3 学生・生徒等の自殺者の増加

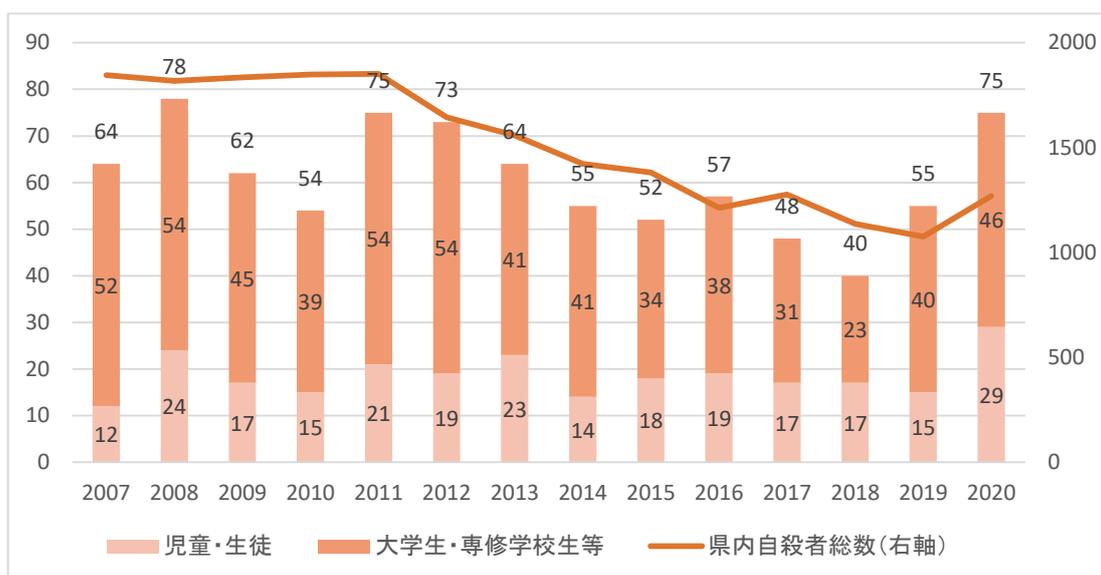
- 近年の学生・生徒等の自殺者は2018年に40人まで低下するなど減少傾向にあったが、翌2019年に15人増加して55人となり、2020年はさらに20人増加して75人となった。そこで、「学生・生徒等」の自殺者について、さらに詳細に調べた。

図表30-01

学生・生徒等の自殺者数(年推移 2007～2020年)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



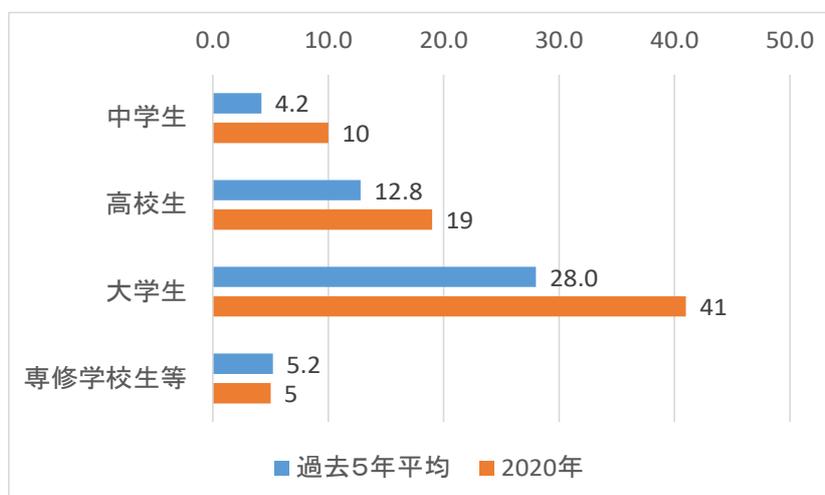
注)小学生、中学生及び高校生を「児童・生徒」としている。

図表30-02

学生・生徒等の小分類別自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 「学生・生徒等」は、「未就学児童」、「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生」及び「専修学校生等」の6区分であるが、過去5年平均と自殺者数で比較すると、特に「大学生」の自殺が増加している。

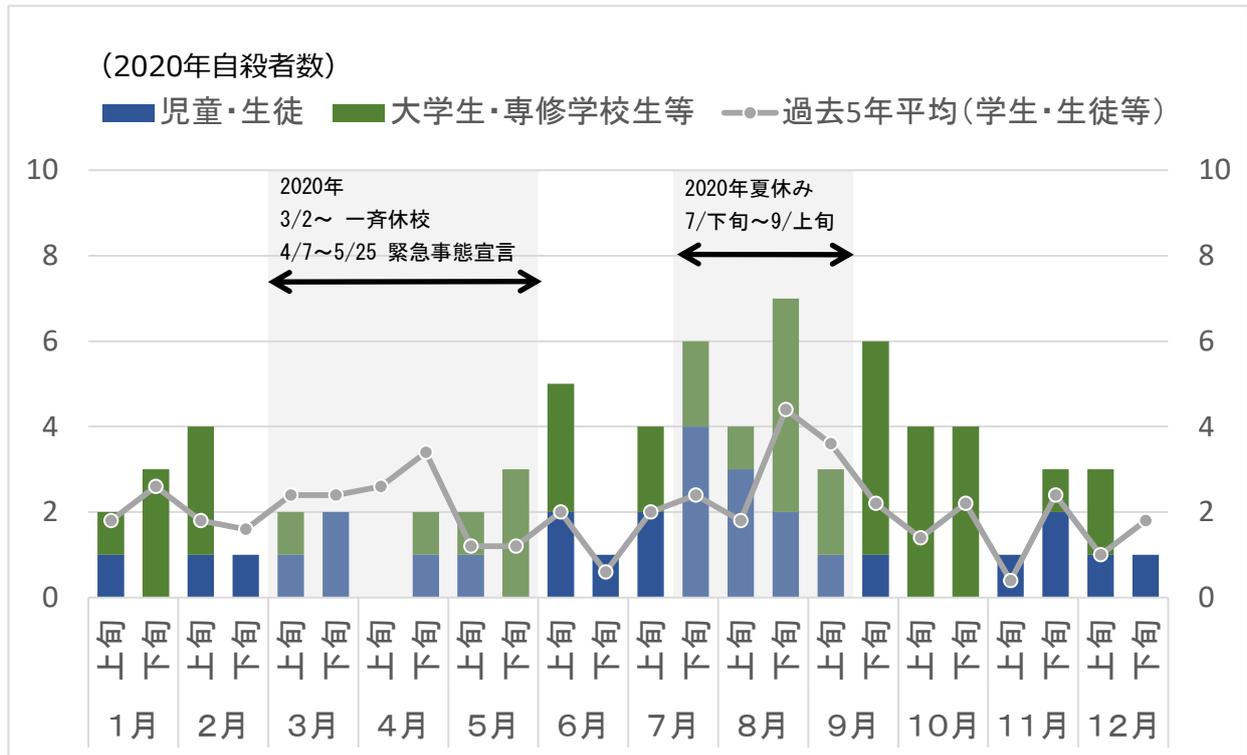
3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-03

学生・生徒等の月別自殺者数(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 小学生、中学生及び高校生を「児童・生徒」としている。
自殺日で集計している。自殺日不詳は除外している。

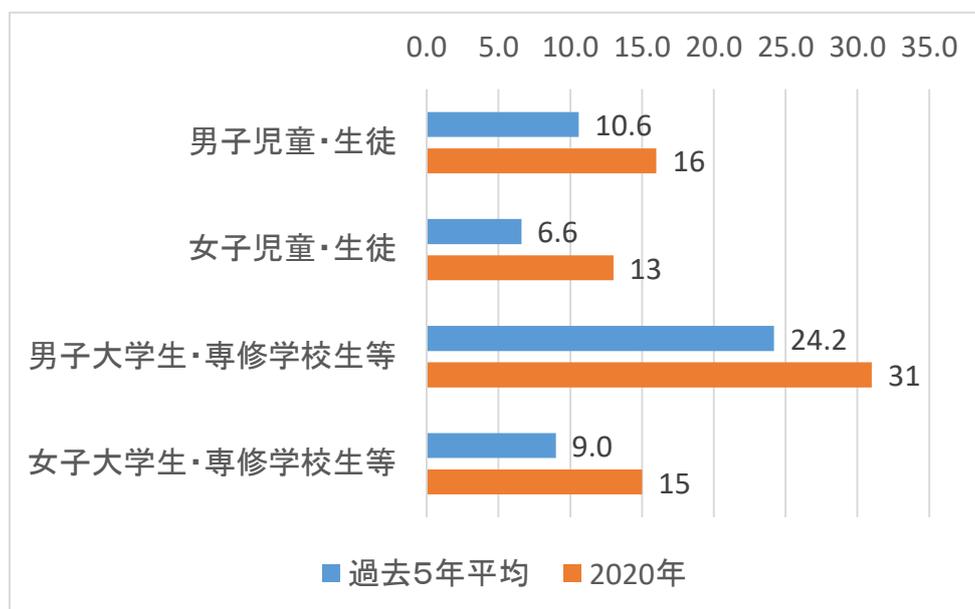
- 2020年の月別に「学生・生徒等」の自殺者数をみると、3月や4月は過去5年平均を下回ったが、5月上旬から概ね上回って推移した。特に、夏休み期間中から「10月」まで増加がみられた。
- 2020年中の動向としては、「児童・生徒」の自殺者数は、夏休み期間中を含む7月下旬及び8月上旬において、他の時期よりも増加しており、また、「大学生・専修学校生等」の自殺者数は、8月下旬から10月下旬にかけて、他の時期よりも増加している。

図表30-04

学生・生徒等の男女別自殺者数(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減数	増減率
男子児童・生徒	10.6	16	5.4	51%
女子児童・生徒	6.6	13	6.4	97%
男子大学生・専修学校生等	24.2	31	6.8	28%
女子大学生・専修学校生等	9.0	15	6.0	67%

注)小学生、中学生及び高校生を児童・生徒とし、大学生と専修学校生等をあわせて区分している。

- 男女別で2020年の自殺者数を過去5年平均と比較すると、すべての区分で増加している。
- 増加率でみると、「女子児童・生徒」が97%の増加で最も多く、次いで「女子大学生・専修学校生等」が67%の増加となった。ただし、実数が小さいため、小数の増減で増減率が大きく変化することに留意する必要がある。

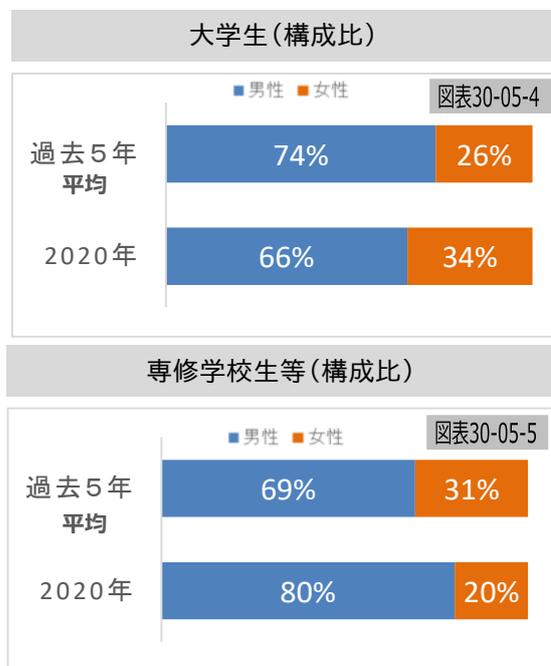
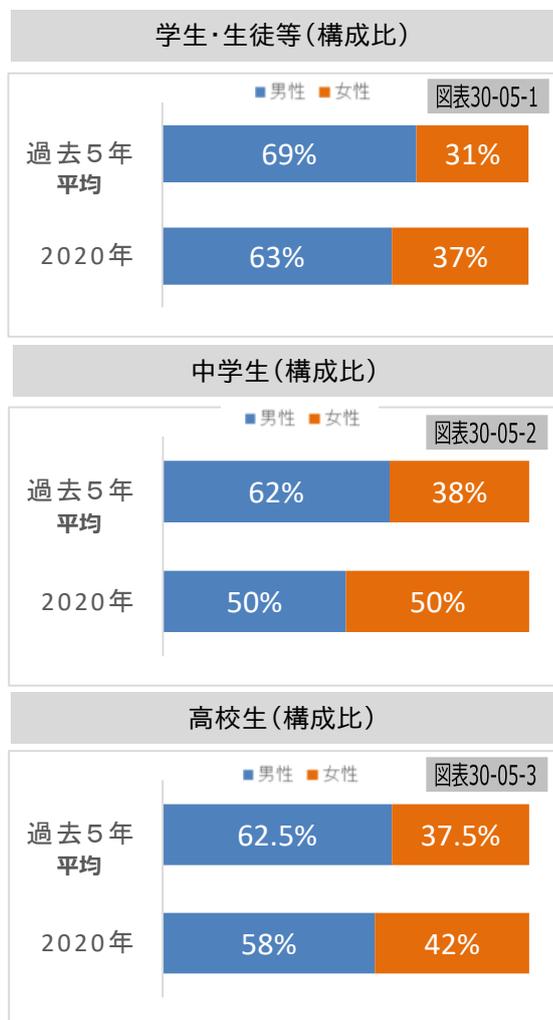
3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-05

学生・生徒等自殺者数の男女構成比の比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 2020年の「学生・生徒等」の男女別構成比を過去5年平均と比較すると、女性の比率が31%から37%へと6ポイント上昇した(図表30-05-1)。
- また、女性の比率が、「中学生」が12ポイント、「高校生」が4.5ポイント、「大学生」が8ポイント上昇した(図表30-05-2,図表30-05-3,図表30-05-4)。

図表30-06

参考 過去10年累計 学生・生徒等の年齢別自殺者数(2011年~2020年)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

職業等	11歳以下	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳以上
小学生	4													
中学生		3	17	20	12									
高校生					20	30	49	30	4	3				
大学生								18	35	58	84	60	31	51
専修学校生等								11	9	12	4	5	4	19

注)年齢不詳は除外している。

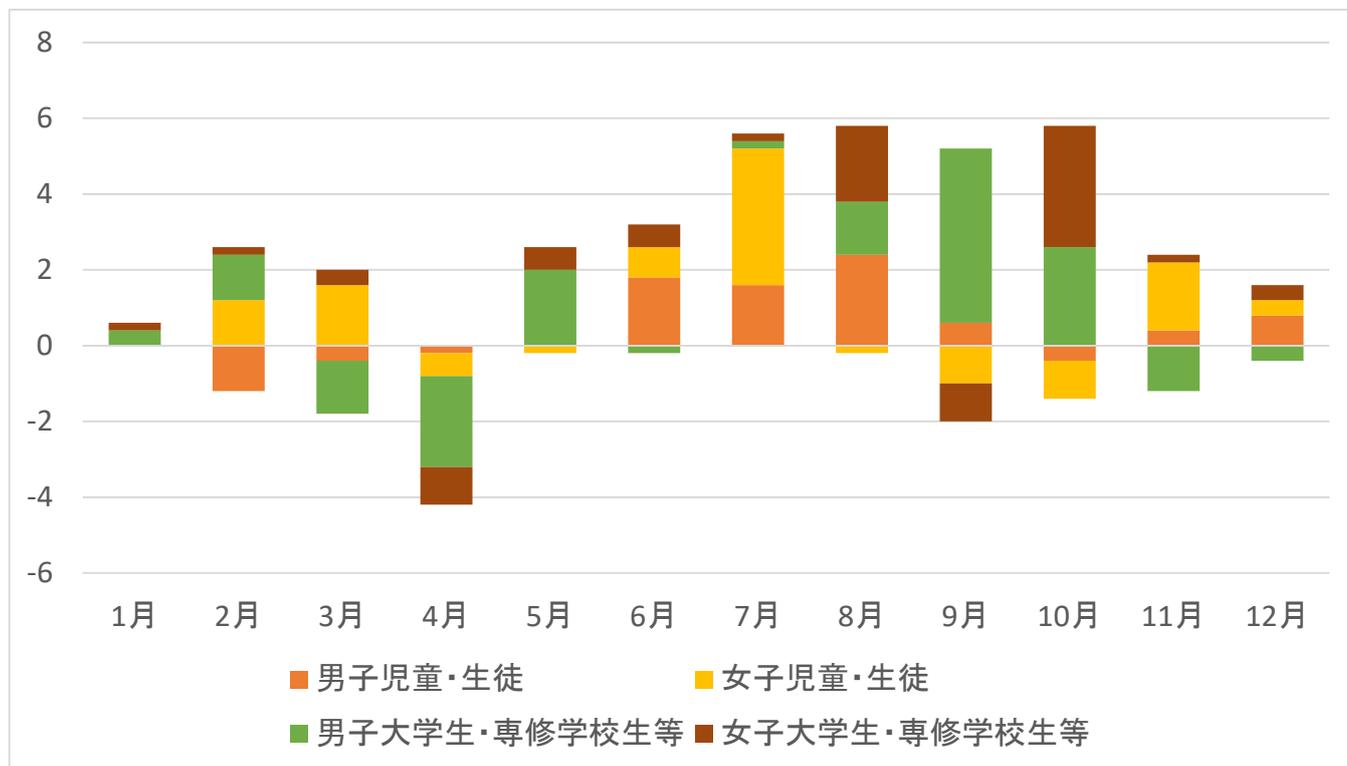
- 参考として過去10年の年齢別自殺者数累計をみると、中学生、高校生、大学生ともに、学齢が高い年齢(高学年)ほど自殺者数が多くなっている。

図表30-07

学生・生徒等の男女別、月別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
男子児童・生徒	0	-1.2	-0.4	-0.2	0	1.8	1.6	2.4	0.6	-0.4	0.4	0.8
女子児童・生徒	0	1.2	1.6	-0.6	-0.2	0.8	3.6	-0.2	-1	-1	1.8	0.4
男子大学生・専修学校生等	0.4	1.2	-1.4	-2.4	2	-0.2	0.2	1.4	4.6	2.6	-1.2	-0.4
女子大学生・専修学校生等	0.2	0.2	0.4	-1	0.6	0.6	0.2	2	-1	3.2	0.2	0.4

- 月別で2020年の「学生・生徒等」の自殺者数を過去5年平均と比較すると、「男子児童・生徒」は「8月」が最も多く、2.4人の増加、「女子児童・生徒」は「7月」が最も多く、3.6人の増加となった。
- 「男子大学生・専修学校生等」は、「9月」の4.6人増が最も多く、「女子大学生・専修学校生等」は、「10月」の3.2人増が最も多かった。

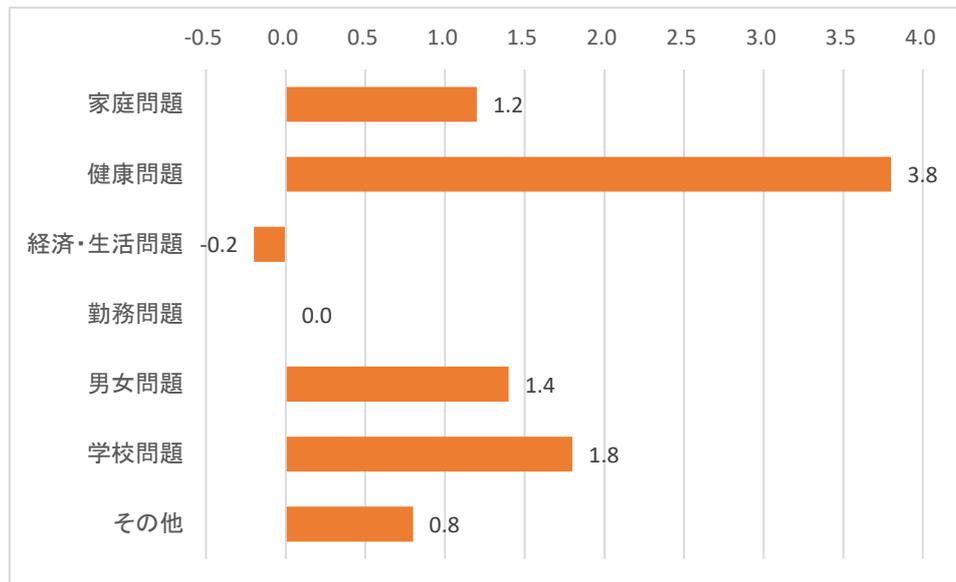
3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-08

児童・生徒の原因・動機別自殺者数の増減(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



児童・生徒	過去5年平均	2020年	増減	増減率
家庭問題	3.8	5	1.2	32%
健康問題	2.2	6	3.8	173%
経済・生活問題	0.2	0	-0.2	-100%
勤務問題	0.0	0	0.0	-
男女問題	0.6	2	1.4	233%
学校問題	7.2	9	1.8	25%
その他	2.2	3	0.8	36%

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

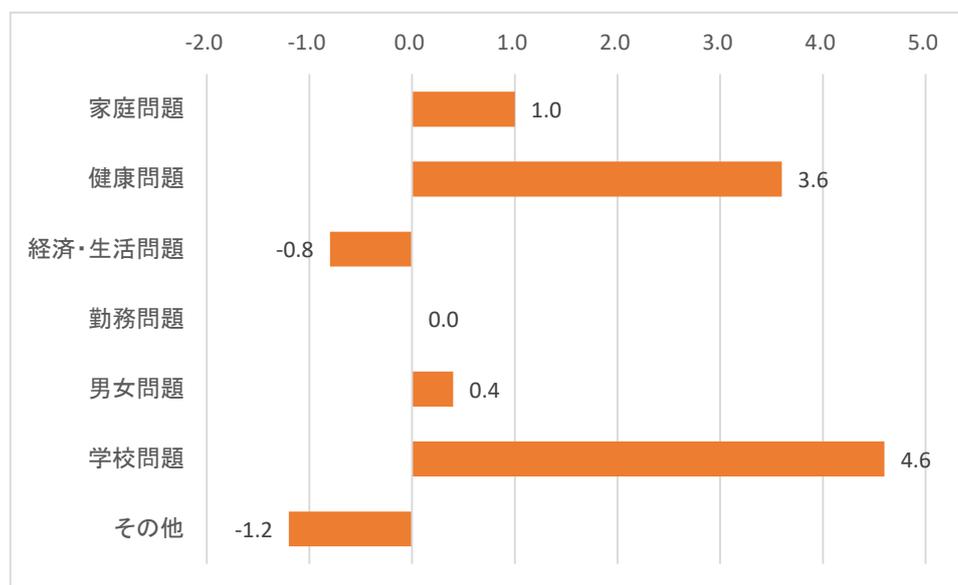
- 2020年の「児童・生徒」の原因・動機別自殺者数では、「学校問題」が最も多く、次いで「健康問題」、「家庭問題」の順となった。
- また、過去5年平均と比較すると、「健康問題」が3.8人増で最も多く、次いで「学校問題」が1.8人増加した。

図表30-09

大学生・専修学校生等の原因・動機別自殺者数の増減(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



大学生・専修学校生等	過去5年平均	2020年	増減	増減率
家庭問題	3.0	4	1.0	33%
健康問題	6.4	10	3.6	56%
経済・生活問題	2.8	2	-0.8	-29%
勤務問題	0.0	0	0.0	-
男女問題	2.6	3	0.4	15%
学校問題	11.4	16	4.6	40%
その他	5.2	4	-1.2	-23%

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の「大学生・専修学校生等」の原因・動機別自殺者数では、「学校問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「家庭問題」、「その他」の順となっている。
- また、過去5年平均と比較すると、「学校問題」が4.6人増で最も多く、次いで「健康問題」が3.6人増加した。

3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-10

原因・動機(小分類)別学生・生徒等自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

区分:学生・生徒等 男性				図表30-10-1	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=36	n=37	n=148	
1	その他進路に関する悩み	25.0%	13.5%	14.2%	学校
2	親子関係の不和	11.1%	5.4%	4.1%	家庭
2	学業不振	11.1%	21.6%	17.6%	学校
4	病気の悩み・影響(うつ病)	8.3%	5.4%	5.4%	健康
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	8.3%	8.1%	5.4%	健康
4	失恋	8.3%	5.4%	2.0%	男女
7	家族からのしつけ・叱責	5.6%	0.0%	2.0%	家庭

区分:学生・生徒等 女性				図表30-10-2	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=28	n=12	n=90	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	14.3%	0.0%	11.1%	健康
2	学業不振	10.7%	8.3%	5.6%	学校
2	孤独感	10.7%	0.0%	3.3%	その他
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	7.1%	8.3%	3.3%	健康
4	その他進路に関する悩み	7.1%	0.0%	10.0%	学校
4	その他学友との不和	7.1%	16.7%	7.8%	学校
4	その他問題その他	7.1%	25.0%	13.3%	その他

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 「学生・生徒等」の原因・動機別自殺者数を小分類で見ると、男性は、「その他進路に関する悩み」が25.0%で比率が最も高く、次いで、「親子関係の不和」及び「学業不振」の11.1%の順となった。また、「その他進路に関する悩み」、「親子関係の不和」は、過去5年平均よりも比率が高い(図表30-10-1)。
- 女性は、「病気の悩み・影響(うつ病)」が14.3%で最も高く、次いで、「学業不振」及び「孤独感」の10.7%の順となった。また、これらはいずれも過去5年平均よりも比率が高い(図表30-10-2)。

学生・生徒等の自殺の増加まとめ

- 「学生・生徒等」の自殺者は、2012年以降減少傾向となり、2018年は40人まで減少したが、2019年以降増加し、2020年は75人となった。
- 過去5年平均と比較して、2020年は、「児童・生徒」「大学生・専修学校生等」のいずれも、男女とも増加となった。増加率の多い順では、「女子児童・生徒」、「女子大学生・専修学校生等」、「男子児童・生徒」、「男子大学生・専修学校生等」であり、女性の方が男性よりも増加率が高かった。
- また、男女構成比をみると、過去5年平均と比較して、女性の比率が6ポイント上昇し、37%となった。女性の比率は特に、「中学生」が12ポイントと最も多く上昇し、次いで、「大学生」が8ポイント、「高校生」が4.5ポイント上昇した。
- 月別自殺者数の状況では、「児童・生徒」は、夏休み期間中を含む7月下旬及び8月上旬において、他の時期より増加した。また、過去5年平均と比較して、「男子児童・生徒」は「8月」が、「女子児童・生徒」は「7月」が最も多く増加した。国の平成27年版自殺対策白書では、18歳以下の自殺について、学校の長期休業明け直後に自殺者が増える傾向にある旨指摘している。なお、2020年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国一斉の臨時休校が3月2日から5月下旬まで行われ、その影響で夏休み期間が変更となるなど、学校運営の状況が例年と異なった状況がある。
- 「大学生・専修学校生等」は、8月下旬から10月下旬にかけて、他の時期より増加した。過去5年平均と比較して、「男子大学生・専修学校生等」は「9月」が、「女子大学生・専修学校生等」は「10月」が最も増加した。
- 「児童・生徒」の原因・動機別では、2020年では「学校問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「家庭問題」の順であり、過去5年平均と比較すると、「健康問題」が最も多く増加し、次いで、「学校問題」の順であった。
- 「大学生・専修学校生等」の原因・動機別では、2020年では「学校問題」が最も多く、次いで「健康問題」・「家庭問題」、「その他」の順であり、過去5年平均と比較すると、「学校問題」が最も多く増加し、次いで「健康問題」の順であった。
- 「学生・生徒等」の原因・動機の小分類では、男性は「その他進路に関する悩み」、「親子関係の不和」、「学業不振」が、女性は「病気の悩み・影響(うつ病)」、「学業不振」、「孤独感」が上位を占めた。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

- 本県では、生きづらさを抱えた方が一人で悩みを抱えないよう、こころの相談窓口の対応を進めてきたが、2020年4月24日から、若年層等電話相談にハードルを抱える方が利用しやすいSNSを活用した「いのちのほっとライン@かながわ」を開設し、相談窓口の拡充を図った。
- このたび、2020年度に委託事業で実施した「いのちのほっとライン@かながわ」の相談実績をまとめた。

【相談実施概要】

- ・相談期間 2020年4月24日～2021年3月31日
- ・相談時間 月～金曜日及び日曜日 17:00～22:00
- ・相談対象 神奈川県内の居住者、通学・通勤者
- ・友だち登録数 9,787人(2021年3月31日現在)
- ・相談対応件数 7,115件
- なお、本稿でのSNS相談内容の集計は、相談員が傾聴・助言するなどしたものを対象とし、書込のみで応答のないものや事務的な案内を除いている。このため、集計に用いた相談件数は5,802件となり、内訳は次の通りである。ただし、性別や年代、職業は、相談内容からの推定である。

性別	相談件数	年齢階級別	相談件数	職業	相談件数
男性	1258	19歳以下	641	自営業・家族従業者	35
女性	4357	20歳代	1050	被雇用者・勤め人	1145
不詳	187	30歳代	1385	学生・生徒等	808
計	5802	40歳代	1463	主婦	77
		50歳以上	920	失業者	192
		不詳	343	その他無職者	198
		計	5802	不詳	3347
				計	5802

図表40-01 相談者の性別、年齢階級別内訳(2020年度)

	相談者数(人)				構成比(%)			
	男性	女性	不詳	合計	男性	女性	不詳	合計
19歳以下	28	164	11	203	1.6%	9.5%	0.6%	11.7%
20歳代	67	300	3	370	3.9%	17.3%	0.2%	21.4%
30歳代	74	318	6	398	4.3%	18.4%	0.3%	23.0%
40歳代	76	267	2	345	4.4%	15.4%	0.1%	19.9%
50歳以上	60	179	2	241	3.5%	10.3%	0.1%	13.9%
不詳	8	77	90	175	0.5%	4.4%	5.2%	10.1%
合計	313	1305	114	1732	18.1%	75.3%	6.6%	100%

注) 年齢、性別は相談内容から推定。

- 相談者数の男女別構成比では、「男性」が18.1%、「女性」が75.3%、「不詳」が6.6%で、相談者の多くを女性が占めた(図表40-01-2)。
- また、年齢階級別・男女別の構成比では、「30歳代・女性」が最も多く、次いで、「20歳代・女性」、「40歳代・女性」の順となった(図表40-01-2)。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-02

相談者の年齢階級別・職業別内訳(2020年度)

男女計

相談者数(人)

図表40-02-1

	自営業・ 家族従 業者	被雇用 者・勤め 人	学生・生 徒等	主婦	失業者	その他 無職者	不詳	合計
19歳以下	0	1	176	0	0	1	25	203
20歳代	3	57	28	4	12	12	254	370
30歳代	2	53	0	12	14	13	304	398
40歳代	8	41	0	7	11	17	261	345
50歳以上	0	29	0	7	7	9	189	241
不詳	1	4	39	2	0	2	127	175
合計	14	185	243	32	44	54	1160	1732

構成比(%)

図表40-02-2

	自営業・ 家族従 業者	被雇用 者・勤め 人	学生・生 徒等	主婦	失業者	その他 無職者	不詳	合計
19歳以下	0.0%	0.1%	10.2%	0.0%	0.0%	0.1%	1.4%	11.7%
20歳代	0.2%	3.3%	1.6%	0.2%	0.7%	0.7%	14.7%	21.4%
30歳代	0.1%	3.1%	0.0%	0.7%	0.8%	0.8%	17.6%	23.0%
40歳代	0.5%	2.4%	0.0%	0.4%	0.6%	1.0%	15.1%	19.9%
50歳以上	0.0%	1.7%	0.0%	0.4%	0.4%	0.5%	10.9%	13.9%
不詳	0.1%	0.2%	2.3%	0.1%	0.0%	0.1%	7.3%	10.1%
合計	0.8%	10.7%	14.0%	1.8%	2.5%	3.1%	67.0%	100%

注) 性別不詳を含む。年齢、性別、職業は相談内容から推定。

- 相談者数を職業別構成比で見ると、「不詳」が67.0%で最も多く、次いで、「学生・生徒等」が14.0%、「被雇用者・勤め人」が10.7%の順となった(図表40-02-2)。
- また、年齢階級別・職業別の構成比では、「不詳」を除くと、「19歳以下の学生・生徒等」が10.2%と最も多く、次いで、「20歳代の被雇用者・勤め人」、「30歳代の被雇用者・勤め人」の順となった(図表40-02-2)。

4【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-03

相談者の年齢階級別・職業別内訳(2020年度)
男性

相談者数(人)

図表40-03-1

	自営業・ 家族従 業者	被雇用 者・勤め 人	学生・生 徒等	主婦	失業者	その他 無職者	不詳	合計
19歳以下	0	0	27	0	0	0	1	28
20歳代	3	11	7	0	2	1	43	67
30歳代	1	13	0	0	5	2	53	74
40歳代	3	17	0	0	3	5	48	76
50歳以上	0	7	0	0	2	3	48	60
不詳	0	0	1	0	0	0	7	8
合計	7	48	35	0	12	11	200	313

構成比(%)

図表40-03-2

	自営業・ 家族従 業者	被雇用 者・勤め 人	学生・生 徒等	主婦	失業者	その他 無職者	不詳	合計
19歳以下	0.0%	0.0%	8.6%	-	0.0%	0.0%	0.3%	8.9%
20歳代	1.0%	3.5%	2.2%	-	0.6%	0.3%	13.7%	21.4%
30歳代	0.3%	4.2%	0.0%	-	1.6%	0.6%	16.9%	23.6%
40歳代	1.0%	5.4%	0.0%	-	1.0%	1.6%	15.3%	24.3%
50歳以上	0.0%	2.2%	0.0%	-	0.6%	1.0%	15.3%	19.2%
不詳	0.0%	0.0%	0.3%	-	0.0%	0.0%	2.2%	2.6%
合計	2.2%	15.3%	11.2%	-	3.8%	3.5%	63.9%	100%

注) 年齢、性別、職業は相談内容から推定。

- 男性の相談者数を職業別構成比で見ると、「不詳」が63.9%で最も多く、次いで、「被雇用者・勤め人」が15.3%、「学生・生徒等」が11.2%の順となった(図表40-03-2)。
- また、年齢階級別・職業別の構成比では、「不詳」を除くと、「19歳以下の学生・生徒等」が8.6%と最も多く、次いで、「40歳代の被雇用者・勤め人」、「30歳代の被雇用者・勤め人」、「20歳代の被雇用者・勤め人」の順となった(図表40-03-2)。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-04

相談者の年齢階級別・職業別内訳(2020年度)
女性

相談者数(人)

図表40-04-1

	自営業・ 家族従 業者	被雇用 者・勤め 人	学生・生 徒等	主婦	失業者	その他 無職者	不詳	合計
19歳以下	0	1	140	0	0	1	22	164
20歳代	0	46	20	4	10	11	209	300
30歳代	1	37	0	12	9	10	249	318
40歳代	5	24	0	7	8	12	211	267
50歳以上	0	22	0	7	5	6	139	179
不詳	0	0	33	1	0	1	42	77
合計	6	130	193	31	32	41	872	1305

構成比(%)

図表40-04-2

	自営業・ 家族従 業者	被雇用 者・勤め 人	学生・生 徒等	主婦	失業者	その他 無職者	不詳	合計
19歳以下	0.0%	0.1%	10.7%	0.0%	0.0%	0.1%	1.7%	12.6%
20歳代	0.0%	3.5%	1.5%	0.3%	0.8%	0.8%	16.0%	23.0%
30歳代	0.1%	2.8%	0.0%	0.9%	0.7%	0.8%	19.1%	24.4%
40歳代	0.4%	1.8%	0.0%	0.5%	0.6%	0.9%	16.2%	20.5%
50歳以上	0.0%	1.7%	0.0%	0.5%	0.4%	0.5%	10.7%	13.7%
不詳	0.0%	0.0%	2.5%	0.1%	0.0%	0.1%	3.2%	5.9%
合計	0.5%	10.0%	14.8%	2.4%	2.5%	3.1%	66.8%	100%

注) 年齢、性別、職業は相談内容から推定。

- 女性の相談者数を職業別構成比で見ると、「不詳」が66.8%で最も多く、次いで、「学生・生徒等」が14.8%、「被雇用者・勤め人」が10.0%の順となった(図表40-04-2)。
- また、年齢階級別・職業別の構成比では、「不詳」を除くと、「19歳以下の学生・生徒等」が10.7%と最も多く、次いで、「20歳代の被雇用者・勤め人」、「30歳代の被雇用者・勤め人」の順となった(図表40-04-2)。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-05

相談者の年齢階級別・相談内容の内訳(2020年度)
男女計

相談件数 男女計(件)

図表40-05-1

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不詳	計
コロナの影響	29	143	167	193	160	51	743
家庭問題	153	203	395	396	235	67	1449
健康問題	139	308	332	435	150	87	1451
経済・生活問題	3	95	169	141	75	16	499
勤務問題	2	191	245	206	129	14	787
男女問題	62	78	113	57	14	4	328
学校問題	233	68	3	45	3	51	403
その他の問題	104	198	318	163	225	52	1060
計	725	1284	1742	1636	991	342	6720

構成比 (%)

図表40-05-2

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不詳	計
コロナの影響	4.0%	11.1%	9.6%	11.8%	16.1%	14.9%	11.1%
家庭問題	21.1%	15.8%	22.7%	24.2%	23.7%	19.6%	21.6%
健康問題	19.2%	24.0%	19.1%	26.6%	15.1%	25.4%	21.6%
経済・生活問題	0.4%	7.4%	9.7%	8.6%	7.6%	4.7%	7.4%
勤務問題	0.3%	14.9%	14.1%	12.6%	13.0%	4.1%	11.7%
男女問題	8.6%	6.1%	6.5%	3.5%	1.4%	1.2%	4.9%
学校問題	32.1%	5.3%	0.2%	2.8%	0.3%	14.9%	6.0%
その他の問題	14.3%	15.4%	18.3%	10.0%	22.7%	15.2%	15.8%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

注) 性別不詳を含む。年齢、性別は推定。相談内容が不詳のものは除外している。

1回の相談が複数の区分に該当する場合がある。また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上している。

- 男女計の相談内容は、「健康問題」が最も多く、次いで、「家庭問題」、「その他の問題」、「勤務問題」の順となった(図表40-05-1)。
- 年齢階級別・相談内容別件数では、「40歳代・健康問題」が最も多く、次いで、「40歳代・家庭問題」、「30歳代・家庭問題」の順となった(図表40-05-1)。
- また、年齢階級別の相談内容の構成比をみると、「19歳以下」は「学校問題」が、「20歳代」は「健康問題」、「30歳代」は「家庭問題」、「40歳代」は「健康問題」、「50歳以上」は「家庭問題」が、それぞれ最も多かった(図表40-05-2)。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-06

相談者の年齢階級別・相談内容の内訳(2020年度)

男性

相談件数 男性(件)

図表40-06-1

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不詳	計
コロナの影響	10	42	54	50	40	1	197
家庭問題	7	23	21	33	64	6	154
健康問題	11	72	42	169	55	7	356
経済・生活問題	2	36	25	62	33	0	158
勤務問題	0	25	70	79	40	0	214
男女問題	14	6	10	9	4	0	43
学校問題	29	16	0	2	0	7	54
その他の問題	13	36	32	28	110	6	225
計	86	256	254	432	346	27	1401

構成比 (%)

図表40-06-2

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不詳	計
コロナの影響	11.6%	16.4%	21.3%	11.6%	11.6%	3.7%	14.1%
家庭問題	8.1%	9.0%	8.3%	7.6%	18.5%	22.2%	11.0%
健康問題	12.8%	28.1%	16.5%	39.1%	15.9%	25.9%	25.4%
経済・生活問題	2.3%	14.1%	9.8%	14.4%	9.5%	0.0%	11.3%
勤務問題	0.0%	9.8%	27.6%	18.3%	11.6%	0.0%	15.3%
男女問題	16.3%	2.3%	3.9%	2.1%	1.2%	0.0%	3.1%
学校問題	33.7%	6.3%	0.0%	0.5%	0.0%	25.9%	3.9%
その他の問題	15.1%	14.1%	12.6%	6.5%	31.8%	22.2%	16.1%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

注) 性別不詳を含む。年齢、性別は推定。相談内容が不詳のものは除外している。

1回の相談が複数の区分に該当する場合がある。また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上している。

- 男性の相談内容は、「健康問題」が最も多く、次いで、「その他の問題」、「勤務問題」の順となった(図表40-06-1)。
- また、年齢階級別・相談内容別件数では、「40歳代・健康問題」が最も多く、次いで、「50歳以上・その他の問題」、「40歳代・勤務問題」の順となった(図表40-06-1)。
- また、年齢階級別の相談内容の構成比をみると、「19歳以下」は「学校問題」、「20歳代」は「健康問題」、「30歳代」は「勤務問題」、「40歳代」は「健康問題」、「50歳以上」は「その他の問題」が、それぞれ最も多かった(図表40-06-2)。

4【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-07

相談者の年齢階級別・相談内容の内訳(2020年度)
女性

相談件数 女性(件)

図表40-07-1

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不詳	計
コロナの影響	19	101	113	141	118	23	515
家庭問題	138	176	372	362	171	46	1265
健康問題	121	236	286	266	94	59	1062
経済・生活問題	1	59	142	78	42	10	332
勤務問題	2	166	174	127	89	2	560
男女問題	44	71	100	47	10	3	275
学校問題	199	51	3	43	3	39	338
その他の問題	86	161	277	134	115	32	805
計	610	1021	1467	1198	642	214	5152

構成比 (%)

図表40-07-2

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	不詳	計
コロナの影響	3.1%	9.9%	7.7%	11.8%	18.4%	10.7%	10.0%
家庭問題	22.6%	17.2%	25.4%	30.2%	26.6%	21.5%	24.6%
健康問題	19.8%	23.1%	19.5%	22.2%	14.6%	27.6%	20.6%
経済・生活問題	0.2%	5.8%	9.7%	6.5%	6.5%	4.7%	6.4%
勤務問題	0.3%	16.3%	11.9%	10.6%	13.9%	0.9%	10.9%
男女問題	7.2%	7.0%	6.8%	3.9%	1.6%	1.4%	5.3%
学校問題	32.6%	5.0%	0.2%	3.6%	0.5%	18.2%	6.6%
その他の問題	14.1%	15.8%	18.9%	11.2%	17.9%	15.0%	15.6%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

注) 性別不詳を含む。年代、性別、は推定。相談内容が不詳のものは除外している。

1回の相談が複数の区分に該当する場合がある、また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上している。

- 女性の相談内容は、「家庭問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「その他の問題」、「勤務問題」の順となった(図表40-07-1)。
- 年齢階級別・相談内容別件数では、「30歳代・家庭問題」が最も多く、次いで、「40歳代・家庭問題」、「30歳代・健康問題」の順となった(図表40-07-1)。
- また、年代別の相談内容の構成比をみると、「19歳以下」は「学校問題」、「20歳代」は「健康問題」、「30歳代」は「家庭問題」、「40歳代」は「家庭問題」、「50歳以上」は「家庭問題」が、それぞれ最も多かった(図表40-07-2)。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-08 相談分類別の相談内容(2020年度)

- 相談者の相談内容を、概ね自殺統計の小分類を参考にして区分し、集計したものである。
- 1回の相談が複数の区分に該当する場合がある、また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上しているため、件数は相談者数とは異なる。

コロナの影響に関する相談内容

	相談内容	件数
1	生活環境の変化	289
2	感染の不安	247
3	休業・失業・減収など	115
4	将来への不安	30
5	労働環境の変化(テレワーク含む)	22
6	コロナの影響その他	13
7	孤立感	11
8	学習環境の変化(オンライン授業含む)	10
9	就職活動困難	6
	計	743

- 「コロナの影響」は、相談内容から、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言等による社会生活の影響を受けていると思われる相談を独自に区分して集計したものである。
- 「コロナの影響」に関する相談では、「生活環境の変化」が最も多く、次いで、「感染の不安」、「休業・失業・減収など」の順となった。

家庭問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	親子関係の不和	283
2	子育ての悩み	223
3	夫婦関係の不和	189
4	家族の死亡	172
5	その他家族関係の不和	162
6	介護・看病疲れ	152
7	家族の将来悲観	100
8	被虐待	90
9	家庭問題その他	65
10	家族からのしつけ・叱責	13
	計	1449

- 「家庭問題」では、「親子関係の不和」が最も多く、次いで、「子育ての悩み」、「夫婦関係の不和」の順となった。

健康問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	424
2	健康問題その他	278
3	病気の悩み・影響(うつ病)	274
4	病気の悩み(身体の病気)	215
5	自己肯定感の欠如	115
6	身体障害の悩み	89
7	病気の悩み・影響(統合失調症)	49
8	病気の悩み・影響(アルコール等依存症)	7
	計	1451

- 「健康問題」では、「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」が最も多く、次いで、「健康問題その他」、「病気の悩み・影響(うつ病)」の順となった。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

経済・生活問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	生活苦	335
2	離職・休業・失業	65
3	就職・転職	60
4	負債	21
5	事業不振	14
6	経済生活問題その他	4
	計	499

- 「経済・生活問題」では、「生活苦」が最も多く、次いで、「離職・休業・失業」、「就職・転職」の順となった。

勤務問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	職場の人間関係	460
2	仕事疲れ	124
3	職場環境の変化	115
4	仕事の失敗	40
5	勤務問題その他	36
6	ハラスメント	12
	計	787

- 「勤務問題」では、「職場の人間関係」が最も多く、次いで、「仕事疲れ」、「職場環境の変化」の順となった。

男女問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	その他交際をめぐる悩み	139
2	結婚をめぐる悩み	61
3	DV	33
4	男女問題その他	30
5	失恋	27
6	不倫の悩み	20
7	交際をめぐる悩み(LGBT)	18
	計	328

- 「男女問題」では、「その他交際をめぐる悩み」が最も多く、次いで、「結婚をめぐる悩み」、「DV」の順となった。

学校問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	その他学友との不和	93
2	学業不振	62
3	その他進路に関する悩み	61
4	学校問題その他	58
5	いじめ	57
6	教師との人間関係	40
7	不登校	17
8	入試に関する悩み	15
	計	403

- 「学校問題」では、「その他学友との不和」が最も多く、次いで、「学業不振」、「その他進路に関する悩み」の順となった。

その他の問題に関する相談内容

	相談内容	件数
1	孤独感	507
2	希死念慮	205
3	その他人間関係	143
4	その他問題その他	120
5	近隣関係	59
6	犯罪被害	18
7	喪失感・離別	8
	計	1060

- 「その他の問題」では、「孤独感」が最も多く、次いで、「希死念慮」、「その他人間関係」の順となった。

図表40-09 年齢階級別の主な相談(2020年度)

19歳以下

分類	相談内容	件数
家庭	親子関係の不和	81
健康	健康問題その他	65
学校	その他学友との不和	57
学校	学校問題その他	42
学校	いじめ	37
学校	教師との人間関係	36
その他	孤独感	35
男女	その他交際をめぐる悩み	32
健康	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	29
その他	その他人間関係	27
学校	学業不振	24
その他	希死念慮	24
健康	自己肯定感の欠如	23
家庭	その他家族関係の不和	21
健康	病気の悩み(身体の病気)	18

- 年齢階級別に相談内容の詳細をみると、「19歳以下」は、「親子関係の不和」が最も多く、次いで、「健康問題その他」、「その他学友との不和」の順となった。
- 上位15位のうち、「学校問題」が5つで最も多く、次いで、「健康問題」が4つ、「その他の問題」が3つ、「家庭問題」が2つの順となった。
- 「学校問題」では、学友や教師との人間関係、いじめ、学業不振、「健康問題」では、精神面・身体面での悩み、「その他」では、孤独感、その他人間関係、希死念慮、「家庭問題」では、親やその他家族関係の不和が上位となった。

20歳代

分類	相談内容	件数
健康	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	103
勤務	職場の人間関係	102
健康	病気の悩み・影響(うつ病)	69
その他	孤独感	66
健康	健康問題その他	58
家庭	親子関係の不和	55
経済・生活	生活苦	55
勤務	仕事疲れ	50
その他	その他問題その他	49
コロナ影響	生活環境の変化	48
その他	希死念慮	48
健康	自己肯定感の欠如	42
男女	その他交際をめぐる悩み	42
コロナ影響	感染の不安	39
家庭	被虐待	38

- 「20歳代」は、「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」が最も多く、次いで、「職場の人間関係」、「病気の悩み・影響(うつ病)」の順となった。
- 上位15位のうち、「健康問題」が4つ、「その他の問題」が3つ、「勤務問題」・「家庭問題」・「コロナの影響」がそれぞれ2つの順となった。
- 「健康問題」では、うつ病やその他の精神疾患等精神面等での悩み、「その他の問題」では、孤独感や希死念慮、「勤務問題」では、職場の人間関係や仕事疲れ、「家庭問題」では、親子関係の不和、被虐待、「コロナの影響」では、生活環境の変化や感染の不安が上位になった。

注) 年代は推定。

内容不詳を除いて集計し、各年代で件数の多い順に15件を表示している。

1回の相談が複数の区分に該当する場合がある、また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上しているため、件数は相談者数とは異なる。

4【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

30歳代

分類	相談内容	件数
その他	孤独感	184
勤務	職場の人間関係	149
健康	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	123
経済・生活	生活苦	121
家庭	家族の死亡	83
コロナ影響	生活環境の変化	81
家庭	夫婦関係の不和	63
家庭	家族の将来悲観	63
その他	希死念慮	60
家庭	子育ての悩み	59
健康	病気の悩み・影響（うつ病）	59
健康	病気の悩み（身体の病気）	56
健康	健康問題その他	52
コロナ影響	感染の不安	48
その他	その他人間関係	46

40歳代

分類	相談内容	件数
健康	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	124
勤務	職場の人間関係	121
家庭	子育ての悩み	105
経済・生活	生活苦	99
健康	病気の悩み・影響（うつ病）	93
コロナ影響	生活環境の変化	77
コロナ影響	感染の不安	74
健康	身体障害の悩み	73
家庭	親子関係の不和	72
健康	健康問題その他	62
家庭	夫婦関係の不和	55
家庭	その他家族関係の不和	52
その他	孤独感	51
健康	病気の悩み（身体の病気）	45
勤務	職場環境の変化	42

50歳以上

分類	相談内容	件数
その他	孤独感	155
勤務	職場の人間関係	80
家庭	介護・看病疲れ	75
健康	病気の悩み（身体の病気）	60
コロナ影響	生活環境の変化	56
コロナ影響	感染の不安	52
経済・生活	生活苦	47
コロナ影響	休業・失業・減収など	45
家庭	夫婦関係の不和	45
その他	近隣関係	42
健康	病気の悩み・影響（うつ病）	33
家庭	子育ての悩み	32
健康	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	27
勤務	職場環境の変化	25
家庭	家族の死亡	23

注）年代は推定。内容不詳を除いて集計し、各年代で件数の多い順に15件を表示している。1回の相談が複数の区分に該当する場合がある、また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上しているため、件数は相談者数とは異なる。

- 「30歳代」は、「孤独感」が最も多く、次いで、「職場の人間関係」、「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」の順となった。
- 上位15位のうち、「健康問題」と「家庭問題」が4つずつで最も多く、次いで、「その他の問題」が3つの順となった。
- 「健康問題」では精神面、身体面での悩み、「家庭問題」では、家族の死亡、夫婦関係の不和、家族の将来悲観、子育ての悩み、「その他の問題」では孤独感や希死念慮、その他人間関係が上位となった。
- 「40歳代」は、「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」が最も多く、次いで、「職場の人間関係」、「子育ての悩み」の順となった。
- 上位15位のうち、「健康問題」が5つで最も多く、次いで、「家庭問題」が4つ、「勤務問題」・「コロナの影響」が2つずつの順となった。
- 「健康問題」では、精神面、身体面での悩み、「家庭問題」では、子育ての悩み、親子や夫婦関係等の不和、「勤務問題」では、職場の人間関係や職場環境の変化、「コロナの影響」では、生活環境の変化、感染の不安が上位になった。
- 「50歳以上」は、「孤独感」が最も多く、次いで、「職場の人間関係」、「介護・看病疲れ」の順となった。
- 上位15位のうち、「家庭問題」が4つで最も多く、次いで、「健康問題」・「コロナの影響」が3つずつの順となった。
- 「家庭問題」では、介護・看病疲れ、夫婦関係の不和、子育ての悩み、家族の死亡、「健康問題」では、精神面、身体面での悩み、「コロナの影響」では、生活環境の変化、感染の不安、休業・失業・減収などが上位になった。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-10 職業別の主な相談(2020年度)

有職者(自営業・家族従事者と被雇用者・勤め人)

分類	相談内容	件数
勤務	職場の人間関係	231
その他	孤独感	169
健康	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	91
経済・生活	生活苦	78
健康	身体障害の悩み	74
家庭	家族の将来悲観	64
健康	病気の悩み・影響(うつ病)	64
コロナ影響	感染の不安	60
コロナ影響	生活環境の変化	57
その他	希死念慮	51
勤務	仕事疲れ	50
勤務	職場環境の変化	39
その他	その他人間関係	30
健康	病気の悩み(身体の病気)	29
コロナ影響	休業・失業・減収など	27

- 「有職者」の相談では、「職場の人間関係」が最も多く、次いで、「孤独感」、「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」の順となった。
- 上位15位のうち、「健康問題」が4つで最も多く、次いで、「勤務問題」・「コロナの影響」・「その他の問題」が3つずつの順となった。
- 「健康問題」では精神面、身体面での悩み、「勤務問題」では、職場の人間関係や仕事疲れ、職場環境の変化、「コロナの影響」では、感染の不安、生活環境の変化、休業・失業・減収など、「その他の問題」では、孤独感、希死念慮、その他人間関係が上位となった。

学生・生徒等

分類	相談内容	件数
家庭	親子関係の不和	95
健康	健康問題その他	91
学校	その他学友との不和	61
学校	その他進路に関する悩み	53
健康	自己肯定感の欠如	47
学校	学校問題その他	47
学校	いじめ	46
その他	孤独感	46
健康	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	43
学校	学業不振	41
その他	その他問題その他	41
その他	その他人間関係	40
その他	希死念慮	37
学校	教師との人間関係	36
男女	その他交際をめぐる悩み	33

- 「学生・生徒等」の相談では、「親子関係の不和」が最も多く、次いで、「健康問題その他」、「その他学友との不和」の順となった。
- 上位15位のうち、「学校問題」が6つで最も多く、次いで、「その他の問題」が4つ、「健康問題」が3つの順となった。
- 「学校問題」では、学友や教師との関係、いじめ、進路や学業に関する悩み、「その他の問題」では、孤独感やその他人間関係、希死念慮、「健康問題」では精神面での悩みや自己肯定感の欠如が上位となった。

注) 職業は推定。

内容不詳を除いて集計し、件数の多い順で表示している。件数が少ないものは除外している。

1回の相談が複数の区分に該当する場合がある、また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上しているため、件数は相談者数とは異なる。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

主婦

分類	相談内容	件数
健康	病気の悩み（身体の病気）	14
家庭	夫婦関係の不和	12
家庭	子育ての悩み	10
家庭	家族の将来悲観	7
健康	病気の悩み・影響（うつ病）	7

- 「主婦」の相談では、「病気の悩み(身体の病気)」が最も多く、次いで、「夫婦関係の不和」、「子育ての悩み」の順となった。
- その他、「家族の将来悲観」や「病気の悩み・影響(うつ病)」も上位となった。

失業者

分類	相談内容	件数
経済・生活	生活苦	32
コロナ影響	休業・失業・減収など	31
経済・生活	離職・休業・失業	27
その他	孤独感	22
健康	病気の悩み・影響（うつ病）	16
健康	健康問題その他	16
家庭	親子関係の不和	14
健康	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	12
家庭	夫婦関係の不和	11

- 「失業者」の相談では、「生活苦」が最も多く、次いで、「休業・失業・減収など」、「離職・休業・失業」の順となった。
- その他、「孤独感」や、精神面での悩み、親子や夫婦関係の不和も上位となった。

その他無職者

分類	相談内容	件数
健康	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	39
健康	病気の悩み・影響（うつ病）	30
経済・生活	生活苦	26
コロナ影響	休業・失業・減収など	19
経済・生活	離職・休業・失業	16
健康	自己肯定感の欠如	13
家庭	夫婦関係の不和	12
その他	孤独感	12

- 「その他無職者」の相談では、「病気の悩み・影響(その他の精神疾患)」が最も多く、次いで、「病気の悩み・影響(うつ病)」、「生活苦」の順となった。
- その他、「休業・失業・減収など」、「離職・休業・失業」、「自己肯定感の欠如」、「夫婦関係の不和」、「孤独感」が上位となった。

注) 職業は推定。

内容不詳を除いて集計し、件数の多い順で表示している。件数が少ないものは除外している。

1回の相談が複数の区分に該当する場合がある、また、同一人の複数回の相談はそれぞれ計上しているため、件数は相談者数とは異なる。

図表40-11 頻出ワードからみた相談の傾向(2020年度)

●強い傾向 ○傾向がみられる

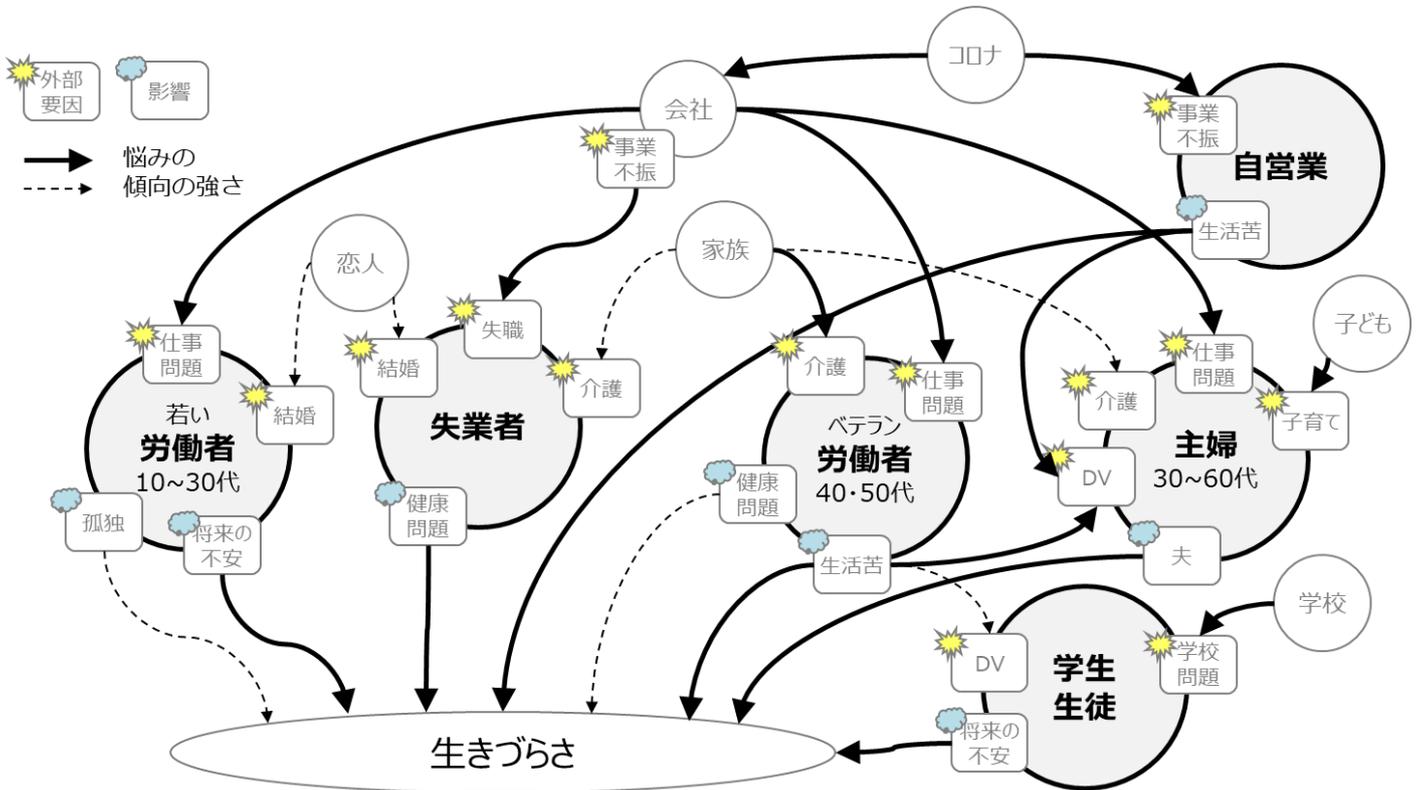
性別・年代・職業		頻出ワード										
		仕事	生活 苦	将来	健康	介護	子育 て	夫	DV	学校	結婚	孤独
性別	男性	●	●			○	○					
	女性	●	○	○	○		○	●	○	○		
年代	10代・20代	●	○	●					○	●		
	30代	●		●	○			●			○	○
	40代	●	○			○		●	○			
	50代・60代	○	●		○	●		●	○			
職業	失業者	●			●	○					○	
	被雇用者・勤め人	●	●								○	○
	自営者・家族従業者	●	●						●			
	主婦	●	●			○	●	●				
	学生・生徒等			●					○	●		

注) 年齢、性別、職業は相談内容から推定。

- SNS相談の記録を用いて、相談者の属性と関連性の強い頻出ワードを抽出した。
- これは、SNS相談記録を機械的に処理して頻出ワードを抽出し、特徴的なワードを対象とした上で、語句の結びつきの強さ(関連性)を調べている。関連性が強いものを黒丸(●)で示している
- これらの頻出ワードから、「学生・生徒等」を除く、すべての属性で「勤務問題」が、また、多くの職種で「経済・生活問題」が、若年層や学生では「将来への不安」が、「主婦」からは「家庭問題」が、学生からは「学校問題」が、「30代」と「被雇用者・勤め人」からは「孤独感」に関する相談が多い傾向がみえる。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-12 頻出ワードからみた相談の傾向(2020年度)



- この図は、SNSの相談の傾向(前項参照)から、外部要因とその影響にわけて「悩みの経路」を推定したものである。

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

図表40-13 相談者の相談回数(2020年度)

年間相談回数	人数	構成比
1回	971	56.1%
2回	319	18.4%
3回	137	7.9%
4回	53	3.1%
5回	46	2.7%
6回	28	1.6%
7回	38	2.2%
8回	22	1.3%
9回	16	0.9%
10回以上	55	3.2%
20回以上	22	1.3%
30回以上	25	1.4%
計	1732	100%

- 相談回数は、「1回」が56.1%と最も多く、次いで、「2回」が18.4%、「3回」が7.9%の順に多く、「1～3回」までで、8割を超えている。
- 平均値は3.3回、中央値は1回である。

図表40-14 メッセージ件数(2020年度)

メッセージ数	件数	構成比
10回未満	1548	26.7%
10回以上50回未満	3413	58.8%
50回以上100回未満	719	12.4%
100回以上200回未満	112	1.9%
200回以上	10	0.2%
計	5802	100%

- 「メッセージ件数」とは、1回の相談で相談者が送信したLINEトーク数であるが、「10回以上50回未満」が58.8%と最も多くなっている。

図表40-15 自殺念慮(2020年度)

	件数	構成比
自殺念慮あり	909	15.7%
なし又は不詳	4893	84.3%
計	5802	100%

- 「自殺念慮あり」と思われる相談は909件で、全体の15.7%を占める。

図表40-16 自殺未遂歴の有無(2020年度)

	人数	構成比
自殺未遂歴あり	120	6.9%
なし又は不詳	1612	93.1%
計	1732	100%

- メッセージから、自殺未遂歴があると考えられるものは120人で、全体の6.9%を占める。

おわりに

- 2020年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を社会全体で大きく受けた年であった。
- この間、緊急事態宣言等による外出自粛、三密を避けることによる人との接し方の変化、テレワーク等働き方における変化、経済状況による雇止めや休業・廃業、休校やオンライン授業等、学校生活における変化等、これまでと異なる日常生活を送ることとなったことで、多くの人が、新型コロナウイルスの感染の不安も加えて、大きな不安やストレスを抱えた状況にあった。
- こうした中、近年減少傾向であった本県の自殺者数は、増加に転じ、「女性」や「学生・生徒等」が大きく増加した。特に、「女性」では、「被雇用者・勤め人」や「主婦」の増加が目立ち、「被雇用者・勤め人」では、主に「若年層」の増加が見られた。また、「若年層」の「被雇用者・勤め人」の自殺者の増加は男性でもみられ、2020年の自殺の原因・動機では、男女ともに「勤務問題」や「家庭問題」、「学校問題」の比率が上昇した。
- この背景として、働き方の変化や、経済的な面も含めた将来への不安、学校生活の変化、生活スタイルが変化したことに伴う人との関わり方についての悩み、家庭内での時間が増えたことによる家庭問題の顕在化等といった、コロナ禍における影響を受けたことが一因としてあるのではないかと推察される。また、SNSの相談にも、こうした悩みが多く寄せられている状況である。
- 今回、過去の自殺統計の分析と併せてコロナ禍における自殺の状況を分析し、本県の自殺の傾向把握に加え、コロナ禍における自殺者の傾向の把握が一定程度行えた。
- 今後、県では、今回の分析結果から得られた属性別の特徴を踏まえ、また、「ウイズコロナ」等新たな生活環境を考慮した効果的な対策を、関係機関と連携して検討し、自殺対策の強化に努めていくとともに、自殺の動向について、今後も引き続き、注視しながら対策を進めていくこととしたい。
- 最後に、本資料の作成に当たり、御協力及び御助言をいただきました、公立大学法人神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 准教授 津野香奈美氏及び関係者の皆様に、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における自殺の状況

2021年12月発行

発行

神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

TEL: 045(210)4727(直通)

FAX: 045(210)8860

URL: <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/jisatsutaisaku/toukei/r1.html>



神奈川県

健康医療局保健医療部がん・疾病対策課 電話(045)210-4727(直通) FAX(045)210-8860
横浜市中区日本大通1-231-8588 FAX(045)210-8860

URL : <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/jisatsutaisaku/toukei/r1.html>